

平成30年度

研修集録

第 33 号

秋田市立秋田商業高等学校



発刊に寄せて

校長 石 井 潔

今年度の研修のテーマを、「組織的・継続的に取り組む授業改善 ～確かな学力の育成をめざして～」と設定し、先生方に1年間質の高い授業を目指して、組織的・継続的に授業改善に取り組んでいただきましたが、皆さんいかがであったでしょうか。生徒達は主体的に授業に参加し、学び合い・教え合いを通して、知ることの楽しさを味わうことができたでしょうか。そして、本校が求める「基礎学力の向上」につながったでしょうか。

県教育委員会では、平成31年3月に、平成30年度秋田県高等学校学力・学習状況調査の結果の概要を報告しましたが、その中で学力調査と学習状況調査のクロス分析をしております。それによると、平均正答率と「普段の授業では、生徒同士で意見交換したり、自分の考えを発表したりする活動をよく行っていると思いますか？」の質問とのクロス分析を行ったところ、授業で話し合いや発表がよく行われていると感じている生徒の平均正答率は、そうでない生徒に対して、高い傾向が見られるという分析結果が出ました。これは、昨年度の分析結果でも同様な結果が見られました。どういうことかということ、授業では、仲間と話し合いながら課題に取り組んだり、自分の考えを発表したりする学習活動が、生徒の学力向上に確実に結びついていることを示しているということでもあります。アクティブラーニング（AL）等の生徒参加型の授業は、生徒の学力向上に確実に結びつく授業であることがこの分析結果からも明らかであります。

さて、私も先生方のアピール授業をいくつか拝見させていただきましたが、ワールドカフェや知識構成型ジグソー法等のいわゆるアクティブラーニング（AL）の手法を積極的に取り入れ、生徒を授業に参加させ、意見交換をしたり、考えをまとめて発表させたりする授業提示が見られました。それらの授業では、生徒達に向き合う時間を多く取れるよう、ICT等の視聴覚教材を有効に使って時間の効率を図る努力もなされており、授業者の「授業づくりの考え方」や「こつ」、「苦労話」が知りたくなり、わくわく感を持って拝見させていただきました。生徒達はよく理解できたものと思われま。

本研修集録は、アピール授業の取り組みの他にも、指導主事訪問での研究授業の報告や校内職員研修の記録、校外研修やインドでの研修報告と、盛りだくさんであります。先生方の1年間の研修で取り組んできた学習指導の「技」や「こつ」、研修で得てきた教育に係る情報がたくさん詰まっております。どうか、一読いただいて、国内外や秋田県の教育事情について見識を深めるとともに、ご自分の学習指導と照らし合わせながら、授業改善のヒントを見つけ、来年度の授業づくりの設計図を描く際の参考にしていただければ幸いです。そして、今後とも失敗を恐れず新しい取り組みに挑戦していただくことを期待しております。

最後になりますが、執筆に協力していただいた先生方、ならびに編集や校正に際してご尽力いただいた研修部の先生方に衷心より感謝を申し上げ、巻頭のあいさつといたします。

目 次

◎ 巻頭言 「発刊に寄せて」	校長 石井 潔	……………	1
I 指導主事訪問（研究授業）			
1. 日程・訪問指導主事	教務部	……………	3
2. 研究授業の指導案と協議会			
①数学；授業者（佐々木絵里）・協議会記録（船山毅）	数学科	……………	4
②英語；授業者（工藤裕文）・協議会記録（戸田潤子）	英語科	……………	12
3. 全体協議会	教務部	……………	18
II 校内職員研修の記録			
1. 第1回「教育改革と求められる対応の方向性について」	研修部	……………	22
2. 第2回「支援を必要とする生徒の理解とユニバーサルデザインに基づいた授業づくり」	研修部	……………	27
III 中高連携			
1. 勝平地区小・中・高・特別支援学校連携協議会参加報告	研修部	……………	29
2. 勝平中学校授業参観及び各教科研究協議会参加報告	研修部	……………	30
3. 勝平中学校2年生による商業科目授業体験	商業科 櫻庭 咲子 柏谷亜紀子	……………	32
IV 授業公開週間について			
1. 実施報告	研修部	……………	37
2. 授業紹介	研修部	……………	43
3. 授業をセルフチェック	教務部	……………	46
V 報 告			
1. ビジネス実践			
①AKISHOP「ビジネス実践『AKISHOP』」	商業科 櫻庭 咲子	……………	47
②キッズビジネスタウン「平成30年度キッズビジネスタウンの取り組み」	商業科 石田 雄哉	……………	50
③エコロジカルビジネス「環境問題について考える」	英語科 櫻田 洋子	……………	52
2. 学校視察	将来構想委員（商業科）川村 寿紀 石田 雄哉	……………	53
3. センター研修B講座			
①「養護教諭が行うフィジカルケア研修講座」	養護教諭 高橋 千里	……………	58
②「各教科等の指導における言語活動の充実」	国語科 大関 由理	……………	61
4. 「特別支援教育コーディネーター研修」	保健・教育相談部（保健体育科）加賀谷大輔	……………	68
5. 「高等学校中堅教諭資質向上研修講座を受講して」	商業科 大久保 薫	……………	70
6. インド研修「平成30年度 第52回海外商業教育事情視察」	商業科 櫻庭 咲子	……………	77
VI 平成30年度研修対象者・研究会等参加者一覧		……………	82
VII 編集後記	研修部	……………	84

平成30年度 指導主事訪問

1 期日：平成30年9月25日（火）

2 訪問指導主事

秋田市教育委員会学校教育課主査 指導主事	堀井 淑子 先生
秋田市教育委員会学校教育課主査 指導主事（数学）	小納 英之 先生
秋田市教育委員会学校教育課主査 指導主事（英語）	山尾 有美 先生
秋田県教育庁高校教育課 指導主事（数学）	伊藤 淳 先生
秋田県教育庁高校教育課 指導主事（英語）	佐藤 純一 先生

3 研修テーマ

組織的・継続的に取り組む授業改善 ～確かな学力の育成をめざして～

4 日程

時 間	内 容	授 業
9：15～10：00	1校時	通常
10：10～10：55	2校時	通常
11：05～11：50 11：20～ 11：30～11：50	3校時 指導主事来校 学校経営説明＜校長室＞	火曜日4校時
12：00～12：50	4校時 校内授業参観	火曜日3校時
12：50～13：30	昼食＜校長室＞	
13：30～14：20	5校時 研究授業（数学・英語）	火曜日6校時 *1C数学I →コミ英語I 1C残り14名 は語学室（英語科対応） 全員どちらかの授業を見学します。 見学中の授業は自習になります。
	科目名 コミュニケーション英語I 内 容 Lessn6 J.K.Rowling:Everyone Has Hidden Power 授業者 工藤裕文、ジョン・エアー（ALT） 生徒 1年C組26名〈場所1年C組教室〉	
	科目名 数学I 内 容 3章2次関数 2次関数の最大・最小 授業者 佐々木絵里 生徒 1年D組40名〈場所1年D組教室〉	
	①他のクラスは通常授業。 ②研究授業の様子はビデオ撮影します。	
14：20～14：40	生徒：清掃活動、放課	
14：45～15：35	各科協議会：数 学 科 ＜会議室＞ 英 語 科 ＜語学室＞ ①全員の先生がどちらかの協議会に参加します。 ②必要に応じて撮影したビデオを参考にできます。	
15：45～16：30	全体協議会＜会議室＞ ①指導助言 秋田県教育庁高校教育課 伊藤 淳先生 ②総評 秋田市教育委員会学校教育課 堀井淑子先生 ③校長より	

第1学年D組 数学科数学 I 学習指導案

日 時：平成30年9月25日（火） 5校時
 場 所：1年D組教室
 指 導 者：佐々木 絵里
 使用教科書：新編数学 I（第一学習社）

1 単 元 名 3章 2次関数

2 単元の指導目標

2次関数の値の変化について、グラフを用いて考察することができる。関数の最大値・最小値は、定義域によって決まることを理解させ、定義域に制限がある場合の2次関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。

3 生徒と単元

男子18名・女子22名の計40名のクラスである。落ち着いた雰囲気だが、授業中は積極的に発言する生徒も多く見られる。数学を苦手としている生徒が多数いる一方、数学的な能力の高い生徒も数名いる。また、グループ活動をした際には、お互いに協力しながら取り組むことができる。

4 指導と評価の計画

1節 2次関数とそのグラフ		
1 関数		1時間
2 $y=ax^2$ のグラフ		1時間
3 $y=ax^2+q$ のグラフ		1時間
4 $y=a(x-p)^2$ のグラフ		1時間
5 $y=a(x-p)^2+q$ のグラフ		1時間
6 $y=ax^2+bx+c$ のグラフ		1時間
7 2次関数の最大・最小		4時間（本時4/4）
8 2次関数の決定		3時間

評価規準

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
2次関数の値と定義域や軸の変化に関心を持ち、さまざまな事象の考察に最大・最小を活用しようとしている。	2次関数の値と定義域や軸の変化の様子について、グラフを用いて考察することができる。	2次関数のグラフや式を用いて、2次関数の最大値・最小値を求めることができる。	2次関数の最大値・最小値とその求め方について理解している。

5 本時のねらい

定義域が変化する場合でもグラフや式を用いて、最大値・最小値を求めることができる。

6 本時の指導計画

	○指導内容・◎学習活動	指導上の留意点	☆評価の観点・★評価方法
導入 5分	◎定義域に制限がある場合の最大値・最小値の確認をする。	・軸が定義域の外側にあるときと内側にあるときのグラフを板書し、視覚的に確認する。	
展開 40分	○ $y=x^2-2x+3(0\leq x\leq a)$ の最小値を求める問題を提示する。 ◎平方完成の後、グラフをかき、最小値をとる x の値を考える。	・ a の値を場合分けした問題にする。 ・机間指導で平方完成の仕方やグラフのかき方に悩んでいる生徒に説明する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 発問：定義域の変化と最大値・最小値の変化にはどのような関係があるのだろうか。 </div> ◎最大値の場合はどうなるか班で話し合い、問題を解く。 ◎班の代表者が発表する。	・軸が定義域の範囲にあるかないかが最小値に関係があることを気づかせる。 ・軸と定義域の両端の距離が最大値に関係があることを気づかせる。 ・机間指導で問題につまずいている班に説明する。 ・視覚的にわかるように板書させ、説明する。	☆グラフや用語を用いて表現することができる。(数学的な技能) ★発表や机間指導中にプリントや話し合いの態度を見る。
まとめ 5分	◎今日の授業をプリントにまとめる。 ◎次時の予告	・今日の授業で気づいたことをプリントにまとめさせる。 ・軸が定まっていない場合の問題について予告する。	

本時の目標

グラフや式を利用して、最大値・最小値を求めることができる。

1 2次関数 $y=x^2-2x+3$ ($0 \leq x \leq a$)の最小値を、次の場合について求めよ。

- (1) $0 < a < 1$ (2) $1 \leq a$

2 2次関数 $y=x^2-2x+3$ ($0 \leq x \leq a$)の最大値を、次の場合について求めよ。

- (1) $0 < a < 2$ (2) $a = 2$ (3) $2 < a$

<ふりかえり>

○下に凸のグラフの場合、

(i) 軸(頂点)が定義域の内側にあるとき、頂点が となる。

(ii) 軸(頂点)が定義域の外側にあるとき、軸(頂点)から最も近い定義域の端が となる。

(iii) 軸(頂点)から最も遠い定義域の端が となる。

○本時の内容の理解度について

ア よく理解した イ まあまあ理解した ウ 理解できなかったから、次回こそ理解する

○グループ活動で積極的に行ったことはどれですか。

A 説明する(話す) B 質問する(聴く) C 動く(他の班への質問) D 発表する

指導主事訪問協議会（数学科）

日 時：平成30年 9月25日（火） 14：45～15：35
場 所：秋田市立秋田商業高等学校 会議室
司 会：野呂 耕一郎 記録：船山 毅

<1>はじめに（司会：野 呂 耕一郎 先生）

- ・ 2名の指導主事（秋田市教育委員会 1名、秋田県教育庁高校教育課1名）の紹介
- ・ 授業者の感想
- ・ 授業を参観しての感想
- ・ 指導主事の先生2名からご指導をいただく

<2>授業者より（授業者：佐々木 絵里 先生）

- ・ 本日は参観していただきありがとうございました。指導案では最大最小の4時間目でしたが、実際は3時間目です。まだ最大最小についての知識が定着していないのかなと思っていたが、生徒たちはすごく頑張ってくれたなと思っています。はじめは緊張していて問いかけに答えてくれなかったが、後半は良いところが出てきた。班の話し合いでは本来はもう少し班内で話したりするのだが、お互いに教え合うことができるようになってきた。発表してくれた3人は班内で決めて出てきた。説明が上手でした。自分の考えを説明できるように機会を設けていきたい。ご指導、ご助言をよろしくお願いいたします。

<3>参観者から

司会：最初は生徒が静かだったのですが、途中から本来の姿に近づいてきて最後はいい感じに理解できたのかな。時間もちょうどいい授業だと思います。参観された先生方から質問とか意見とかありましたらご自由に発言ください。

1人目：山田 雅弘 先生（国語）

- ・ 3時間目ということであれば、良く理解しているなと思いました。生徒たちはテンポ良く答えていた。自分で発言するという姿勢を普段から先生が作っていらっしゃると感じました。
- ・ グループ活動を見ている、非常に和んだ状態で、自学の姿勢だとか、サポートとか協調の姿勢が見られて良い授業でした。

2人目：佐藤 寛仁 先生（体育）

- ・ 導入部分でマグネットを使用し視覚的に確認すると言うことで、非常に分かりやすい。私は授業でパワーポイントを使っているが、グラフをパワーポイント等で表示して、見やすくできないものでしょうか。マグネットだとグラフが覆われてしまう部分ができるので。タブレット型パソコンなどでスクリーンに表示して、そこに手書きで加えたり色をつけたりすると見やすかったり生徒がそこに書き込んだりできるのではないかと思います。

回答：数学科の科会でもあのような教具を使うのかパソコンを使うのか話し合いましたが、今回はパソコンが新しくなったのもあって、教具を使うことにした。いずれパソコンを使った授業をしたいと思っています。

司会：今回、科の中で話し合いソフトを使って動かすとか検討しましたが、教具になりました。アニメーションみたいな感じで動いたり、手動で出来たりするのがあります。2次関数のグラフも動かせます。

3人目：佐々木 一秀 先生（商業）

- ・商業科という視点から、板書が3分割していたので1時間に1枚という意図が見えました。また、日頃の学習指導の成果が見える形でした。積み重ねていかないとあのような発表とか相談はなかなかできないと思います。論理的に考えるために、図式化するとか表示するとかして考える。商業でも論理的に考えるために図式化したほうがよいと言われてはいますが、なかなか生徒に定着しなく公式として覚えてしまいがちです。生徒に論理的に考えさせるために、佐々木絵里先生のようにマグネットを使用したのは良かったと思います。ひとつだけ気になったのは、ワークシートでグラフに書いてみよう、グラフをかいて定義域を調べようと言ったときに戸惑う生徒が何人かいたので、もし包含的なものがあつたら、戸惑う生徒が少なかったのではないかと。私が後ろから見ていて3、4人くらいがどこに書くのか分からず、隣の人のを見てから書き始める生徒がいたので、可能であればそういうのも必要なのかなと思いました。

4人目：米澤 雅史 先生（商業）

- ・おつかれさまでした。質問です。プリントの下に振り返りがありました。ここに、理解度と積極的に行ったことと質問が、数学に関係ないことがあったのですが、どういう形でフィードバックするのでしょうか。

回答：ワークシートの振り返りについてですが、理解度については今回の内容がどれくらい理解できたかです。ウの「理解できなかったが次回こそ理解する」は「できなかった」で終わってしまうと、今回の時間は駄目だったと本人たちが思ってしまうので、次の時間は頑張るぞという意味で「ウ」を設けました。「グループ活動で積極的に行ったこと」は、関心意欲態度の面で振り返りを考えたときに、グループ活動の時に何もしないではなく、どれかひとつ積極的に行ったということはこの授業に対して関心がある意欲があるということの評価するために、A、B、C、Dのどれかひとつを頑張っていれば意欲的に授業に取り組んだと評価しようと思い、これを入れました。

- ・上の丸は自分のため、下の丸は先生のためということですね。

司会：振り返りは、毎回このように行われているのですか。

回答：グループ活動を必ず毎回行っているわけではないので、グループ活動が必要であるときにA、B、C、Dを入れて理解度についてはつけるようにしています。

司会：先生方の振り返り例があれば紹介して下さい。

5人目：木村 実樹夫 先生（数学）

- ・毎回は、やっていません。單元ごとにプリントを使用し行っています。毎回やると授業の進度が遅くなってしまうので。数学科で統一しているわけではありません。10時間に1回程度に振り返るようにしています。

司会：他教科での例を紹介して下さい。

6人目：山田 雅弘 先生（国語）

- ・單元ごととグループ活動を行ったときは必ず振り返りをしている。今日は、読み仮名のついていない漢詩をグループで読むということをやった。全員がグループで、スキルを上げていくため。授業でどれくらい力がついたのでか。一人ひとりがグループ内で考える余裕があるので振り返りとしては良いのではないかと。

7人目：石田 雄哉 先生（商業）

- ・グループ活動をする際に心掛けていること、働きかけていることはありますか。グループにすると出来ない班は、全然出来ないからとみんなで諦めたり、話できない人は話さなかったり、出来る子だけやってあとは知らない顔しているとか、脱線する子がいたりとか、様々なことがあると思いますが、普段から工夫していることがあれば教えて下さい。

回答：できればすべての班にあてる。今回は発表者を班で決めてもらいましたが、私が決めることが多いです。班で全員が理解できるように教え合う。班内の出来ない人を放っておかない。教え合うように呼びかけています。

8人目：戸澤 恵 先生（国語）

- ・数学の授業は高校以来で、数学が苦手な私にとって大変分かりやすい授業でした。国語でもグループ活動で話し合いますが、わやわやするだけ、分かる子だけが分かっている分からない子はただ分かる子のを写すということが多いです。訊くということも大事なんだ、訊こうとする能動的な姿勢も大事だということまでぜひ授業で使わせていただきたい。

回答：今回の内容は教科書の単元ではなくて、教科書のまとめにある難しい問題です。そのため、難しくて分からないと思う生徒がいるだろうなと思いました。質問することはその問題に関心があるということ。先日の8年研修で、評価についてグループ活動しているときに訊いている子は評価されないのか、発表している子だけ評価されるのか。訊いている子もその問題に関心意欲態度はあるので、評価してあげたい。訊くことも非常に大切だなと研修で学んだので、以降使っています。

9人目：木村 実樹夫 先生（数学）

- ・今までこの問題は扱ったことはありませんでした。今年の1年生は、4月の実力診断テストで上位層が2年生の2倍います。数学の成績が良いです。下位層もいますが、上位層が上の方に三段階くらいスライドしています。私が担当する1年C組もそんなに差がなく、D組のように元気がよく何でも発言してくれる生徒たちです。私は7年目になりますが、数Iにおいては、一番スムーズに、グループ学習しても、課題提出にしても、質問しても答えてくれるような生徒が多く集まっています。私の授業はまだこの範囲まで到達しておらず、定義域が決められた部分までしか進んでいません。授業を拝見し、C組でもやれるなという安心感を持ちましたので絵里先生と同じ内容で1時間授業をしてみたいと思います。グラフをかいて判断する、視覚的に分かるという部分では、今日は良かったと思います。私もパソコンを使ってやったことがあります。準備の段階でソフトにエラー出たときに授業が止まってしてしまう。うまくいけばいいのですが、絵里先生に相談されて、リスクを考えてアナログ的にいこうと決めました。改善点は、定義域を黄色のチョークで書き貼ったマグネットも黄色だったので、マグネットを黒板と同じ色にすれば良かったかもしれないですね。生徒はよく書けていたと思います。前段階の2時間をしっかりやられていたからではないかと思いました。

<4>中村教頭先生からの総括

- ・本日はお忙しい中ありがとうございます。絵里先生、研究授業お疲れ様でした。本日の授業は2次関数の定義域と最大値最小値の関係性について、その法則を導き出して応用するというものでした。指導案を見たときに、グループで話し合っただけで法則を導き出して、それをクラス全体で共有してから問題に取り組むのだろうと感じました。高校の数学の研究授業に参加すると、一斉授業で法則、やり方をレクチャーしグループで問題演習をする形が一般的ですが、本日の授業では法則をグループで導き出すことが出来そうな感じをもって今日見ていたところです。数学におけるグループ学習の可能性を示してくれたような気がします。今、よくいわれるアクティブ・ラーニングは、単にグループ学習をすれば良いというわけではなくて、生徒の頭の中がアクティブでなければいけな

い。そのためには学習課題の設定が大切であり、なぜかなと生徒に思わせなければなりません。今後も本校全員で組織的な授業改善に取り組んでいきたいと思いを。

<5>小納 英之 秋田市教育委員会学校教育課主査 指導主事からの指導助言

・本日はありがとうございました。普段は、小中学校を中心に回らせていただいています。そのような視点から3点ほど発言させていただきます。

1点目は、マグネットを使った教具についてです。パソコンを使ってはどうかという話もありまして、やり方はパソコンを使うにしてもアナログでやるにしてもどちらでもかまわないと思います。小中学生、先生方とよく話をするのは、分かりやすく分からせる、分かりやすく伝えるための教具ではなくて、子どもがなんとか考えやすくするための、試行錯誤ができるような教具を準備した方が、今の教頭先生のお話にもあったアクティブ・ラーニング、脳が思考することにつながるのかなと最近感じます。私が自分でやっていた頃は、美しくスパッと説明できるプレゼンのようなものは気持ちがいいのですが、子どもが試行錯誤しないでストンと落ちることが本当に良いことなのかと感じます。今日、高校生がボードを使うあのような活動の中で、表には出てきていないと思う色々なことを考える機会になったのではないかと思います。高校生の発達段階でもあのような教育は大事なのだと私自身勉強になりました。

2点目は、中学校を回るときによくお話することが、今の今日の教材を昔や過去ではどのように学んできたかを少しでも考えるようにしてくださいということです。2次関数の平方完成を小学生でもさらっとやっていますし、頂点が原点のグラフを書いています。そのあたりは抵抗感がないだろう。定義域が動くものは中学校では全く扱っていない。なおかつ、 x に a を代入して答えが a の式となるのは、子どもたちは何これとなると思う。そういうところも、ここは捕まえておかなければならないとなれば授業はうまくいくという話は小中学校でよくさせていただいています。

最後に、振り返りの話も出ましたので、小中学生の振り返りのことでよくあることとお話しします。今日の振り返りのシートを見ると、上が学習内容の確認、真ん中が理解度の自己評価、下がグループ活動に関するものという3段階なのですが、小中学生は振り返りを自筆で記述で書くことを頑張っている。その理由は、子どもが捕まえたものはひとつではないはず。それを自分のものにしたかと思っているからだと思う。これは私見ですが、振り返りを記述できれば他の問題にも使える。例えば、「定義域が動いても最大最小は存在するということが分かった」「 a を代入してそれを最大値と書けると分かった」とすると、別の数学をやるときにも場合分けする概念や式が答えになる概念についていく。「図形の難しい問題を解くときは補助線を引くとよいということが分かった」と振り返りが書ければ、別の難しい問題を解く時も線を引いてみるという子どもが育つ。汎用的な振り返りを毎時間でなくても書けるようになる、ちょっとずつでも書けるようになる困ったときに対応できるようになる。高校でもこのように頑張っていることを小中学校にお伝えしたいと思いを。本日はありがとうございました。

<6>伊藤 淳 秋田県教育庁高校教育課 指導主事からの指導助言

・本日は研究授業ありがとうございました。先ほど先生方からのご意見の中にもありましたが、本日の内容はかなり難しい、チャレンジングな内容だなと。このような内容を授業で扱うと数学が嫌いな生徒が突然増えるというか、一番嫌いな教科と言われるところなのですが、本日拝見させていただいた授業では、内容的に非常に高度なことを使っているにもかかわらず生徒が非常に意欲的で、授業に集中できないという生徒がおらず、積極的に意欲的に参加する姿が見えるというところに日常的な先生の普段からの生徒との信頼関係であるとか、指導する上での方針など日常的に考えていると感じました。また、数学科として今回指導案を作ってくださいまして、科としても研究授業として手伝ったということで、これも素晴らしいと感じました。ともすると、研究授業となると個人になりがちになるが、主発問も含めて本時のねらいはどうであるかそういったところをしっかりと科で共有しているので、この後の校内における組織的な授業改善にも非常に大事なところでありませう。毎回毎回は大変ですが短時間でもお願いしたい。

感想も含めて気がついたことをお話しさせていただきます。本時の主発問は、定義域の変化と最大値最小値の変化にどのような関係があるのかで、これがねらいですが、生徒からするとこの後何するのかと非常に見えづらいと指導案を見て思っておりました。この後グループ活動をして、生徒から出てきたものを先生が拾って、その中で生徒にそれを説明させる。最初の段階で、先生の方から今日は動く場合ですよと言ったが、それを生徒に気づかせるのも面白かった。色々な場面で先生が生徒に問いかけることがあったが、時々生徒が沈黙する場面というか、言いたくないから言わないのか、興味がなくて言わないのか、言いたいんだけど言えなくて一瞬静かになる場面が何回かありました。もちろん発問されていない、指名されていないので誰が答えても誰が答えなくてもあの場面はいいのですが。あのような場面で心の安全が保たれていると、もしかするとより出てきやすい。もちろん、保っていると思いますが、それをより促すといいますか、ひとつの取り組みとしては、例えば対話的な学びという授業改善のひとつの視点として先生方が意識されてやられていると思いますが、よく見られるのが一単語で終わってしまうことが結構ある。そこでもう一步踏み込んで、なぜそう思ったの、よく分からないからもう一回説明して、そういう問いかけがあると、仮にそれが間違った答えだとしても、生徒はチャレンジしたことに対して評価してもらえると安心して答えられる。センテンスで述べることを普段から意識して行うことによって、自分の漠然と分かっていたことを言語化させることによって、その曖昧だった部分が逆に明確になる、理解を定着させる働きにもなるのかなと思いました。今の具体的な例でありますけども、なるべくこう授業をすると教えなければいけないことが沢山あると、いかに分かりやすく丁寧に説明するかという方になりがちで時間との兼ね合いがあったりするのですが、いかに生徒の頭を働かせるか考えさせるかそのためにどのような工夫をするのかということところが鍵になってくるのかなと思いました。最終的には数学としての教科としての学力をつけるというのももちろんそうなのですがここで問題解決能力を身につけさせる、あるいはもう少し大きく言うと自己指導能力を育成すると言いますか、生徒指導の一番の大きなことは自己指導能力を高めるということなのですが、そのための生徒指導の3機能と言われるのが、自己決定権を与える、自己肯定感を与える、共感的人間関係を育む、その3つの機能が授業の中で日常的に発揮されていることによって、実は主体的な学びあるいは対話的な学びにもつながるところがあるのかなと思っています。今日の、先生の取り組まれた授業の中での、さらに生徒自身が考える場面を与えるあるいは生徒自身に図をかかせる、それを言語化するあるいは発表するものを全員で共有すること、そのようなことの積み重ねが、いずれ数学に限らず生徒一人一人の自己指導決定能力を高める上でも非常に効果があるのかなと感じております。本時の内容は大変な内容で、でも、あえて研究授業でチャレンジするというポジティブな研究授業の取り組みでした。秋田商業高校の数学科の誇りといいますか科としての姿勢なのかなと感じました。本日はありがとうございました。

司会：指導助言いただきましてありがとうございました。この後の活動に生かしていきたいと思います。

第1学年C組 コミュニケーション英語Ⅰ 学習指導案

日 時 平成30年9月25日（火） 5校時
場 所 1年C組教室
指 導 者 工藤裕文、ジョン・カルロス・エア
使用教科書 Revised BIG DIPPER: 数研出版

1 単元名 Lesson 6 J.K. Rowling: Everyone Has Hidden Power

2 単元の目標

- (1) ハリー・ポッターシリーズの作者・J.K. ローリングについて。ジョアンがハリー・ポッターの小説を書き上げ、発行に漕ぎつけるまでの苦労を知り、また、ジョアンがハリー・ポッターの物語に込めた思いについて考える。
- (2) ① would / used to ② 過去完了 ③ SVO + to - 不定詞の意味と用法を理解している。
- (3) ALTにハリー・ポッターについて紹介することができる。

3 生徒と単元

1年コミュニケーション英語Ⅰの授業では、2クラスを3つに分けて授業をしており、C組の男子12名、女子14名の計26名で授業を行っている。英語の学習に対しては、素直で元気が良く、意欲的に取り組む生徒が多い。ペアでの活動にも積極的に取り組んでいる。基本的な英文を読み、聞き、または内容を理解することはできているが、自分の伝えたいことを正しい英文、英単語を用いて表現することに苦手意識をもっている生徒が多いと思われる。実際の言語活動の中で、生徒自らが正確に情報を伝えるための方法を考える場面を設定し、生徒の表現力を向上させる手立てを与えて、できる限り苦手意識をなくしていきたい。

本単元は、ハリー・ポッターシリーズの作者J.K. ローリングを題材として取り上げており、ハリー・ポッターの小説を作るまでの苦労、想いについて説明している。言語材料は① would / used to ② 過去完了③ SVO + to - 不定詞である。例文を提示し、繰り返し説明し、正しく理解させたい。

4 指導と評価の計画

1. Introduction, Part 1	1時間【本時1/6】
2. Part 1, Part 2	1時間
3. Part 2, Part 3	1時間
4. Part 3, Part 4	1時間
5. Part 4, Vocabulary Building, Review	1時間
6. まとめ Summary, Drills	1時間

評価規準

①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	②外国語表現の能力	③外国語理解の能力	④言語や文化についての知識・理解
ペアやグループ活動、教師と積極的にコミュニケーションをはかろうとしている。	would / used to、過去完了 SVO + to - 不定詞を用いて、正しい文を書くことができる。	相手の話すことを聞いて理解することができる。	性格を表す表現について理解できる。

5 本時のねらい

「ハリー・ポッター」の世界観を体験する。性格を表す表現を学ぶ。

6 本時の指導計画

時間	生徒の学習活動	教師の活動及び指導上の留意点	評価の観点
導入 (5)	1 前時の教科書の単語等を復習する。 2 本時の目標を提示する。	○大きくはっきりとした声で発音させる。 ○本時の目標を確認させる。	
展開1 (20)	3 5人のグループで性格を表す単語調べに取り組む。 4 5人のグループで各自が自分の性格を表す英語を選ぶ。 5 グループ内で自分の性格を英語で説明する。	○辞書を使って、グループで協力し合い全員が取り組んでいるか確認する。 ○グループで、または個人で共有しながら取り組んでいるか確認する。 ○相手に聞こえる、大きなはっきりした声で読んでいるか確認する。	① ①, ③ ①, ④
展開2 (20)	6 part 1の本文を教師の後について音読する。 7 ペアになって音読する。 8 ペアで英語を読む係と日本語訳を読む係に分かれて取り組む。	○相手に聞こえる、大きなはっきりした声で読んでいるか確認する。 ○6の活動よりもより相手に聞こえる声で読んでいるか確認する。 ○しっかりと取り組んでいるか確認する。	① ① ①, ④
まとめ (5)	9 本時で使用したプリントを提出する。	○ジョン先生からコメントを書いてもらうことを伝える。	

指導主事訪問協議会（英語科）

日 時：平成30年 9月25日（火） 14：45～15：35

場 所：秋田市立秋田商業高等学校 語学室

司 会：石塚 禎子 記録：戸田 潤子

<1>はじめに（司会：石塚 禎子先生）

- ・ 2名の指導主事（秋田市教育委員会1名、秋田県教育庁高校教育課1名）の紹介。
- ・ 加藤教頭と英語科職員（6名に加えてALT）の紹介。
- ・ 協議会の進め方はまずは授業者から説明をいただく。その後参観者から授業の展開、指示や生徒の学習活動等について質問やご意見を伺いたい。後半は感想などをざっくばらんにいただきたい。最後に加藤教頭先生から総括をいただき、指導主事の先生から指導助言をいただく流れで進めていく。

<2>授業者から説明（授業者：工藤 裕文先生）

- ・ 本日は参観していただき誠にありがとうございました。一生懸命やらせていただいたので、宜しくお願いたします。
- ・ 単元名はJ.K.Rollingという、ハリーポッターの作者に焦点を当てた内容だが、今日は単元の最初なのであえてハリーポッターの方に重点を置いた授業を行った。最終的にはJ.K.Rollingやハリーポッターについてジョン先生に紹介することができるようになればというねらいをもって授業をした。
- ・ 生徒について、本校では2クラスを3つに分けて授業を行っている。1Cの生徒は素直で元気が良く、意欲的に取り組む生徒が多い。ともすればにぎやかになりがちだが、そこを押さえつけるのではなく純真なところをうまく生かしながら授業するようにしている。中学校で英検準2級を取得している生徒も2人おり、標準クラスだがレベルの差がある。ペアの活動等には積極的だが、応用の部分では苦手意識を持っている生徒もいる。様々な活動を通してその苦手意識をなくしていきたいと考えている。
- ・ 普段の流れでは1パートを概要をとり詳細を確認する繰り返しで2時間に分けて行っている。
- ・ ジョン先生はアメリカで教職経験もあるので日頃から助けてもらっている。コミュニケーションを密にしながら授業を行っている。今日は基本的には普段の授業を見てもらったつもりである。
- ・ 本時のねらいはハリーポッターの世界観を体験させつつそれぞれの寮の性格を表す表現を学ぶという設定だった。
- ・ 本時の流れについてだが、普段から導入を重視している。本時は単語の復習だったが時には英語の歌やビデオなど教科書以外の教材も使ったりして知的好奇心をくすぐるようにしている。
- ・ 展開の活動について、普段はグループ活動をそんなに多くやっていないのでチャレンジであった。普段辞書を使う機会もあまりないので時間をとってしまったが、楽しんでくれてグループで共有してくれればと思う。展開1で英語で説明するところまではいけなかった。今後の課題だと考えている。展開2の音読の活動は普段はもっとバリエーションをつけて時間をかけて行っている。英語と日本語に分かれた音読は普段行っているが、時間の都合でスキップした。
- ・ 最後にまとめとして、プリントにジョン先生からコメントを書いてもらってそれをフィードバックできればいいと考えている。

<3>ALTから説明（授業者：John Eyre先生）

- ・ この授業のためにさまざまな活動の研究、練習をたくさんした。今日の授業の中では多くを省かざるをえなかった。ビデオや日本語と英語の音読活動、ハリーポッターの寮のステッカーを与えるつもりもあった。時間の制約がありできなかったこともあったが、最終的には全般にうまくいったと思う。予想以上に生徒の活動のペースは速く、よく協力して活動していた。（工藤先生より：新しいプロジェクターを使ってハリーポッターの映像を流そうと決めていたが、直前で時間配分を考えてカットしていた。）余裕があれば参観してくれた先生方も寮への振り分けができればよかった。生徒は授業を楽しんで多くを学んだと思うし、私自身も楽しんだ。

< 4 > 質疑応答

大関先生：グループ分けがうまく、バランス良くできていた。何か工夫はあるか。

工藤先生：今日は男女のバランスは考慮しながらあらかじめ設定した。いつもは生徒に番号を振ってグループ分けをしたりするが、時間を考慮してあえて作っておいた。1Cはグループ分けで孤立する生徒がでることではない。

大関先生：勝平中の授業では能力差のあるグループや、同程度の能力の生徒で組むなどいろいろな工夫をしていた。

工藤先生：たまたま1Cには英語部の生徒が数名いるので、グループ分けの時には少し意見を聞いて性格なども参考にした。おかげで活動がスムーズに進んだのかと思う。

大関先生：とても生き生きと活動していた。

菅生先生：クリスクロスなどの活動では、活動する生徒としない生徒が生じがちであるが、全体が活動するために何か工夫はあるか。

工藤先生：今日は短い時間だったのでいつも以上に発言する生徒に限られた。普段はひとりずつ座らせるのも交ぜてなるべく多くに発言させるようにしている。全員に導入の5分間で活動させるのはなかなか難しい。良い意見があったら教えてほしい。

菅生先生：音読の時にジョン先生と工藤先生が交互に先導していたのは何か意図はあるか。

ジョン先生：TTの側面を強調するため。どちらかが主導権をとっているというより、協力して授業に臨んでいる雰囲気を作りたい。

工藤先生：ALTはCDプレイヤー代わりというのは避けたい。いろいろなことを共有しながら行っている。日本語と英語の音読活動の時にジョン先生にあえて日本語をお願いする時もある。

近野先生：ここにあげられた性格を表す単語は単元の中からとったものか。

工藤先生：原作の本や映画からジョン先生が選んだ単語である。

近野先生：国語であれば登場人物の性格をつかむために本文から性格を表す表現をピックアップさせたりすることもあるのだが。

工藤先生：レッスンのイントロなので、ハリーポッターに出てくる寮の性格を知ろうということやってみた。単元で扱われている単語を入れることができたらさらによかったと思う。

石塚先生：授業を見た感想でもよいのでお願いしたい。

櫻田先生：明るくアクティブな生徒の様子を見て先生方の普段の接し方がわかったように思う。生徒たちが楽しそうで良かった。工藤先生がわからない子のために全てを日本語で説明を加えていたが、せっかく2人がいるので2人のデモンストレーションや例示などでわからせることができるのではないか。英語だけでもわかる場面がもっと多かったように思う。

石塚先生：展開1の中の、「グループ内で自分の性格を英語で説明する」という活動は時間の都合で省かれたが、どのような活動を想定していたか。

工藤先生：グループ内で自分の選んだ語彙を共有し、感想を言い合ったりさせたかった。

石塚先生：他教科からもざっくばらんに感想などあればお願いしたい。

守屋先生：生徒が最後まで伸び伸びと活動していて、自分もこんな雰囲気ですべてを進めたい、参考にしたいと感じた。残念なことが1点、生徒がせっかく単語を調べ自分の性格を表す単語を選び、それが寮の選択につながる部分でジョン先生の説明が伝わりにくい雰囲気があった。それを工藤先生が日本語でストレートに説明してしまった点である。そこはジョン先生にぜひ生徒の役割になって演じて欲しかった。これだけで生徒の理解につながり、英語だけの時間が続いていたと思う。

石塚先生：それではここでいったん教頭先生から総括いただきたい。

< 5 > 加藤教頭先生からの総括

工藤先生、ジョン先生お疲れ様でした。2人のコミュニケーションがよくとれているのが感じられ、それが生徒にもうまく伝わっていた。いつも通りの授業が行われているのを感じることができた。題材もハリーポッターということで生徒の食いつきはよく、よく知られた作品なのでやりやすか

ったのではないか。ある程度生徒たちがイメージをもちながら単語を理解していくという活動につながっていたように思う。あまり会話的な広がりはなかったが、単語が身につけば文法事項をベースにした会話にも広がり苦手意識もなくなっていくのではないか。最後は工藤先生とジョン先生の性格を踏まえて寮を選ぶところまでいく予定だったのではないか。生徒たちも興味を持ちながらの授業が進められていた。この後指導主事の先生方からもぜひご指導をいただきたい。よろしくお願いします。

<6>佐藤 純一 秋田県教育庁高校教育課指導主事からの指導助言

- ・本日は授業研究にお招きいただきありがとうございました。工藤先生、ジョン先生お疲れ様でした。
- ・普段のコミュニケーション、普段の授業が垣間見えた。運動部のひとまわり大きな生徒たちも一生懸命聞いている様子も見え、楽しく参観させていただいた。大変一生懸命やっている生徒たちでありそこが一番救われる部分で、こうした生徒をどのくらい活用できるか、どのくらい教科の魅力を伝えられるかが座学の勝負であると思って見ていた。そういう意味で最後までだれる生徒もなくしっかりやっており、非常に良かったと思う。いろいろ気づいたこともあるが全体として思ったことを3つお話ししたい。
- ・1つめとして、普段やっているが本時は時間の制約で省いたこと例えばグルーピングなど、そこを授業で省かないでやって欲しかった。おそらく普段やっていることは生徒にとって一番のウォームアップになっていると思う。普段やっているグループ作りも言語活動が入るのでウォームアップになっていく。あるいは最初の挨拶でもう少し突っ込んだことを聞いてみるなど、普段通りにやるのが活動の起点になっていく。その時間も入れて時間配分を考えていった方が生徒の意見交換が活発になると思う。途中で指示が通りにくかった場面もあったが、それは生徒の頭を活性化させ一点に集中させればいいのであって、そのための準備運動をする必要があったかと思う。それがあれば授業の展開は違ったものになったという感じがする。
- ・2つめとして目標提示ということがある。校長先生に説明していただいたこの学校の授業改善の研修テーマが「本時の目標の提示」「生徒のなぜを引き出す」「生徒が主体的に取り組む」「振り返り」ということであった。中でも「目標の提示」が一番に見てみた。この時間が終わったときに生徒がここまでできるようになろう、ということが具体的に示せば生徒は見通しを持てる。このためにコミュニケーションするということが言葉で指示しなくてもわかれば単語も出てくることになる。一問一答とは思わないが（活動が切れていて）深まりがなく、あるところまで到達すると生徒が暇になりそこで止まってしまうという諸刃の部分がこういう活動にはあり、難しいと感じさせられた。
- ・もうひとつ、単元全体を見たときになぜ今日personality traitsをとりあげ、これができると生徒は何をできた実感できるのかという疑問がある。途中まで性格を表す単語を扱いお互いの性格を表現し、そして本文に移ったときに本文にそれらの単語は出てこない。本文の内容と何の関係があるのか、と感じることになりかねない。自分ならどうするだろう。おそらくイントロなのでハリポッターの映像を少し入れたり、キーワードを使いながらストーリーを説明させたり書かせたり、そしてその作者は？作者の気持ちは？と考えさせてから本文に入っていく。おそらく2時間目でこの活動を入れていくのかなと感じてみていた。生徒にとって扱う内容のpersonalizationという言い方があるが、内容を生徒の世界に引き込んでもらわないと生徒が授業の内容を実感できない。今日の商業の参観授業でコミュニケーションの仕方でクレームにどう対応するかを扱っていた。これはすぐに役に立つ。トピック自体がそうなのだが、英語の場合はどうしても自分からかけ離れたものなので、それを生徒の世界につないであげないと何を勉強したかわからない。全然違う世界の出来事で終わってしまう。自分で使わないから単語をやってもなかなか定着してくれない。そこを考えるとある程度連続性を考えて単元全体の計画を組む必要があると思った。
- ・最後にもう一つ、生徒がたまにわからないと発言していたがそれはチャンスで、わからないとそこにコミュニケーションする必要性が生まれる。そこを捉えて英語で簡単な質問を投げる余裕があるといい。2人いるというのはそういう利点がある。どんどん生徒の反応を拾って細かい質問を投げてもらえればそれだけで盛り上がってくるのではないか。
- ・細かいチャレンジもかなりやったと思う。それが見えて非常に参考になる授業だった。これが振り返りにつながるとさらにいいと思う。本当にありがとうございました。

<7>山尾 有美 秋田市教育委員会学校教育課主査指導主事からの指導助言

- ・忙しい中授業のご提示ありがとうございます。また他教科の先生方にもご参加いただきありがとうございます。私からは授業を拝見して良かったと思う点を3つ、改善していただければと思う点を3つお話しし、最後に他教科の先生方にも考えてもらえればということをお話ししたいと思います。
- ・まず良かった点は、1年生ということもあるかもしれないが、工藤先生は中学校の学習内容との接続を考慮しているのではないかと。crisscrossやグループ活動など、なかなか高校では取り組みづらいと思われる活動によくチャレンジしていた。菅生先生のご指摘の通り、crisscrossでは何も発言しないまま座ることになる生徒もいるので、そこをどう工夫して行くかを中学校では非常に練っている。秋田商業高校は勝平中との中高連携も行っているので情報交換したり、10月17日には西中で英語の全市一斉授業研究会を行うのでぜひ高校の先生方にもお運びいただいてご意見いただければと思う。2点目として、工藤先生はジョン先生とうまくコミュニケーションをとりながらALTの活用にご尽力いただいていると思う。先生同士が人と人との関わりを大切にしているという姿が子どもに見えることで、言葉を使った人間関係をどう結んでいくかという教えになる。3点目、高校生にしては音読の声が大きくて元気で嬉しく思った。音読も何のためにさせるかという目的意識や読んだことの内容について問答するなど、これから少しずつ膨らませていければいいのではないかと。
- ・続いて授業に関して検討して欲しい点3つである。1つめは英語をすぐ日本語に直してしまわないということである。先生が日本語に訳してくれると、子どもは絶対に英語を聞かなくなる。TTであることの良さを生かして、演技でもいいし簡単な英語で言いかえるなどをしていてもいいのではないかと。2つめ、私もやはり指導案の展開1と2の流れが切れているという印象が強い。おそらく2の教科書の内容に入っていくところの1時間目だったと思うので、その前段階の展開1のところではレッスン全体の内容をつかめるような活動をもう少し工夫しても良かったのではと思う。3点目になるが、その展開1の活動に子どもを巻き込んだ形でのイントロができればいいと思う。Do you know the story? Have you read that? などと問いかけながらやりとりをしたりできればと思った。本日一般授業で拝見したビジネス実務の川村先生のものすごい指導、あれを英語でもやりたいと思う。必然性があり実践につながるといふこと、学んだことがどう使えるのかといふこと、それを実感させるような授業にしたいと感じた。
- ・もう2点、どの教科でもおそらくやっていただけるのではということをお話ししたい。まず1つめ、校長先生が今年度「振り返り」を頑張りたいのだとお話しになっていたが、そのためにもやはり「ねらい」の吟味ということが必要ではないかと思う。今日の授業で到達したいのはどこかを一番最初に見せておかないと「振り返り」もできない。一般授業でも「ねらい」が明示されている授業と、それは目標だろうかと思うような書き方の授業があった。「ねらい」と「振り返り」の整合性を考えてもらいたい。今日工藤先生が書かれていたのはToday's GoalではなくToday's Processである。中学校でもあのような形で、そこに磁石などを置いて今こまできていくということを可視化したりする。そして最後にこままで来れば自分はできた、という「目標」を明示して欲しい。どこに向かって走るのか（考えながら走らせるの）と、ただ走れということ、その違いを考えてもらいたい。どの教科でもできることだと思う。2つめに、グループで行う活動を吟味してほしい。今日グループで性格を表す単語の意味を辞書で調べたのは、グループでやらなければいけない活動だったか。授業でやらなくてもいいことを授業の外に出していくことで、本当に子どもたちが友達と、先生と、あるいはネイティブスピーカーと一緒にいなければならないことが授業の中に残っていく。授業でしかできないのは何かということを見ると必ずグループ活動の形が見えてくるのではないかと。やはり一人と一人の考えがぶつかったり合わさったり高まったりしていくことがグループ活動の意義であるということをお考えながら授業作りをしなければいけない。同じことを中学校教員も日々研究しているところですので、高校の先生方の専門的な視点もいただきながら、中高連携しながらいっそうよい授業を作れればと思う。是非一緒に研究していただくとともに、お互いに授業を見合える機会をさらに作っていただけるとありがたい。

指導主事訪問全体協議会

日 時：平成30年 9月25日（火） 15：45～16：30
場 所：会議室

校長より

本校では、今年の研修テーマを「組織的・継続的に取り組む授業改善」と設定した。6月11日から22日までを第1回授業公開週間と位置づけ、4つの点を共通課題として授業改善に取り組んだ。一つ目は「本時の目標を示す」ことで生徒とともに授業の内容を確認する。二つ目としては「生徒のなぜを引き出す発問を工夫する」、三つ目は「生徒が主体的に取り組む学習活動の場面を設定する」、四つ目としては「本時の目標に対する振り返りを行う」とした。公開授業は全教科で実施し、自分の教科も含めて必ず2教科以上参観することとし、参観した際には参観シートを提出し、結果を研修部で集計したものを各教科にフィードバックしている。指導主事の先生方には、本日の参観を通して感じた、本校の課題についてご指導いただきたい。今日の研修でご指導いただいたことをもとに、さらなる授業改善を図っていきたいと考えている。また我々学校職員は、学校を取り巻く外部の動向や教育委員会の情報が入りにくい。高校教育課や市教育委員会の最新の動向や、学校として留意しなければならないことなど、もしあるのであれば教えていただきたい。

1 指導助言 秋田県教育庁高校教育課指導主事（数学）伊藤 淳 先生

本日の研究授業の準備と実施・日程の調整など、きめ細やかな対応に感謝する。また本校のこれまでの取り組みがわかる資料も拝見し、学校の状況や先生方が取り組まれている課題についても知ることができた。それらを踏まえて授業を拝見させていただき有意義な一日を過ごすことができた。

全体協議会では、本日拝見した、研修テーマを踏まえて実践いただいた授業への感想と、今後重要性が増してくると思われる教育活動について、国の教育改革の方向性にも触れながら、県の施策等についてお話をさせていただく。本校が取り組んでいる、組織的な授業改善やキャリア教育の一層の充実に役立てていただきたい。

今年度の本校の研修テーマは「組織的・継続的に取り組む授業改善～確かな学力の育成に向けて～」である。また県教育委員会では、次の2点を今年度の学校訪問における重点指導事項としている。1点目は「組織で取り組む授業の推進」である。①狙いに基づいた授業構成、②生徒の思考を深める授業展開、③評価と検証に基づいた授業改善、これらが具体的な視点である。2点目は、「こころ 姿 振る舞い さわやか高校生」運動の推進による生徒指導の充実である。①さわやかな整容、②さわやかな生活態度、③さわやかな学習環境、これらが具体的な視点である。これらを踏まえて本日の授業を拝見した。

まず教室に入って最初に感じたことは、非常に生徒の授業に向かう姿勢が意欲的であったことである。学習に向かう雰囲気がしっかりできており、授業者と生徒との信頼関係がしっかりできていることが見て取れた。また、教室における学習環境が整えられており、教室内には大きな私物等はなく、机間指導もしやすい環境が維持され、生徒は授業に集中することができる状態であった。本日拝見したほとんどの授業では、本時の目標が黒板に示されており、生徒が見通しをもって授業に取り組めるよう、組織的に取り組まれていると感じた。また授業においての生徒の発言が積極的であった。これらをさらに一歩進める工夫としては、本時の目標をもとに生徒一人一人が自分自身の考えを持てる場の設定、またその考えを表現する場の設定を工夫する、それを生徒がお互いに共有する場を設定することが、有効に働くのではないか。また生徒が教師の質問に答える際に、根拠を示させることを習慣づけること、その取り組みに対する評価を与えることにより、生徒自身が主体的な学びに結びついていく一つの材料になるのではと感じた。生徒指導の3機能として、①自己決定権を与える、②自己肯定感を与える、③共感的人間関係を育む、があげられるが、日常的に意識した授業を継続することで、生徒の自己指導能力が育成され、やがては生徒が自ら学ぶ姿勢を身につけていくことにつながるのでは

はないか。全体協議会の前の各科協議会では教科を超えた有意義な話し合いが行われていた。授業改善は教師一人一人の意識に頼るところが大きいが、本日のような授業研究会で得た検証を踏まえ、今後も組織的な授業改善の取り組みをお願いしたい。

今年3月に高校の新しい学習指導要領が公布された。社会情勢の変化に対応した今回の改定は、現行の流れを受け継ぎつつ、これからの時代を生きる高校生の資質・能力の育成に向けた大きな改定であった。今回の改定の基本的な考え方は、3点ある。1点目は「資質能力の整理」である。生徒たちが予想困難な社会の変化に主体的に関わり、よりよい社会と幸福な人生の作り手となれるよう、未来を切り開いていく資質・能力を「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱に整理するとともに、各教科の目標や内容についてもこの3つの柱に基づいて再整理している。2点目は「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進」である。高校の学習の質を一層高める授業改善の取り組みに加え、大学入試改革と高大接続改革を具体的に行うことで、学習内容を人生や社会のあり方と結びつけ深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力の育成を目指している。3点目は、「各校におけるカリキュラム・マネジメントの推進」である。各学校が生徒や地域の実態を的確に把握した上で学校の教育目標を設定し、人間として調和のとれた生徒の育成をめざし、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラムマネジメントは、今回の改定全体の理念に深く関わるものである。

また、次期学習指導要領では、「総合的な学習の時間」が、「総合的な探究の時間」になる。より探求的な学習を重視する方向が示されるとともに、移行措置として平成31年から実施の説明があった。本校においては、商業高校としての特色を活かし、ビジネス実践やボランティア活動等を通じた地域貢献に積極的に取り組んでいると伺っている。こうした特色を生かしたカリキュラムを活用し、教科学習のみならず教育課程全体で、カリキュラムマネジメントの視点のもと特色ある資質・能力を今後さらに伸ばしていただければと考えている。

次期学習指導要領の方向性として、課題の発見と解決に向けた主体的・対話的な学習の指導方法など、教育内容の質の向上が求められている。秋田県教育委員会では、学力向上推進事業の一環として、探求活動等実践モデル校事業を平成29年度から2年計画で実施している。本事業は高校生が高い志と意欲を持った自立した人間となるように、他者と共存しながら主体的に価値の創造に努め、未来を切り開いていく力を身につけるために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な事業改善や、カリキュラムマネジメントを推進することを目的としている。研究内容別に3つの型の研究実践校が6校指定されており、現在研究に取り組んでいる。本日はその6校の取り組みを参考までにさせていただく。

一つ目は、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善充実に関する研究実践」である。大館鳳鳴高校、秋田北高校、大曲高校の3校が実践モデル校として指定されている。大館鳳鳴高校では、「主体的に考え、多面的なものの見方を通して思考を深めることのできる生徒の育成」をテーマに、探求活動を取り入れた授業改善に努め、授業の改善・充実を図り、協働的な学習の実施による知識の活用と、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を図る研究に取り組んでいる。秋田北高校では、「学びに向かう生徒を育てる・チームで作る北校型授業」をテーマに、学校教育目標や校訓のもと北校生にふさわしい生徒の育成に向けて、全教科が科として授業改善に取り組み、学校の組織力や指導力の強化を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善の充実の実現を目指す研究に取り組んでいる。大曲高校では、「生涯にわたって学び続ける意欲と力を育む課題解決思考型授業～大曲高校スタンダードを通じて～」をテーマに、知識・技能の質や量の改善を図るとともに、それらを活用した主体的・協働的な学びを促す授業作りを推進し、国際社会の諸課題を解決することのできる人材を育成する研究に取り組んでいる。

2つ目は、「総合的な学習の時間」を中心に、教科横断的な課題の発見と解決に関する研究実践である。能代高校と、横手清陵学院高校の2校が実践モデル校に指定されている。能代高校では、「地域が抱える課題の解決を目指し、未来のリーダーとして貢献できる人材の育成」をテーマに、総合的な学習の時間を中心に、各教科と関連させながら、地域についての理解と問題意識を高め探求活動を通してその解決に向けた提言を行う地域課題解決型プロジェクト学習のカリキュラム解決を行う研究

に取り組んでいる。横手清陵学院高校では、「21世紀を主体的に生き抜くための探究心を持った生徒の育成」をテーマに、主体性・探求力・人間力の育成による高い志の実現を重点目標に掲げ、課題研究を中心とした教科横断的な探求活動を全校規模で実施し、学びの質を向上させる教育活動の充実を図る取り組みに取り組んでいる。

最後に3つ目は「カリキュラム・マネジメントに関する研究実践」である。大館桂桜高校が実践モデル校に指定されている。「21世紀を生き抜くために、自ら考え判断し行動できる桂桜生の育成」をテーマに、学校教育目標を踏まえた教科横断的な視点による教育課程の編成、学習評価を取り入れたPDCAサイクルの構築、及び地域の教育資源を活用した学校教育活動の充実を図るなど、カリキュラム・マネジメントに関する実践研究に取り組んでいる。本事業は、本年が2年指定の最終年となる。各実践モデル校で公開授業や研究発表が行われる予定となっている。後ほど各校から案内が届くと思うが、ぜひとも各校の研究実践の成果を参観し、今後の授業改善の一助としてほしい。

2 総評 秋田市教育委員会学校教育課主席主査 堀井 淑子 先生

本日の訪問に際して、しばらく前からの準備に感謝する。私からは大きく2点について話をするが、1点目は秋田市学校教育の基本方針と学校経営の計画推進について、2点目は秋田市教育委員会からのお願いについてである。

まずは、1点目、秋田市学校教育の基本方針と本校の学校経営等について、本市の教育基本計画が「秋田市教育ビジョン」にあるが、その中にある学校教育部門の重点項目等を示し、より詳しくしたものが「秋田市学校教育の重点」である。

「秋田市学校教育の重点」について、1ページ、学校教育においては、「志を持ち『徳・知・体』の調和がとれた子どもをはぐむ学校教育の充実」を目標として位置付けており、豊かな人間性の育成などを重点項目として挙げている。ここにある6つの重点項目と、それに危機管理上の留意点を含めた7つの項目について、全ての小中学校が取り組むべきものである。

こちらは主に小中学校を対象に作成しているものではあるが、資料の3ページには学校教育全体を通じた「道徳教育の充実」、8・9ページには「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、また、その時の目指すべき子どもの姿が具体的に示され、33ページには「個人情報上の危機管理」、35・36ページには「交通事故や不審者事案への対応」、「自動虐待事案への対応」などが記載されている。これは、高校においても参考となる資料だと思うので、何かの機会にご活用いただきたい。

本日、校長先生より、学校経営について詳しく御説明をいただき、御校や今年度の重点目標などについてお話をいただいた。

校長先生の説明の中には、「全職員で」・「全校で」・「教頭先生を中心に」・「研修部が先に立って」・「生徒指導主事を中心に」などの言葉が何度もあり、組織的な学校経営をされている証だと感じた。お話の中で、課題として挙げられたものの1つに、「振り返り」というものがあり、私からは「評価」について話をする。

資料の4ページ、こちらには、「道徳教育と道徳科の評価」、「道徳科の評価のあり方」について記載してあるが、今年度から、小学校においては「道徳科」が始まっている。「道徳の時間」は昭和33年から実施しているので、とても大きな変化となる。正直なところ、小学校現場では戸惑っており、悩んでいるのが現状である。通知表や指導要録などへ記載するための「評価」について、手探りの状態が続いている。

しかし、「評価」というものを考えたときに、「評価」というのは何のためにあるのかをきちんと考えるべきであると感じている。

「評価」とは、「学習の目標に照らして学習者である子どもたちの学びの実態を捉えること」や「指導者である私たちに今日の指導はどうだったのかと振り返らせるため、その改善に資する意気込み」であり、何のための評価であるのか考えて行わなければ、評価を行っている意味がなくなると考えている。「必要のない振り返りは毎時間必要ない」と考え、仮に、子どもたちの学習の実態や成果ではなく、今日の自分の授業はどうだったのかを評価するのであれば、自分自身に問いかけることで評価することも可能である。

今日の授業で子ども達に力を付けることができたか、教科等の学習を通して子ども達の人間的な成長など教育が目指す人格の完成を目指し、これに資するような授業であったか、一人として授業に欠けることなく授業に参加していたかなど、私自身もこれまでの授業を振り返ると、このことをきちんと毎時間でできていたわけではないが、目指すべきあるべき姿として意識し取り組むことが大切である。

次に、2点目、秋田市教育委員会から、子ども達の命を守るためことについての継続的な指導、服務事故の防止についてのお願いである。

今年度、これまでのところ不審者事案が既に33件発生している。その中でも危険が伴うものが増えてきており、大変憂慮している。事案発生後の家庭訪問など親身な対応が求められ、近隣校への情報提供や警察への被害届など二次防止に努めることも必要である。また、生徒の交通事故については、秋田市教育委員会に報告のあったもので既に39件発生している。一歩間違えば、大きな死亡事故につながる事案もあった。改めて、道路を横断する際の一時停止や左右確認、道路を横断する際には気を付けるよう指導していただきたい。自転車を運転する際のルールについても、具体的に指導をよろしく願う。

次に、服務事故防止について、今年度、全ての市立小中学校や御所野学院高等学校、公立美術大学附属高等学院で実施（予定を含む。）している研修をここで実施したいと思う。

<服務についての研修を実施>

最後に、服務事故や不祥事など、どうしたらなくなるのかについて、特に、交通事故は自分も含めてここにいる全員も加害者になる危険性がある。秋田市立学校のデータですが、教職員の交通事故（加害事故）は、ここ3年間で増えてきている。平成27年度は16件、平成28年度は30件、平成29年度は34件となっている。

どうすれば減らしていけるのか、やはりそれは危機管理意識を持つことである。危機管理意識の高低は想像力の高低ではないかと考える。例えば、「この曲がり角の先には子どもがいるかもしれない。」というようなものから、「これをしたら・・・」や「これをしなかったら・・・」を考え、家族へどういう影響が出るのか、地域や保護者の方たちと積み上げてきた信頼関係はどうなるのか、同僚や子どもたちにどんな迷惑がかかるのか、自分の人生はどうなってしまおうのだろうか、このような想像力を働かせることも1つの防止策ではないかと考える。

今後も子どもたちや保護者と積み重ねてきた信頼関係を崩すことなく、さらに積み重ねていただくようよろしくお願い申し上げます。また、子どもたちの健やかな成長のため、御尽力いただきたい。

「教育改革と求められる対応の方向性について」

講師：株式会社ベネッセコーポレーション

東北支社高校営業部 原野 忠久氏

本日のコンテンツ

- ① 改革の背景と改革スケジュール
- ② 教育改革
 - 1) 次期学習指導要領について
 - 2) 高校生のための学びの基礎診断について
- ③ 入試改革
 - 1) 英語4技能検定について
 - 2) 大学入学共通テストについて
 - 3) 多面的総合的評価について



教育改革の背景には、世の中の大きな変化がある。それを示す1つの例として、ユーザーが5,000万人にいたるまでかかった年数を示した資料がある。ラジオは40年、テレビは13年もかかったのに対し、iphoneは3年、ipadは1.5年とあり、どんどん時代の変化のスピードが上がっていることが分かる。この変化に対応するため国も経済産業省が中心となって、「新産業構造ビジョン」を作成している。この中で注目されるのは、変革のスピード感が上がっていることである。15年単位でしか将来を見通すことができない状況にあるくらい、わずか10数年で社会が大きく変わってきている。「AIによって仕事が奪われる」ことを良く聞かれると思うが、これに対応するため様々なところで教育改革が検討されている。

実際に構造変化が起こっているということについては、先々週の新聞で掲載されていた「新産業構造ビジョン」の中で、2015年を基準として、その後30年間で従業者が735万人減るだろうという推測で見ることができる。人口減少など様々な要因が関係してはいるが、現在の就業人口が6,000万人強なので、1割以上が減少することになる。試算ではあるが、このままだとそのようになることが予想されるので、産業構造を変えていこうと動きがあり、それを踏まえて教育も変えていこうということが現在の教育改革の背景と動きである。このまま無策が続くと、AIやロボットに仕事が奪われることになる。さらには、求職者はたくさんいるが、失業者もたくさんいるという状況が発生する。つまり求職条件に対応できる人材がいない世の中になっていく可能性があるということである。そのような状況の中で、どのような生徒・人間が求められ、どのような教育をしていくかということが検討されていて、その過程の1つが教育改革であると思われる。2030年、40年はすぐ目の前のことと言っていいくらいで、現在の生徒が30代～40代前半、まさに世の中の中心となって働いている時代であり、大きく変化した時代で中心となって働いてもらわなければならない。生徒をどのように育て、教育していくかを考えられた教育改革である。

その教育改革の一つ目の改革は、英語四技能である。これは、実際に英語を使えるかどうかということで、それを踏まえて大学入試センター新テストが始まる。二つ目の改革は、多面的・総合的評価の拡大である。これは入試改革であるが、入試だけ変えるのではなく、その前段階において学校の教育をどのようにするか、教育課程が検討され、それに合わせて「高校生の学びの基礎診断」(以下、「学びの基礎診断」)の実施が検討されている。これを活用する1つのプラットフォームとして今、注目されているのが「JAPAN e-Portfolio」というもので、振り返りや学びの履歴をどのように有効活用するかが検討されている。

ここまで、改革の背景とスケジュールをみてきたが、社会が大きく変わっていくことが前提で、どのような生徒を育てていかなければならないかということを考えられた教育改革が進められている。これは決して遠い未来の話では無く、目の前の話である。

次に、これらを踏まえて次期学習指導要領について見ていく。現在は、学び方そのものを変えていくとアクティブラーニングがさかんに行われている。言葉の意味としては「生徒の主体的・対話的で深い学び」であるが、本当に主体的にコミュニケーションをとって協働してどんどん新しいモノを作っていけるか、問題があったら自ら解決していけるか、そのような志向性をもった生徒・集団になっているかということがポイントとなっている。これまでのように知識を習得したというだけでは通用しない、生徒自身が学習の見通しを立てたり、振り返ったりする活動を取り入れていくことによって、本当に自分自身が発展していくためのスキルを身につけていくということが柱になっている。身につけるべき3要素は「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」であり、これらをしっかり育成をしていくということになっている。

次に、五教科について、一つひとつ分析していく。まず、国語については必修科目が「現代の国語」と「言語文化」になっていく。従来の「古典」「現代文」という大別から、創造的・論理的思考の「論理国語」、感性・情緒の「文学国語」、他者との伝え合う「国語表現」という言語能力の3つの側面に基づいて再編される。今後予想される指導の変化については、今回の指導要領のテーマ中では「実社会」がキーワードとして挙げられていることから、実用的な文章等を教材に、言語活動を主体とした指導が予想される。

数学については、ベクトルが数学Bから数学Cに移行したことが大きな変化であり、今の枠組みからすると文系では実質的に履修は不要となる。ベクトルが移動したため、数学Bは「数列」と「統計的な推測」が主な単元となり、統計を重視した編成となる。次期指導要領では、「情報」という文言が、「データ」という表現に置き変わる。「データ」には一次情報・資料というニュアンスがあり、それをどのように扱っていくかという観点から、「データ」を扱う力、「データ」と「データ」をつなぎ合わせて構造化していく力、そのようなところが重視された編成につながっている。

英語については、民間の検定を導入することが大きな変化になると考えられる。しばらくは新テストと併用していくことになるので、両方対応していく必要がある。どちらにしてもこの改革の中心は、コミュニケーションの中で英語を実際に使っていくことができるようにすることが重要で、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表・プレゼンス）」「書くこと（アウトプット）」の5つの領域を総合的にコミュニケーションスキルとして扱うことが大きな変化となる。さらに、入試ではスピーキングも課されることになる。

理科については、基本的な構成は現行とあまり変わらないが、重視されるのはやはり「使う」というところである。単なる知識の定着・蓄積ではなくて、実験やフィールドワークなどをおして理解を深めていくような指導が促されている。

地歴・公民については、枠組みとしては大きな変化がある。ポイントは、現代の諸課題を科目特性から把握して考える「歴史総合」「地理総合」「公共」が新設されることである。日本と世界の近現代史を中心に歴史の見方・考え方を養い、現代の諸課題を考える「歴史総合」が新設され、現代史に比重が置かれる形になっている。要は、現実の世の中に対して課題を設定してきちんと考える力つけることが意図されている。

次に、科目の標準単位数がどのようになっていくのかを見ていく。国語では、「国語総合」が「現代の国語」「言語文化」各2単位に分かれ必修になる。地歴では「地理総合」「歴史総合」、公民では「公共」が必修となる。数学では「数学I」の3単位が必修となる。

このように変化した新学習指導要領について、実際の教育の中でどのように扱っていくかということが重要になってくる。これまでも指導要領の改定はあったが、教師によってはしっかりと読まない方もいて、この点に関して文科省もしっかりと進めていきたいという意図が窺える。

その一つの方法として、「学びの基礎診断」が挙げられる。これについては、これまでにいくつか変遷があり、2014年の段階では、「到達度テスト」という名称で、この時は大学入試センターが統一テストとして実施し、推薦・AO入試、就職でも活用していくということで発信された。しかし、その半年後には位置づけが不明瞭という指摘があり、当面は各試験の選抜では活用しないことになった。その後、現在では民間のツールを活用することと、当面は使わないことになり、名称も「学びの基礎診断」に変わった。ポイントとしては、民間の複数のツールを使用するということである。つまり様々なツールを高校の実情に合わせて活用することであり、全国すべての高等学校を一律にするのではなく、学校の実情に応じて活用していくことになった。この「学びの基礎診断」の活用については指導改善などの本来の目的に特化した教育委員会等の設置者を含めて検討がなされることになった。

求められる資質、学びに向かう力、学びの三要素を「学びの基礎診断」をとおしてどのように測るかということがポイントになる。今度の教育改革で求めているのは知識・技能だけでなく、それを使って考えたり、判断したり、表現したりする力をしっかりと養うことである。学びに向かう力、日々どのような努力をしたのか、どういうプロセスで工夫し、どのように達したのか、頑張る力であるとか、工夫する力...それらを測ったり、チェックしたりすることが「学びの基礎診断」のねらいである。現在の「学びの基礎診断」については弊社のような民間の事業者が申請を出しているところで、許可された事業所から公開準備をして、活用されていくことになる。認定基準は学習指導要領を踏まえた出題設計がされていることであるので、やはり学びの三要素、そして、ねらいをしっかりと踏まえた設計となっているかが重視されている。対象教科は国語・数学・英語で、共通必修科目を中心に出題し、義務教育段階の内容も含まれている。「思考力・判断力・表現力」を問うこと、記述式問題を出題すること、英語4技能をしっかりと測定することができることが条件になっている。

「学びの基礎診断」の結果の活用については、当面は副次的な活用、要は進学・就職試験などには活用しないことになっているが、「当面は」というところに含みを持たせている。将来は「e-Portfolio」を含めた活用が予想される。

「学びの基礎診断」の進行状況については、認知度が低い割には進んでいて、2018年6月から各事業所が申請を始め、10月頃から順次認定されて、2019年4月から運用開始となっている。弊社はまだ認定されていない（講演当時）が、急ピッチで進めているところである。

ただ、この活用は全ての学校が必須で、例えば「1学期に必ず1回は実施する」というものではなく、基本的にはその学校の設置者、公立であれば県教委や市教委が決定することになっている。とある県では独自のテストを実施しているので、それを代替として思考力・判断力などを測るので、今後そのまま使用してよいか文科省に確認したところ、民間のツールを活用するということによって差し替えられたという話があった。何かしら認定した事業所の活用を設置者に求めていくことになるのだろうと思われる。

教育委員会設置の学校での活用については大きく分けて3つのパターンが想定される。

1つは設置者の指示で全校統一、全校共通で行うもの。2つに実施時期の指定は無いが、学校群ごとの一つの測定ツールを活用するもの。3つに実施時期を限定し、学校の現状に合わせて自由に選択して行うもの。1つ目以外は基本的に学校が選択して実施することになるが、実際には設置者である教育委員会の発信を待たなければ進めにくいと考えられる。

次に教育改革と大学入試について見ていく。教育改革があっても、実際の出口の部分、大学入試が変わらないから学校がなかなか変わらないという指摘もあったので、大学入試もセットにして改革することになった。次にその例を見ていく。

まずは、英語の4技能検定についてである。国立大学協会では当面は新テストと民間の検定、2つの試験の受験を求めていく方向性が出された。一時期、東大が使わないと言っていたが、結局は活用する方向になった。活用にむけては様々な動きが見られる。民間の検定であれ、大学入学共通テストであれ、今回は文科省がかなりリーダーシップをとって進めている印象を受ける。新テストと民間の検定と2つの試験を使うことについては、6月の国立大学協会のガイドラインで、大学入試の受験資格とする場合には、各大学の方針に基づいて、例えば「CEFRのA2以上を受験資格とする」などと一定の水準が示されることになった。また、新テストに加点する方式とする場合は、「英語認定試験の結果に基づく加点をCEFR対照表の水準ごとに定め、最高点が新テストの成績と合わせて英語全体の満点に占める割合を英語4技能のインセンティブを与える観点から適切な比重となるようにすることが求められる」とあった。この適切な比重については、例えば2割以上とすることが示された。「CEFRのA2以上」というのは弊社のGTECではA1以下は受験できないことになる。例えば国公立を受験する場合はどのように取り扱っていくのか、推薦であってもそれが認定基準であれば、そこをクリアしなければ受験できないという可能性が無くはない。ちなみに弊社のGTECでは、A1は全体の6%程度である。

当面は2つの試験の受験が求められているが、英語の先生方は民間の検定試験の対策をしつつ、大学入学共通テストのことも対策していくことになると考えられる。これからは、低学年と高学年のバランス、タイミングを見ながらの指導になる。1、2年生では基礎学力、土台を作っていくことになるが、3年生ではどのようにして民間の検定試験、新テストに向かっていくかがポイントとなる。現

在は1月のセンター試験という分かりやすいヤマ場があったわけだが、これからは、弊社のGTECであれば6月、9月…と受験機会が複数ある。大学入試に使えるのは1年以内の受験結果になるので、3年生になってから受験して認定されたものしか使えない。では、どこに照準を合わせれば良いのか、これまでは1月のセンター試験1回に対応していれば良かったものが、民間の試験に複数回の受験に対応していかなければならない。これは非常に大きな変化ということが言える。では、本当に複数回受験させて良いのか？6月、9月、12月…とずっと続いている試験を受験することは生徒の精神的にどうなのか、ということを入念に入れておかなければならないと思われる。その中で、どの検定を活用していくのかという戦略を練ることが重要になっていく。

また、さまざまな民間の検定が認定されているが、これらは全て横並びでCEFRの基準(C2～A1)にあてはめていくことになる。検定が異なっても生徒を測る力は変わらないと言われているが、実際にはそれぞれに特性がある。例えばケンブリッジ英検では、上から下まで満遍なく学力を測れるが、一般になかなか馴染みはない、英検であれば馴染みはあるが、各級の間、細かい刻みの間の指導がしにくい、GTECは大学から必要とされるかわからないようなC2は測れない。つまり、各検定で測れる領域と測れない領域がある。ここは手間がかかかかすが丁寧に情報を整理していく必要があるだろうと考えられる。ちなみに、英検は、今回の審査で不認定となり、新しい検定が認定された。いわゆる英検と新英検と呼ばれる2種類があることを生徒に周知しておかなければならない。ちなみに、この4技能の流れは高校入試でも現れつつあり、東京都ではスピーキングテストが導入され、大阪など各都道府県でも検討されている。

次に、大学入学共通テストについて見ていく。やはり思考力・判断力・表現力をしっかり測るものになっている。導入のスケジュールについて、昨年プレテストを行い、今年は12月に実施し、来年度にまた確認プレテストを行ってから本番という形になる。

現在、プレテストの問題から様々なことが分析されているが、気をつけなければいけないのは、今行われているプレテストがそのまま出るのはではないということである。本番のテストは、これまでのプレテストの結果を踏まえてどういう偏差になるのか、どういう採点になるのか、それに生徒がどう対応しているのか、全部分析をしていって最終的に仕上げられることになる。現在のプレテストの傾向がそのままテストになるわけではないということを入念に入れておかなければならない。実際にプレテストを見ていくと、内容・特徴として、社会との関わりや探求活動を意識した問題が増加している。複数の資料を読み取り、情報を統合、考察する力を重視している。数学Bのベクトルのところで話したが、データをどのように処理していくのかということが求められている。また、解答形式も多様化している。国語と数学では記述式が求められる。新マーク形式では「正解が複数ある」「解無し」などといった新しい形式が出題される。これまでは、テクニックである程度まで正答を絞りこめた場合もあったが、これからは2択のうち最初が○だったから後は読まなくても良いということにはならず、一つひとつ全ての問題を吟味する必要が出てくる。記述については、解答形式で段階的に根拠・立場・判断などの正当の条件があり、それに合致しているのかということを見られる。

自己採点については、マーク形式ではある程度採点できたが、記述は自己採点が中々難しい。弊社でも自己採点について分析した結果、国語では20～30%の誤差が生じていた。数学でも5～10%の誤差があった。やはり自己採点は難しいだろうと思っている。従来のマーク模試ではなくなってくることで、記述式の問題が入ってきて、思考・判断の面でも自己採点しなければならないということが課題となってくる。

次に、入試の多面的・総合的評価について見ていく。次期学習指導要領における評価については「生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことや価値を実感できるようにすること」とあり、要はプラスでしっかりと使えるようすることが示されている。生徒のやってきたことや努力をしっかりと評価する、学力一辺倒では無く、これをポートフォリオで評価を実施し、生徒の学習を促すような評価が求められている。

実際には一般・推薦・AOの区分を見直して、すべての入試区分で学力の3要素が適切に評価されることが求められている。具体的には、一般入試では調査書や志願者本人の記載する資料を積極的に活用していく、AO・推薦入試では学力不問につながる記載の削除などが検討されることになった。これまでの推薦・AO入試では知識・技能及び思考力・判断力・表現力の評価が不十分なので、これからは大学独自で実施するか、大学入学共通テストのうち、いずれか一つの活用が必須化される。

一般入試ではやはり学力が中心となっている現状を変えていくための方法論として推薦・AO入試の募集人員を3割まで増やしていくと文科省は言っている。現在は、15～16%台であるが、2015年にアクションプランが出てからは増加してきているので、さらにスピードアップして拡大していく可能性がある。

この多面的・総合的な評価については、教科の学力だけでは無く、学びの履歴、生徒の学習を促すような部分、学習をした結果をしっかりと見ていくため、調査書など提出書類の変革、「e-Portfolio」が検討されている。

まず、調査書については現在の両面1枚までという制限が撤廃される。指導上参考となる部分を拡充して記入する、ある意味好きなだけ書いてくださいということになる。すでに調査書については改定案が出されているが、現在の6項目が大きく変わるのではなく、時系列でしっかりと記入していくことになった。各教科・科目等に関するにおける具体的な学習状況や様子・特徴、校内外における活動の状況や特徴、部活やボランティア活動等の具体的な取組内容・実施期間、その活動における特徴などを記載していく。こういった部分を電子化していきというのが「e-Portfolio」の動きになる。現在は関西学院大学を代表校として活用調査をしているが、現在の1年生からの活用と考えられていたが、現在の3年生の入試から活用するとあり、それが現在は93大学で活用されることになり、急ピッチで活用が進められている。

具体的には「e-Portfolio」の枠組みをネット上に構築し、生徒自身が学びのデータが入力するものになる。これが3年間分蓄積される。その入力様式、学びのデータの詳細については、この夏に公表される。これまでの学びの履歴は、教師が作成した調査書や推薦書という形式で作成されて活用されたが、今度はそれを生徒自身が「e-Portfolio」で入力することになる。それを各大学はWEB出願という形式で「この項目をみる」「このような生徒を望む」などとして活用することになる。この大学入試については大学改革でもあり、大学がどのような人材を育てて、輩出していくのか、そのためにはどのようなカリキュラムが必要なのか、どのような入試を実践していくのかを明確にすることが求められていることから、各大学はそれに沿った項目を「e-Portfolio」からデータを抽出して、場合によっては合否の判断をしていくという形で使用していくことになった。将来的にはもっとさまざまな活用がある考えられているが、個人情報保護の観点もから難しい点もある。

繰り返しになるが、ポイントは生徒が入力することである。では、学校がやるべきことは何か。まずは、その生徒が在籍しているか存在証明をする、その後に生徒は「e-Portfolio」で入力していくことになるが、学校は最後に生徒が入力した内容の承認をすることになる。これが「e-Portfolio」の枠組み、全体像になる。

では、入試において具体的な活用はどのようなになるのか、大きく3パターンとなる。1つは、「出願基準」としての活用である。評価得点が一定基準を満たしている者のみ出願資格を認める。もう1つは「加点」としての活用、これまでの学力検査得点に「評価得点」として合否判定に使用する。最後に、「参考利用」としての活用、合否判定の参考資料として利用する。これまでの入試における一点刻みの素点の評価ではなく、合否混在ゾーン、例えば1点で合否が変わるところを、上下10点分の得点帯の生徒の状況を見て合否材料として利用する。その得点帯の誰を合格にするのか、過去の取組や学びの履歴をみて判断しようという参考の仕方になる。

まだ活用が定まっているわけではないが、このような活用が考えられている。現在も活用する大学は増加していて、ネット上で参加大学一覧を見ることができている。また、どの大学のどの募集単位で、どのように活用されるかも一覧で示されている。

繰り返しになるが活用について確認すると3パターンある。1つは入学選抜に係るデータとして、要は合否のための資料としての活用、もう1つは「参考・参照」として活用、最後に「統計データ」として活用がある。現在は「入学選抜に係るデータとして活用」はまだ少なく、「参照・参考」「統計データ」として活用が多い。しかし、合否の材料として活用される例は少ないとはいえ、データの提出を必須とする大学もあるので、生徒が志望大学を決めたらすぐに問い合わせ、何を何に使うのか問い合わせ調べさせることが重要なことと思われる。

最後に、授業、評価、入試…、何から何まで変わる非常に大きな変革である。学校として各部分をバラバラに取り組むのではなく、到達目標を明確にして、組織としてコンセンサスを取りながら変化に対応していくことが必要である。

「支援を必要とする生徒の理解と ユニバーサルデザインに基づいた授業づくり」

講師：秋田県立栗田支援学校

教諭(兼)教育専門監 新 目 敏 子 氏

1 実施日時・場所

平成31年1月15日(火) 15:30~16:30(場所:語学室)

2 講演会(要旨)

学びやすさや認知の特性には生徒一人一人に違いがあり、支援を必要とする生徒とは認知の特性が強い生徒であり、得意不得意の差がとても大きい生徒である。授業のユニバーサルデザインを考える上で、「授業づくり」と「生徒指導」の2つの視点があるが、「授業づくり」だけでなく、「生徒指導」の視点を忘れずに持つことが大切であり、一人一人が「分かる・できる」授業を目指すと共に、自尊感情や自己肯定感を育むことが必要である。ユニバーサルデザインのねらいは、この両方であり、一人一人が尊重しあえる学級集団となることや一人一人が自分の力をその集団の中でよりよく発揮できることにある。

授業のユニバーサルデザインとはより個々に焦点を当てた指導のことであり、新しい概念というよりもこれまで皆さんが行ってきた指導方法と何ら変わりはなく、これまでの通常学級で進められてきた教育や児童生徒の理解、学級経営を土台とした授業づくりをより推進していくための考え方である。

発達障害とは3つ〔①限局性学習症(SLD) ②注意欠如・多動性(ADHD) ③自閉症スペクトラム(ASD)〕に分類されるが、知的な遅れではないため、通常学級の中で多くの生徒が生活していることになる。それぞれ脳の機能に違いこそはあるが、「できない」ということではなく、脳の情報処理の仕方が違うため、学習の取り組みを工夫することが必要である。

①限局性学習症(SLD)は、「聞く・話す・読む・書く・計算・推論」のうち特定の習得と使用に課題があるため、どこに困難があつてつまずいているのかを具体的にすることが必要である。②注意欠如・多動性(ADHD)は、課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しいなどの「不注意」や、手足をそわそわ動かしたり、着席していてももじもじしたりするなどの「多動性」、質問が終わらないうちに出し抜けて答えてしまうなどの「衝動性」の3つがあり、1つだけでなく複数に該当している場合も見られ、行動を抑えるのではなく、落ち着いた行動を増やすための手立てを考えることが大切である。③自閉スペクトラム症(ASD)は、社会性の障害(人への興味よりも物)やコミュニケーションの障害(他人に意思を伝えるのが苦手)などがあるが、「予防的対応」や「早期対応」が重要となる。

また、近年問題となっているのが、女子(女子生徒)の発達障害であるが、「個性」と捉えられることが多く、それなりにできているようにも見えるため、気付かれにくいことが多い。女子同士の関係で悩みやトラブルを抱えるものの、思春期の問題と見過ごされることもあるため、大人になってから周囲が気付くこともある。そのため、早めの気付きや対応が必要である。

他にも、「愛着障害(AD)」は第4の発達障害と言われ、生後5歳未満までに親やその代理人となる人と愛着関係が持てず、人格形成の基盤において適切な人間関係を作る関係性の障害で感情の発達が未発達な状態である。愛着形成の3基地機能(安全基地機能・安心基地機能・探索基地機能)がうまく働いておらず、愛情欲求行動や自己防衛行動、自己評価の低さなどが見られる。「叱る」のではなく、1対1での関係作りや愛情を感じさせることなどが必要である。「マルトリートメント(不適切な養育)」は虐待だけでなく、子どもの心と身体の健全な成長発達を阻む養育全般

のことであり、子どもの脳にダメージや影響を与える。人間関係の問題でもあるので本人だけでなく、その家族や教育機関、医療機関との連携が必要となる。「境界領域知能の特性」は発達障害までとはいかないが、それに近い生徒たちのことであり、ゆっくり・繰り返し・具体的に指示を心掛けることが大切である。

これまでの発達障害を含め、支援を必要とする生徒への対応を考える上で、つまずきやすい生徒への有効な支援は他の生徒にとっても有効な支援であるという理解のもと、授業のユニバーサルデザインを理解するためのキーワードとして、「焦点化」(シンプル)「視覚」(ビジュアル)「共有化」(シェア)の3つが挙げられるが、この3つを各教科・科目の授業場面で意識していくことが大切である。

また、授業での「学び」の階層モデル(2012年度版)によれば、支援を必要とする生徒が授業に参加する(活動する)ためには、クラス内の理解促進やルールの明確化、刺激量の調節などが挙げられ、理解する(分かる)ためには、焦点化や展開の構造化、スモールステップ化(必要な子どもへの準備)などが挙げられている。

授業のユニバーサルデザインの第一歩として、支援を必要とする生徒たちが安心できる学級づくりから始めることが大切であり、教室環境の整備や座席の配慮など個別に特化した指導・支援よりも、「共感」が広がる学級づくりを心掛けることが大切である。「分かる」「できる」「楽しい」授業とは、一斉指導の中につまずきの背景を考慮した指導の工夫(授業の構成・教師の話し方や発問・板書やノート指導の工夫など)を取り入れている。授業の構成とは、見通しがもてるように学習の流れを提示したり、復習をテンポ良く取り入れたりすることであり、ユニバーサルデザイン化された授業の5つのテクニック(「ひきつける」・「むすびつける」・「方向づける」・「そろえる」・「分かった」「できた」と実感させること)が学習活動に取り入れられていることである。教師の話し方や発問にしても、全員が理解できるように簡潔に話したり、生徒の頑張りを認め、肯定的な表現で話したりと教師の指示や発問が子どもに伝わるようにすることが必要である。競争ではなく、協働学習を大事にすることで、多様性を尊重し互いに認め合えるようになり、互いに認め合う「集団としての有能感」と「その集団への所属感」が人を育てていく。

自己肯定感を高めるためには、学力の向上だけでなく生きていくための力(全人的な力)も併せて身に付けさせることが必要であり、学力の高い生徒のライフスキルが高いとは限らず、自立に必要な力としても粘り強く身に付けさせてほしい。また、自己肯定感を高める指導の手法としては様々あり、「生徒指導提要」に多く掲載されているので参考にしてほしい。

<質疑応答>

(質問) ユニバーサルデザインとは少し異なるが、配慮や支援が必要な生徒に対して周囲の生徒がどのように理解して受け入れ、関わっていけばよいのか。それに対してどう指導していけばよいのか。(柏谷先生)

(回答) 高校生くらいになるとお互いに分かるようになる部分もあるので、指導する側は周囲の生徒の良い声掛けや行動があった場合に、褒めるなどして言語化することによって、その声かけや行動を認めてあげることが大切である。指導する側が生徒同士の間に入って、調整役としての役割を果たすことや保護者とクラスでの関わりについて相談することも必要である。



勝平地区小・中・高・特別支援学校連携協議会

研修部

◎ねらい

勝平小学校・勝平中学校・秋田商業高校・秋田きらり支援学校が互いに連携し、多様な教育活動や課題解決に取り組むことで、長期間を見通した計画的・継続的な支援のあり方を模索し、児童・生徒の学習方法の確立や学習内容の定着、生活習慣の形成に努める。

1 期日 平成30年5月30日（水）

2 場所 秋田市立勝平中学校

3 日程

- (1) 授業参観 13:35～14:25
- (2) 連携協議会
 - ① 全体会
 - 1) 勝平中学校長あいさつ
 - 2) 今年度の学校間連携について
 - ② 分科会（各部会・プロジェクトの協議）
 - ③ 全体会
 - 1) 各部会からの報告（報告：各部会記録者）
 - 2) 勝平小学校長のあいさつ



4 各部会で話し合われたこと

- (1) 小中連携部会
 - ① 子ども育成・学校間交流プロジェクト
夏季休業中の学習サポートや中学校一日生活体験、学校説明会などを継続していく。
 - ② 教育相談プロジェクト
不登校生との現状確認や、スクールカウンセラーによる研修会を実施する。情報交換の方法を今後どのようにするか検討する。
 - ③ 中1情報交換会
今年度の中1についての情報交換を実施する。
 - ④ 学力向上プロジェクト
学級づくり（集団づくり）やめあてを明確にすることは学力向上に欠かせない。
- (2) 中・高連携部会
1年間の活動計画 勝平中学校2年生による商業科目体験授業
『商業高校ニュース』を通して、商業を学ぶ生徒の活躍や学習内容への理解を深めてほしい。
- (3) 中・特別支援学校連携部会
かがやきの丘祭りや合唱コンクールなどを通して、生徒同士の交流を深める。



勝平中学校授業参観及び各教科研究協議会 参加報告

研修部

- 1 とき 平成30年10月31日（水）
- 2 ところ 秋田市立勝平中学校
- 3 日程 特定授業参観 11：05～11：55
教科研究協議会 13：45～15：05
- 4 参加者 本校からは、特定授業（研究授業）参観に4名、教科研究協議会に2名参加

～参加した先生方から～

授業参観した感想

- ・教室に入った瞬間に雰囲気良さがすぐに感じられた。先生と生徒の信頼関係、コミュニケーションが普段からとれているのがわかった。細かい点はいろいろあるが、ALTとのTTも素晴らしく、楽しそうだった。（英語）
- ・「新聞の社説を比較して読もう」というテーマで、A B二つの記事について、「見出し」「主張」「論理展開」「表現・語句」の観点から比較し、評価するという、とても興味深い取り組みを見せていただいた。グループでの話し合いの様子から、自分の意見をはっきり伝え合う様子が窺え、普段からこのような授業が行われているであろうことが想像できた。（国語）

【参観した教科】（人数） 英語（1） 数学（1） 技術・家庭（1） 国語（1）



教科研究協議会の様子

【英語科】

- ・とても良い雰囲気です。お互いに遠慮することなく意見を出し合い、あっという間に時間が過ぎた。
- ・中学校現場の様々な話題等、共有することができた。

【国語科】

- ・研究主題と協議題の説明があった後、授業者からの反省、参加者による協議、指導主事からの指導助言という流れで進んだ。
- ・協議の中で、「説得力って何？」という話になり、主張に対する具体例・根拠にいかにかんじけ力があるかだという意見が出て、なるほどと思った。ほかにも、「書くことによって思考すること」「グループの意見を付箋に書く場合は、キーワードだけにし、根拠は発表すること」「『本当にそれでいいの？ 少数意見だけれど、どう思う？』といった『ゆさぶり』をかけてみること」「自分の考えが授業の初めと終わりではどう変わったか。あるいは変わらなかったかを振り返らせること」など、参考になることが多く、実りある協議会であった。さっそく自分の授業に取り入れてみようと思う。



勝平中学校 2 年生による商業科目授業体験

商業科 櫻庭 咲子
柏谷 亜紀子

1. はじめに

小・中・高・特別支援学校連携協議会において、勝平小・中学校、秋田商業高校、きらり支援学校が互いに連携し、多様な教育活動や課題解決に取り組むことで長期間を見通した計画的・継続的な支援のあり方を模索し、児童・生徒の学習方法の確立や学習内容の定着に努めるとされている。そのような状況の中で、中高交流授業の一環として勝平中学校の2年生が秋田商業高校を訪問し、授業を体験することで商業科目及び商業高校についての理解を深めている。

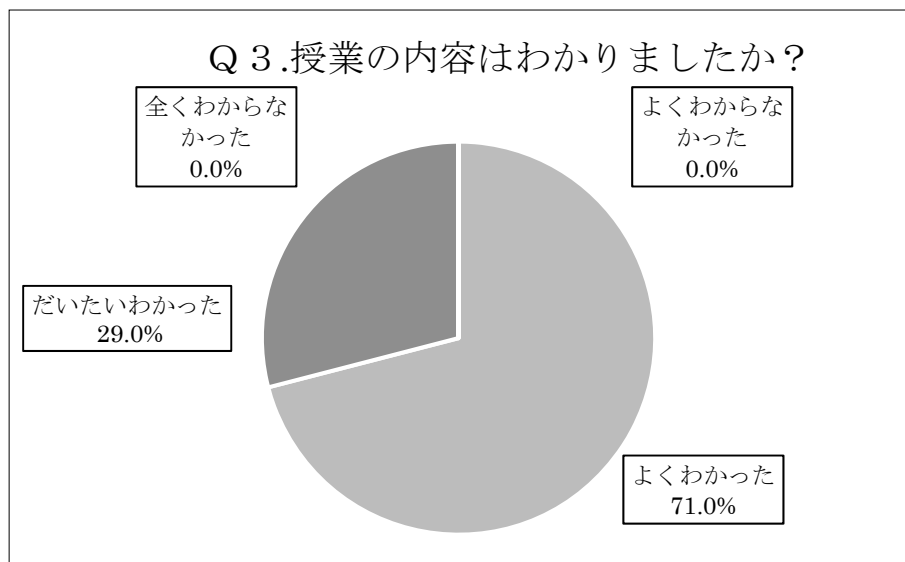
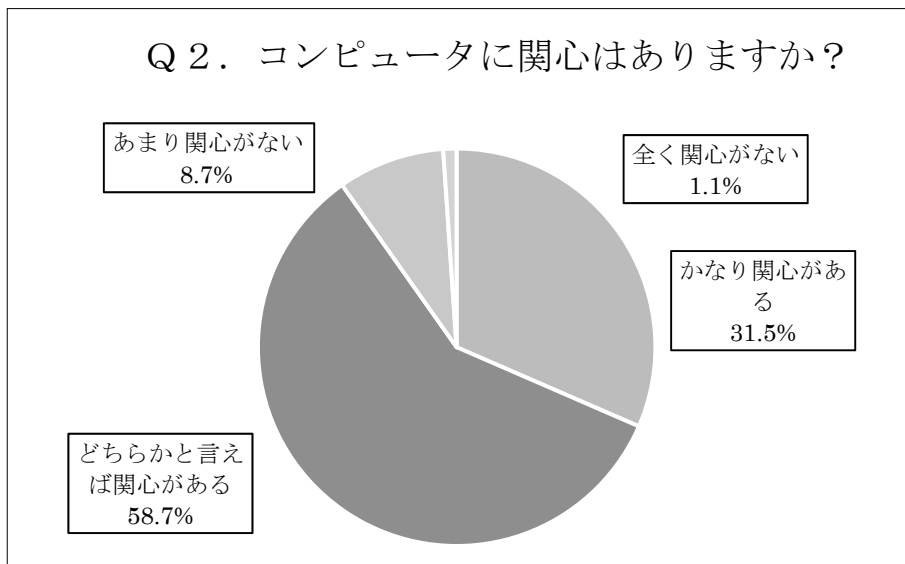
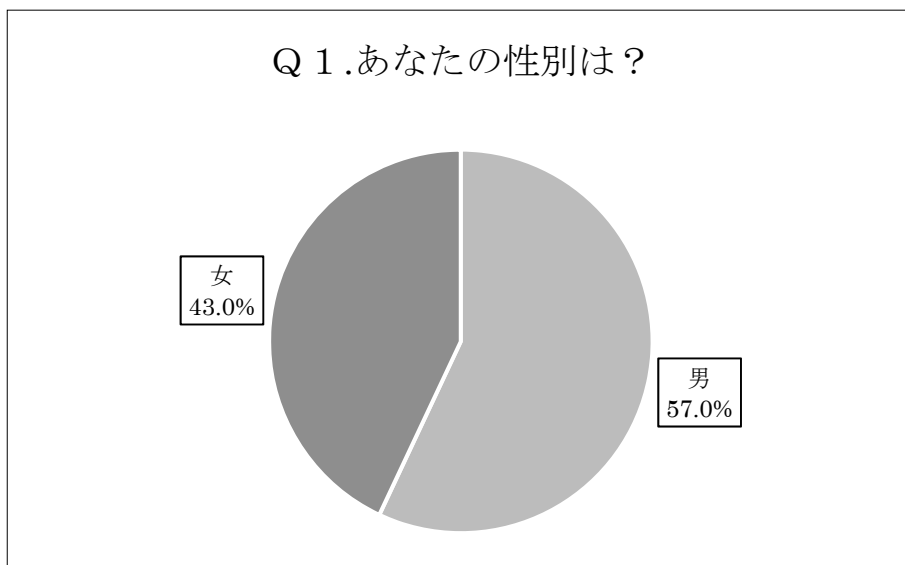
2. 実施内容

今年度の中高連携授業は平成31年2月13日（水）に行われ、本校の3年生が「電子商取引」で学ぶHTML言語を用いてWebページの作成を行った。導入部分では、商業科の説明や各コースの説明および電子商取引についての説明を行った。その後、Web作成に入り、中学生はメモ帳を使いHTML言語を入力した。今年度は事前にキーボード操作の習熟度別に教室を分けたため、比較的スムーズな実習となった。完成したページの背景色や文字色を変更しプレビューで確認する実習では、生徒は簡単に好きな色に変更できることに驚いていた。本校教員だけでなく、勝平中出身の本校情報コース3年生もこの授業のアシスタントとして後輩たちへの指導を経験することができ、とても充実した時間となった。

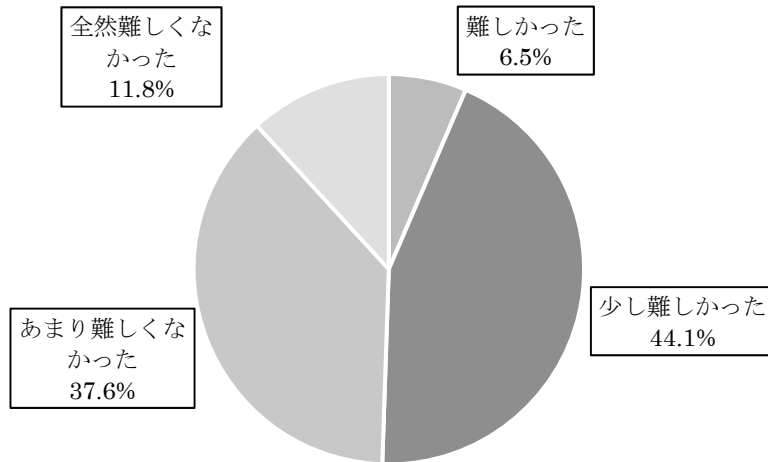


時間	内容		備考
～ 9:50	秋田商業高校到着、生徒昇降口で内履きに履き替えて各教室へ		1校時
10:00	総合情報処理室（定員88） 61名（男子28、女子33）	プログラミング室（定員44） 39名（男子28、女子11）	2校時
～10:10	開会行事（進行：宮野） 1 挨拶（中村教頭） 2 日程説明 ※アンケート用紙配布	開会行事（進行：小山） 1 挨拶（加藤教頭） 2 日程説明 ※アンケート用紙配布	
10:20 ～11:30	授業体験 担当：米澤、佐藤和、石田、藤原	授業体験 ※勝平中卒業生（3年EF組4名） 担当 柏谷、菅原	3校時
11:30 ～11:40	閉会行事 1 挨拶（中村教頭） 2 勝平中生徒挨拶 ※アンケート回収	閉会行事 1 挨拶（加藤教頭） 2 勝平中生徒挨拶 ※アンケート回収	
11:50～	勝平中学校へ移動		

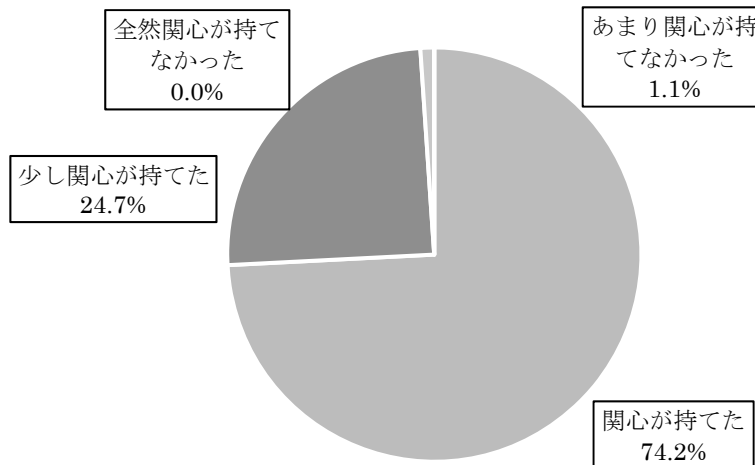
3 アンケート集計結果（対象者 勝平中学校2年生 93名：男子53名 女子40名）
※当日6名欠席



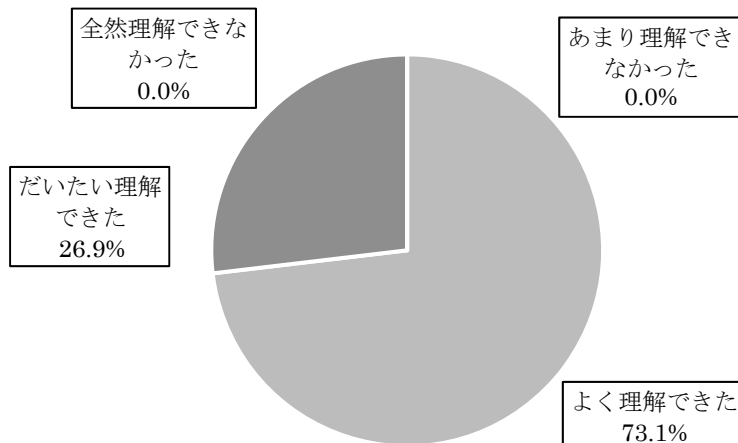
Q 4. 授業内容は難しかったですか？



Q 5. 授業内容に関心は持てましたか？



Q 6. 先生の話は理解できましたか？



4 参加生徒からの質問 ※回答は後日「アンケート結果」とともに勝平中学校へ送りました。

Q「秋田商業のよいところはなんですか？」

A①秋田県唯一の商業高校として、商業に関する専門的な学習ができ、それに伴い商業に関する様々な資格を取得することができます。

②秋商生は、ビジネス実践（AKISHOP・キッズビジネスタウン・エコロジカルビジネス）を通して、地域と連携し、様々な世代の方々と交流を深めています。

③部活動が活発で、運動部・文化部とも多くの部活動が全国大会に出場し活躍しています。そして、他の部活動に対して互いに応援し、活躍を讃え合う雰囲気があります。

④秋商生は、秋商生であることに誇りを持っています。商業の学習や部活動を通して自分が秋商の生徒であることに自信を持ち、「秋商プライド」を育んでいます。

Q「部活動には必ず入らなければなりませんか？」

A 基本的に、全員部活動入部制をとっています。部活動は運動部が12、文化部が12、同好会が1、生徒会執行部（AKISHOP）1となっています。この中から自分の進路や競技実績を考慮して、何かしらの部活動に入ることとなります。また、本校の部活動にない競技を行っている場合は、外部団体の活動に参加することもできます。

Q「卒業生の就職先は何が一番多いですか？」

A 事務系への就職が一番多いです。また、就職希望の生徒の約8割は、県内就職を希望しています。特に、県内就職を希望する生徒の中でも事務職や販売職を希望する生徒が多くなっています。

Q「秋商から商業系ではない専門学校に行くことはできますか？」

A 本校では進学が6割を超えています。多くの生徒は資格を活かして商業系の大学や専門学校に進学しますが、看護医療系や理美容系、あるいは、保育士、幼稚園教諭などを目指して進学する生徒も多くいます。

Q「プログラミングはどのようなことをしますか？」

A コンピュータを自分の思い通りに動作させるためには、コンピュータを動かすための基本的な考え方であるアルゴリズムやソフトウェアを作成するためのプログラミング言語を覚える必要があります。そのため、プログラミング言語を用いた基礎的な学習やWeb・アルゴリズムに関する学習を行います。

Q「プログラミングの授業では人工知能にふれたり、作ったりしますか？」

A 人工知能とはどういうものかには触れたりしますが実際に作ったりする実習は行っていません。

Q「英単語ばかりだったけど、英語を勉強していないとスムーズに進められないですか？」

A 商業科目の中には英語を扱う科目もいくつかありますが、基本的な内容となっています。そのため、中学校卒業程度の知識があれば授業に支障がでることはありません。

Q「ハッキングされたときはどう対応していますか？」

A ハッキングされないようにセキュリティを高めています。

Q「ウイルスが侵入したときの対応の仕方を教えてください」

A 日常的にウイルスは侵入しています。使用するパソコンには、ウイルス対応のソフトを入れる必要があります。本校では、ファイアウォールという、ウイルスの侵入を遮断するシステムを導入しています。

Q「商品はどこで作っていますか？」

A AKISHOPで行っている商品開発は、生徒たちがアイデアを企画書にまとめ、市内の協力企業に持って行きます。そして、協力企業が商品化可能だと判断したものが商品となります。そのため、生徒のアイデアをもとに企業が製造を行っていることとなります。

5 参加生徒の感想

- ・文字を打つだけで、『背景や文字の色が変わったり、大きさを変えられるのが面白かった。自分で調べて試してみたい。
- ・どのようにしてWebサイトを作るのかを学ぶことができた。どうすれば人は気に入ってくれるのかなど人の心理についても考える場面があり、楽しかった。
- ・長い文章を入力するのは大変だったけれど、一つ一つの入力の方法を覚えてスムーズに入力することができました。秋商のことについても知ることができました。
- ・今まで秋商のイメージがあまりなかったけれど、今日の授業で秋商はとても楽しそうな所だとい

- うイメージが強くなりました。今日習ったことを家でも機会があったらやってみたいのです。
- ・コンピュータを使うにはまず打つのを速くしなければいけないなと思いました。打つのが遅いと何事も遅くなってしまいますので、この機会にそのことを知ることができたので良かったと思いました。丁寧に教えてもらえて、内容を理解できたので良かったです。
 - ・授業がとてもわかりやすかったです。僕も自分のホームページを作りたいと思いました。
 - ・商業に入りたいという思いが強かったので、今回の授業でパソコンに慣れておくようにしておきたいと思いました。ホームページの作り方を参考にして自分のページを作りたいくなりました。
 - ・最初はいろいろ不安でしたが、先生方の説明などのおかげで理解することができました。また、商業の先輩方も優しく教えてくださったので安心してできました。楽しく授業を受けることができて良かったです。
 - ・普段あまりパソコンを使わないので難しかったです。社会人になってすらすらできるようになりたいです。たくさんことができちゃったので楽しかったです。
 - ・今日はコンピュータに少し詳しくなった気がしてとても楽しかったです。自分でもやってみたいことが増えて、とてもうれしかったし、先輩たちも優しく教えてくれてよかったです。今日は、ありがとうございました。
 - ・たった1つの色だけで印象が全くちがってくるのが分かりました。相手のことをよく考えてつくるのが大切だと学びました。苦手で分からないことが多かったけど、お姉さん達が分かりやすく教えてくれて助かりました。ありがとうございました。
 - ・秋田商業はどんな学校でどんなことを学ぶのかわかりやすく話してくださってとてもよく理解することができました。Webページの作り方を優しい先輩と先生が教えてくださって完成させることができちゃったです。
 - ・授業の中で一つ一つ丁寧に教えてくださったので、より理解を深めることができました。インターネットへの興味もさらにもつことができたので、今後の学習、普段の生活でも活かしていけるようにしたいです。ありがとうございました。
 - ・先生のわかりやすく、細かな説明で授業中、何も困らず学習できた。また、機会があったら挑戦してみたい。
 - ・私はある専門学校に行きたいと思っていました。でも今回の体験を通して秋田商業高校も選択に増えました。今後の進路に生かしたいと思います。
 - ・商業は商業でも、いろいろな科目があることがわかりました。これから進路を決めていくときに今日の事も考えたいです。
 - ・ヤフーなどのホームページは、あんなにたくさんの文字と数字でできているのがすごいと思いました。今回、文字を早く打つことができるようになり、良かったです。先生の説明もとても分かりやすくスムーズに進められました。
 - ・商業の授業を受けてみて、パソコンを使用してホームページを作りました。普段は様々な検索をするためにヤフーなどを活用しているけど、どのようにしてできていたかわかりませんでした。たくさんの文字が打ち込まれてできていて驚きました。
 - ・コンピュータはあまり使ったときがなかったけれど、中学校の授業で練習していたのですらすらやることができました。今回秋田商業体験をしてたくさん学ぶことができてよかったです。コンピュータが好きになりました。授業の内容は難しかったけど、しっかりと先生の話の聴いて行うことができました。楽しかったです。
 - ・パソコンは苦手だったけど、ゆっくり進めてもらったので正確に打つことができました。分からないところがあっても分かりやすく教えていただき助かりました。
 - ・あまりパソコンを使う機会がなかったので、パソコンを使うのがとても楽しかったです。コンピュータについて関心を持つことができました。



授業公開週間実施報告

研修部

- I 趣 旨 お互いに授業を参観し合うことにより、指導力向上と授業改善を図るとともに、生徒理解に役立てる。
- II テーマ 組織的・継続的に取り組む授業改善
～確かな学力の育成をめざして～
- III 期 間 1回目 6月11日(月)～22日(金)
2回目 11月12日(月)～30日(金)
- IV 授業するに当たっての留意点
- ①【本時の目標】を提示する
 - ②生徒の「なぜ」を引き出す「発問」を工夫する。
 - ③生徒が主体的に取り組む学習活動の場面や時間を設定する。
(グループ活動・教え合い・調べ学習・考察・発表など)
 - ④【本時の目標】に対する「振り返り」をする。
- V 実施方法
- (1) 期間中、各教科代表者1名(今年度研修対象者は除く)が、アピール授業を行う。なお、商業科に関してはコースごとの代表者1名以上がアピール授業を行う。
その際、最低1回は科会を開き、科全体で授業研究し、組織としてその授業に関わる。指導案作成は特に求めないが、作成した場合は、参観者に配付する。
アピール授業は、時間割変更黒板の時間割に赤の蛍光ペンでマークをするとともに、「アピール授業一覧」に授業内容等を記入する。
 - (2) 期間中、全職員が自教科1時間以上、他教科1時間以上、計2時間以上(家庭科・芸術科は他教科2時間以上)の授業を参観する。
 - (3) フリー参観形式。1時間内に複数の授業を参観してもよい。ただし、授業時間の半分(25分)は参観する。
※参観する際のポイントは参観シートに記載
 - (4) 参観時には『参観シート』(時間割変更黒板の下に準備)を持参し(1授業につき1枚)、記入して『参観シート提出袋』(教頭席前)に提出する。
※研修部でマークシートを読み取った後、授業者へ渡す。
 - (5) 授業変更等がある場合
 - ①期間中、出張・年次の場合は、できるだけ授業変更をする。事前にわかる場合は、研修部担当者まで知らせる。
 - ②時間割変更黒板の時間割に黒で変更後のクラス・実施場所などを書き込む。事前に知らせてもらったものに関しては、時間割に反映させる。
 - ③やむを得ず自習にする場合は、時間割に黒で「自習」と書き込む。

VI 実施状況—アンケート結果から

「第1回 授業公開週間」アンケート等集計結果 (8/21)

回答数 49人/49人 (100%) 授業参観者数 48人/49人 (98%)
 自教科 48人/49人 (98%)
 他教科 43人/49人 (88%)

◎参観シート集計結果

参観日	人数
6月11日 (月)	13
12日 (火)	7
13日 (水)	11
14日 (木)	7
15日 (金)	13
18日 (月)	11
19日 (火)	11
20日 (水)	13
21日 (木)	21
22日 (金)	4

参観校時	人数
1校時	29
2校時	22
3校時	29
4校時	9
5校時	12
6校時	10

参観教科	人数
国語	12
数学	10
英語	15
地歴公民	13
理科	5
商業	45
保体	4
家庭	1
芸術	6

1 担当教科は何ですか？

国語 (5人) 地歴・公民 (3人) 数学 (4人) 理科 (3人) 保体 (5人)
 芸術 (1人) 英語 (6人) 家庭 (1人) 商業 (22人)

2 いくつかの授業を参観しましたか？

授業数	自教科	他教科
1	39	32
2	8	8
3	0	3
4	0	0
5以上	1	0
参観していない	1	6
計	49	49

「参観していない」と答えた方はその理由を記入してください

- ・大会、行事があり余裕が無かったため
- ・急な行事があったためまた空き時間が少なかったため
- ・出張、年次で空き時間がほとんどなかったため
- ・自教科を優先的に参観していたら他教科を参観する余裕が無くなったため

3 他教科では何の教科を参観しましたか？ (複数回答あり)

国語 (7人) 地歴・公民 (7人) 数学 (6人) 理科 (2人) 保体 (0人)
 芸術 (5人) 英語 (10人) 家庭 (0人) 商業 (14人)

4 1) 組織として取り組むことができましたか？

- ・教科全体で取り組んだ (20人)
- ・同一科目担当者とともに取り組んだ (22人)
- ・取り組んでいない (取り組めなかった) (7人)

2) 1) で「取り組んでいない」と答えた方に → 理由を記入してください。

- ・時間の余裕が十分でなかった
- ・教科が1人なので取り組めなかった
- ・時間がとれない
- ・時間的な余裕がないと思う

5 1) 教科主任の先生はお答えください。教科内で科会を開きましたか？（回答のまま）

- ・はい (10人)
- ・いいえ (8人)

2) 1) で「いいえ」と答えた方に → 理由を記入してください。

- ・時間の都合が合わなかった
- ・教科が1人なので取り組めなかった
- ・時間がとれなかった

6 実施時期及び期間に関する意見ついて、あてはまるものを選んでください。

【実施時期について】

- ・今のままでよい (45人)
- ・変えた方がよい (4人) ・ 考査期間に近くない時期 ・ テスト後

【実施期間について】

- ・今のままでよい (41人)
- ・もっと短い方がよい (5人) ・ 1週間～10日位 ・ 10日 ・ 7日
- ・もっと長い方がよい (3人) ・ 15日 ・ 21日
- ・ 大会等が重なっていると参観日数が少なくなるため、もっと長くしてほしい

7 自分の授業に取り入れてみたいと思った授業内容を記入してください。

- ・生徒が興味を持つような発問
- ・グループワークで大きな用紙に自由に記述させ、生徒が思ったことを素直に書いていた
- ・大関先生のワールドカフェ方式
- ・授業の振り返り
- ・アクティブラーニングのグループ活動
- ・プロジェクタやパワーポイントの活用
- ・簿記のグループ学習
- ・音楽 I 鈴木先生が考えさせる場面をしっかりと作っており、自分も工夫したい
- ・英語で日本語を使わない前提の授業がとても興味深かった
- ・ICT機器の活用
- ・ペア学習、グループ学習
- ・音読練習のしかた、話し合いをさせるときの手法
- ・石田先生の知識構成型ジグソー法
- ・生徒の興味関心を惹きつけるような知識や話題が提供できるようもっと研鑽を積みたい
- ・教材提示装置の活用
- ・4技能を意識した授業でのデジタル機器の活用
- ・生徒の動きをより活発にするため机の配置を思い切って変えてみる
- ・グループディスカッション
- ・パワーポイントを使って音声+視覚にもインプットする授業

8 今後、自分の授業で改善したいと思っていることがありましたら、記入してください。

- ・生徒の理解度をしっかりと把握した授業展開
- ・1時間ごとにしっかりと目標の着地点を決めて、そこに向けてわかりやすい教材研究、板書計画を行いたい
- ・授業に主体的に関わろうとする態度の育成
- ・生徒が理解しやすい授業内容と活動しやすい題材を考えたい
- ・生徒への問いかけもっと考える発問をしたい
- ・生徒の考えを引き出す質問の工夫
- ・単元によって最適な教材を考えていく
- ・今以上に生徒の主体性を促す授業を目指したい
- ・検定のための授業になっている点をどうにかしたい
- ・グループ活動をすると生徒同士が関係のないことで盛り上がり始めるのでなんとかしたい
- ・振り返りシートをもっと使うこと、振り返りに時間がとれないでいるのが気になる
- ・ICT機器を活用し生徒にわかりやすく伝える
- ・生徒への問いかけ
- ・スピードを速めて復習の時間をとる
- ・プリント授業の際にICT（実物投影機）を利用
- ・自分の考え、意見を英語で表現する
- ・深く考えさせる授業を心がけたい
- ・生徒が集中する時間を意識的に作り、静と動の区別をはっきりとした授業にしていきたい
- ・TTの役割分担の工夫
- ・効果的なグループワークの方法”やっただけ”にならないしかけ
- ・ねらいをしっかりと立てた発問の工夫、板書の工夫
- ・予定をこなすために満足できる仕上がりにならないまま、次に進んでしまう点の改善
- ・本時の目標を明確にする

「第2回 授業公開週間」アンケート等集計結果（1/10）

回答数 48人/48人（100%）

授業参観者数 48人/48人（100%）

自教科 48人/48人（100%）

他教科 43人/48人（90%）

◎参観シート集計結果

参観日	人数
11月12日（月）	1
13日（火）	0
14日（水）	2
15日（木）	7
16日（金）	0
19日（月）	1
20日（火）	8
21日（水）	2
22日（木）	12
26日（月）	15
27日（火）	22
28日（水）	7
29日（木）	4
30日（金）	21

参観校時	人数
1校時	25
2校時	15
3校時	17
4校時	17
5校時	26
6校時	2

参観教科	人数
国語	7
数学	7
英語	18
地歴公民	12
理科	8
商業	32
保体	8
家庭	3
芸術	6

1 担当教科は何ですか？

国語（5人） 地歴・公民（3人） 数学（4人） 理科（3人） 保体（5人）
芸術（1人） 英語（6人） 家庭（1人） 商業（20人）

2 いくつかの授業を参観しましたか？

授業数	自教科	他教科
1	39	37
2	5	4
3	0	2
4	0	1
5以上	0	0
参観していない	1	2
計	45	46

「参観していない」と答えた方はその理由を記入してください

3 他教科では何の教科を参観しましたか？（複数回答あり）

国語（3人） 地歴・公民（5人） 数学（2人） 理科（5人） 保体（4人）
芸術（5人） 英語（9人） 家庭（3人） 商業（11人）

4 1) 芸術科・家庭科以外の先生に伺います。組織として取り組むことができましたか？

- ・教科全体で取り組んだ（21人）
- ・同一科目担当者とともに取り組んだ（12人）
- ・取り組んでいない（取り組めなかった）（2人）

2) 1)で「取り組んでいない」と答えた方に → 理由を記入してください。

- ・時間をとることができなかった（2）
 - ・今年度は行事等の業務で余裕がなかった
 - ・3年の担任で、書類作りや、授業公開の時期が考査間近だったためできなかった

5 1) 芸術科・家庭科以外の教科主任の先生はお答えください。

教科内で科会を開きましたか？

- ・はい（8人）
- ・いいえ（8人）

2) 1)で「いいえ」と答えた方に → 理由を記入してください。

- ・回覧は回ってきたが、アピール授業をしない人がいた
 - ・時間がとれなかった（3）
 - ・科会ではなくコースごとの担当で集まったため

6 実施時期及び期間に関する意見ついて、あてはまるものを選んでください。

【実施時期について】

- ・今のままでよい（37人）
- ・変えた方がよい（9人）
- （いつ頃）
- ・考査期間に近くない時期
- ・年1回でもよい

【実施期間について】

- ・今のままでよい（41人）
- ・もっと短い方がよい（2人）（1週間～10日位）
- ・もっと長い方がよい（0人）

7 自分の授業に取り入れてみたいと思った授業内容を記入してください。

- ・生徒に板書をさせることで、生徒の注目が集まり、理解度が深まると思う
- ・もっと教材研究をして、生徒が興味深い、知的好奇心をもつ授業がしたい（2）
- ・パソコン（プロジェクター）を使った授業（5）
- ・動きがあって生徒が集中できるもの
- ・授業のまとめに「振り返り」に加えて、演習まで取り入れていた（国語）
- ・教室でもタブレットを使用した実物投影（2）
- ・各班の発表を黒板に掲示し、比較、検討すること（3）
- ・日常生活に密着した内容
- ・教科主任の先生の授業はいつみても分かりやすく素晴らしい授業です
- ・商業科や英語科の授業において取り入れたいところがありました
- ・実社会との連携した授業
- ・ゲーム性のある取り組みが生徒の意欲を引き出していた（英語）（2）
- ・単元終了時に総括として深く考えさせる活動

8 今後、自分の授業で改善したいと思っていることがありましたら、記入してください。

- ・規律ある授業やグループ活動の確立（4）
- ・もっと上位層に合った授業をするべきだと思う
- ・板書の美しさ
- ・生徒がアクティブに考え、学習を深められたと実感してもらえる手法を考案したい（4）
- ・パワーポイントなどで効率よく提示する工夫（3）
- ・振り返りを短文に書かせ、学習内容を確認（3）
- ・説明や時間の使い方の改善
- ・具体的な目標を示し、到達するために何をすべきか具体的かつ明確に指導（体育）
- ・目標の掲示
- ・話し合わせた結果をどうまとめるか
- ・もう少しグループ学習を多くした方がいい

Ⅶ おわりに一

授業公開週間実施7年目、昨年度に引き続き参観率100%を目指したが、1回目は達成することができなかった。それほどまでに校務多忙な先生がいるということでもある。2回目は期間を長く取ったこともあり、100%を達成できた。「授業改善と生徒理解」という教員としての研鑽テーマを見失うことのないよう、学校全体で取り組むべきことと信じている。

第1回授業公開週間 授業紹介

6月11日(月)～22日(金)実施

○6月11日(月) 6校時 3E現代文 「敬語への自覚、他者への自覚～ワールド・カフェで話し合おう～」

大関由理先生

【授業時の様子】



【参観者の感想】

- ・先生の授業から「自分がアクティブラーニングをしたらどうなるか」や「興味を持たせるテーマ設定はどうしたらいいか」を色々と考え、学ばせて頂きました。
- ・ワールド・カフェという協議方法は、話し合いに慣れていなくてもあまり負担を感じないで話し合いができ、さらに短時間で結論をまとめられるので、先生も生徒も取り組みやすい活動だと思った。
- ・教師が「最終ゴールはこれ！このやり方で今日はやってみる！」という強い意志があれば、生徒に必ず伝わることを実感しました。

○6月12日(火) 2校時 2D政治経済 「第2次大戦後の国際政治」

今聡先生

【授業時の様子】



【参観者の感想】

- ・情報量の多い授業には、PowerPointが有効だと改めて感じました。テンポのよい説明でわかりやすく、私でも理解できました。
- ・ねらいとふり返りポイントが明確だった。随所で「ここがポイントの…」と確認をしながら進めており、生徒がこの時間で何を学べば良いかがわかるよい授業だった。
- ・暗記だけになりがちな教科を教える者としては、大変参考になりました。私も視覚教材をあまり負担無く作れるようになりたいです。

○6月13日（水）3校時 3CE英会話 「英語でものを説明する」

石塚禎子先生

【授業時の様子】



【参観者の感想】

- ・生徒たちのとても生き生きとペアワークしている姿が羨ましく、印象的でした。やりとりをする生徒の様子を見て、普段からアットホームな雰囲気ですべての授業が伝わってきました。
- ・質問がわからない時に聞き返すことができる生徒がいることはいつもあることではなく、素晴らしいと思いました。
- ・生徒は日本語が無くても指示に従っていたと思います。先日の研修内容に合っている授業で大変参考になりました。

○6月18日（月）1校時 3D広告と販売促進 「ロゴ作り」

米澤雅史先生・小山壘先生

【授業時の様子】



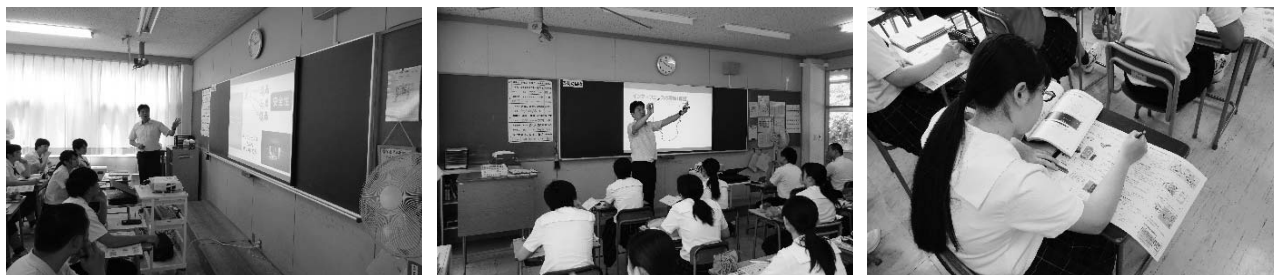
【参観者の感想】

- ・データを読み取り分析するといった情報活用能力に課題があるとされていますが、まさにその力をつけさせるための授業を見せて頂きました。班ごとに課題があり、取り組み方も様々でしたが、適切な指示の出し方も参考になりました。
- ・流通コースらしい内容で、彼らにはここで身につけたことをもとにAKI SHOP等で活躍して欲しいと思います。学力的に厳しい生徒もいるかと思いますが、誰ひとり授業を放棄している生徒はいなかったのです。このまま頑張って欲しいです。
- ・生徒はいろいろ教えてもらいながら、自分の個性をいかした作品を作る楽しさがありますね。

○6月19日（火）2校時 3Eビジネス情報管理 「ネットワーク機器」

中村隆敏教頭先生・佐々木一秀先生

【授業時の様子】



【参観者の感想】

- ・専門用語をわかりやすい言葉での説明や、身近な事柄を例に挙げるなど、生徒の興味関心を高める工夫がされていて参考になりました。丁寧な教材研究（準備）に自分自身を振り返り反省しました。
- ・教科書だとわかりづらいところが、プレゼンソフトを用いることでわかりやすい内容となっていた。生徒の身近な内容へとつなげて興味・関心を高める工夫がされていた。
- ・実物を使用していたので、生徒が用途や機能を理解しやすく、実生活に還元できるものだと感じました。とても参考になりました。

○6月21日（木）1校時 3B総合実践 「税について」

石田雄哉先生・櫻庭咲子先生

※知識構成型ジグソー法による授業

【授業時の様子】

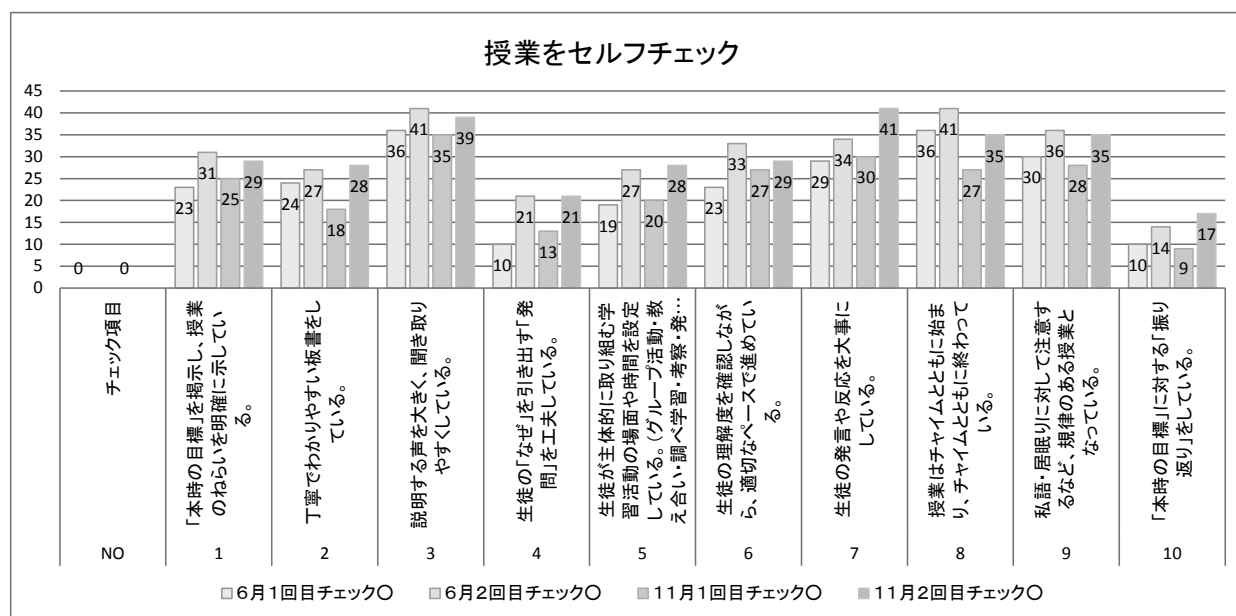


【参観者の感想】

- ・活用型授業教授法の提案という意味で、大変ありがたいアピール授業であった。今後、多くの先生が様々な提案授業をしていただければ学校全体の授業が向上すると思う。
- ・生徒一人ひとりが真剣に考え、とても深い話し合いができていました。自分の考えをあつく語る生徒たちの姿が印象的でした。
- ・授業1時間では学ぶ量に限界があるため、今日の方法だと最終的には1時間分以上のことを学ぶことができ、とても効率の良い授業だと思いました。自分の授業にどう取り入れることができるか積極的に考えていきたいです。

教務部の重点目標の一つに、『研修部と連携し研究授業を推進し、「授業改善」に取り組み「わかる授業」を目指す』ことを掲げている。「授業公開週間」がどの程度の効果をもたらしているのかを教師自身の目からみた評価を行うことでPDCAサイクルの確立の一助となることを期待し、6月、9月、11月の年3回実施した。このうち「授業公開週間」が行われた6月、11月の教員自己評価（授業をセルフチェック）を下記のような考察を含めまとめた。

NO	チェック項目	6月1回目 チェック○	6月2回目 チェック○	11月1回目 チェック○	11月2回目 チェック○
		「6月〇できている」		「11月〇できている」	
1	「本時の目標」を掲示し、授業のねらいを明確に示している。	23	31	25	29
2	丁寧でわかりやすい板書をしている。	24	27	18	28
3	説明する声を大きく、聞き取りやすくしている。	36	41	35	39
4	生徒の「なぜ」を引き出す「発問」を工夫している。	10	21	13	21
5	生徒が主体的に取り組む学習活動の場面や時間を設定している。（グループ活動・教え合い・調べ学習・考察・発表など）	19	27	20	28
6	生徒の理解度を確認しながら、適切なペースで進めている。	23	33	27	29
7	生徒の発言や反応を大事にしている。	29	34	30	41
8	授業はチャイムとともに始まり、チャイムとともに終わっている。	36	41	27	35
9	私語・居眠りに対して注意するなど、規律のある授業となっている。	30	36	28	35
10	「本時の目標」に対する「振り返り」をしている。	10	14	9	17
計		240	305	232	302



考察

6月、11月ともに、アンケート調査の後半で実施した「授業公開週間」のチェック項目の評価がすべて高く、「授業公開週間」が実施されることにより授業改善に取り組む意識と実践の向上に繋がっていると推察される。したがって、今後も授業改善向上のために研修部の授業公開週間は継続されるべきである。ただし、「本時の目標」に対する「振り返り」をしている項目の評価が低い。学力・学習状況調査結果でも全県平均より低い結果がでており、しっかりと「振り返り」に取り組んでいく必要がある。

教務主任 木村実樹夫

ビジネス実践『AKISHOP』

商業科 櫻庭 咲子

1. はじめに

本校では平成14年度から総合的な学習の時間を活用し、全校生徒が「ビジネス実践学習」を行っている。「ビジネス実践」は学校全体を模擬会社に見立て商品開発や販売、地域貢献活動などを行いながらビジネスを体験的に学ぶ活動である。この活動の目的は、社会人基礎力を身に付けることであり、社会人基礎力は①前に踏み出す力②考え抜く力③チームで働く力の3つの力と定義している。

また、①自分と仲間がつながる②自分達と学校外（小学校・企業）の人達がつながる③自分達と自然がつながるといった「つながり」を大切に活動している。



2. 今年度の取り組み

(1) AKISHOPの活動を広報し、外部イベントに参加

AKISHOPの組織の中に広報班を設け、「AKISHOP=物売りイベント」という外部からの印象を払拭するとともに、授業の集大成であることをアピールした。

広報1班の主な活動は年間を通じて各班の活動風景を写真に収めるとともに、AK

ISHOPのポスターを作成して、当日会場に掲示した。また、広報2班はテレビやラジオ、フリーペーパーを活用してAKISHOP開催告知を行うとともに、当日は秋田朝日放送のサタナビで開発商品やイベントの紹介を行った。



さらに、毎年参加している秋田なまはげ農業協同組合が主催する「営農ふれあいフェア」や秋田市通町で行われた「草市」だけではなく、「第141回秋田県種苗交換会」や「あきたの企業元気フェスタ2018」、首都圏で開催された「高校生マルシェIN美彩館」等にも積極的に参加し、AKISHOPの活動を広く県内外の人にPRするとともに、開発商品の販売を行い、様々な地域の方に商品を購入してもらうことができた。

(2) イベント企画とCM作成

これまででもAKISHOPへの集客を高めるために様々なイベントや広報活動を行ってきたが、今年度は4つのイベント班とCM班を設け、多くの生徒に新しいアイデアを出してもらい、AKISHOPを盛り上げたいと考えた。

イベント班ではステージを活用して、本校生徒による「商品説明」や秋田県立由利高等学校民謡部による「民謡や舞踊の披露」、史跡の里柵の湯による「もちつき」を行った。また、なまはげや県内のゆる

キャラを集めるとともに、JR竿燈会と連携して「竿燈披露」を開催することで、多くのお客様にAKISHOPに会場していただくことができた。



また、CM班ではこれまでのビジネス実践の活動をPRするCMを作成し、AKISHOP開催日の数日前からエリアなかいちの大型液晶画面や秋田市民市場で放映し、地域の方に活動をアピールした。

(3) 観光班の新設

2022年から実施の新学習指導要領では商業科の科目に「観光ビジネス」が新設される。そのため、その準備として今年度はAKISHOPの組織の中に観光班を新設した。



観光班では秋田市の魅力を調査し、生徒がバスガイドや史跡案内を行う「秋田市名所巡りバスツアー」を開催した。午前・午後各1回（定員20名）、2時間半のコースで如斯亭庭園→秋田市土崎みなと歴史伝承館→秋田城跡歴史資料館を巡った。バスツアーに参加したお客様からは「秋田市に住んでいるが交通手段がなく、今まで見学することができなかった。今回バスで名所を巡ることができ、とても有意義だった」「高校生が一生懸命バスガイドしている姿が印象的だった」等の感想をいただくことができた。

(4) ダリアの無料配布・エコ箸づくり

本校のビジネス実践はAKISHOP・キッズビジネスタウン・エコロジカルビジネスの3本柱となっており、エコロジカルビジネスは「Think globally, act locally!」（地球規模でモノを考え、地元で行動しよう!）という合い言葉のもとに、リダクション（削減）、リユース（再利用）、リサイクル（再資源化）の3Rについての学びを深め、環境に配慮した活動を行っている。



そのため、AKISHOP当日はその活動の一環として、秋田国際ダリア園の「ダリアの無料配布」や秋田杉の間伐材を使った「エコ箸づくり」を行うことで、廃棄となるダリアを有効活用するとともに、将来立派な丸太を作るために間伐された木材を再利用し、生活に役立つ箸を作った。

(5) 受託販売の実施

毎年、秋田県産の食材を使用した菓子や総菜、長期保存が可能なギフトなどの商品を地元企業と連携して開発し、販売しているが、売れ行きが好調な班や製造個数に制

限がある商品を扱っている班は正午頃には商品が完売し、店じまいしてしまう。そのため、秋田市内外から地元でしか販売されていない商品を各班で仕入れ、受託販売することにした。これにより、秋田市内では販売されていない多くの商品をAKISHOPに来場されたお客様にもPRすることができるとともに、営業時間内に店じまいしてしまう班も少なくなった。

また、今年度は秋田市内の異なる企業の商品を組み合わせた「コーヒー&カステラ」ギフトBOXも登場し、多くのお客様にお買い求めいただいた。受託販売を行うことで生徒たちも各企業の商品情報や原材料など、様々なことを事前に調査し、当日はお客様に自らの言葉で魅力や美味しさを伝えることができた。

3. 今年度の振り返って



今年度のAKISHOPは秋田市民市場、秋田駅西口大屋根下、アゴラ広場、ぼぼろーどの4会場で開催し、天候にも恵まれたことで多くのお客様に来場いただき、4,200個程用意した商品も午後2時頃には完売した。訪れたお客様からは「毎年、新商品ができるのを楽しみにしている」「秋商バナナボート（抹茶あずき）は食べ応えがあって、本当に美味しい」と声をかけていただき、生徒たちは達成感を味わうことができたようである。



また、AKISHOPを継続できているのはこの活動を理解し、ご協力いただける企業が多いからである。そのため、来年度もこれまでの活動を継続し、改善すべきところは改善してさらに良いものにしていきたいと考えている。前年度までの反省・課題を踏まえて新たな活動を行い改善を図ったが、終えてみるとまだまだ改善の余地があることが分かった。



ビジネス実践「AKISHOP」は来年度も総合的な学習の時間を活用して継続していくことになるため、生徒が将来就職した際にそれぞれの会社で活躍できるように社会人基礎力を養うことができる活動にしていきたい。

平成30年度キッズビジネスタウンの取り組み

商業科 石田 雄 哉

キッズビジネスタウンがスタートして11年目となった。今年度は、昨年度参加した全国産業教育フェアによる宣伝効果のおかげか、例年以上の参加者に恵まれ、盛況のうちに終えることができた。

1. キッズビジネスタウンの目的

キッズビジネスタウンとは、小学生以下の子供たちが市民となり、「みなで働き、学び、遊ぶことで、ともに協力しながら街を運営し、社会の仕組みを学ぶ」教育プログラムである。小学生が模擬的に設定された街で、市民としてハローワークに行き仕事を探し、実際に働いて給料を得て、その給料で買い物をする教育的行事である。

本校生徒はキッズビジネスタウンの企画・運営を行う。当日は社長として子ども達の先頭に立って模擬店舗での販売などを一緒にやり、子ども達に「社会の仕組み」や「ビジネスの仕組み」を教えることを通して、学びを深めることができる。企画や運営を通して教えることの難しさや、ビジネスに必要な知識を客観的な視点から知ることができるものである。

このような活動を通して、ビジネス実践全体の目標である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を体得し、社会人基礎力を育てることを目的としている。

2. 平成30年度の活動

今年度は秋田商業高校に会場を戻し、10月19日（金）に勝平小・出戸小を対象に、20日（土）に一般参加者を対象に開催された。2・3年生の希望者は31名で、以下のように活動した。1年生は各店舗従業員として当日の活動に参加した。

(1) スケジュール

- ・ 5月：ガイダンス、基礎学習
- ・ 6月：店舗の模索、決定

- ・ 7月：企業への研修、交渉等
- ・ 9月：求人票、マニュアルの作成
- ・ 10月：店舗準備、1年生へ指導、本番
- ・ 11月：報告会

(2) 今年度の開設店舗（31店舗）

分類	店舗名
公共施設	ハローワーク、銀行、税務署、消防署、警察署、病院
小売業	アクセサリーショップ、コンビニ、デパート、駄菓子屋
サービス業	ラジオ局、プログラマー、野球教室、ヘアメイクサロン
製造業	木工工房、トートバッグ工房、インテリア雑貨工房、設計事務所、フラワーインテリア工房
飲食店	ポップコーン、カレー屋、クレープ屋、ドーナツ屋、たこ焼き屋、ババヘラ、フルーツパンケーキ屋、ラーメン屋、カフェ、アイス屋、ドリンクショップ、パスタ屋



3. 当日の様子

1日目は勝平小学校、出戸小学校の児童156名が参加してくれた。2年ぶりの参加ということで、引率した先生方も大変期待してくれていた。

2日目は一般応募してくれた276名（当日受付含む）の小学生の参加があった。3年前に学校で実施してたさいは例年200名ほどの参加であったので、およそ1.5倍の参加者数であった。

事後アンケートから、参加者の感想は以下のようなものであった。

<小学生アンケートより>

	はい	いいえ
楽しかったか	91	0
お金の大切さを実感	90	1
ものの大切さを実感	86	5
来年も参加したい	88	2
秋商に入学したいか	23	15

<保護者アンケートより>

- ① 何でキッズを知ったか
 - ・過去に参加したから : 30
 - ・秋田市広報を見て : 12
 - ・情報誌を見て : 3
 - ・ホームページを見て : 4
 - ・フリーペーパーを見て : 0
 - ・知人からの話 : 16
 - ・学校からの通知 : 19
- ② 来場した交通機関
 - ・自家用車 : 76
 - ・徒歩 : 5
 - ・公共交通機関等 : 12
- ③ 満足度
 - ・大変よかった : 46
 - ・よかった : 34
 - ・物足りなかった : 2
- ④ 来年度も参加させたいか
 - ・参加させたい : 75
 - ・わからない : 9
 - ・遠慮したい : 7
- ⑤ 秋商は子どもの進学先としては
 - ・進学させたい : 5
 - ・候補に入れたい : 61
 - ・今は考えていない : 17

4. 実施上の課題

(1) 就職について

今年度は、ハローワークにおいて児童対応の不備があった。退職手続きがとられないままにハローワークに来た児童に対して、退職処理をするように話したが、連携がうまくいかず、何度もハローワークをやり直すことになっていた。個別的な対応までは、生徒の対応では限界があるため、やはり教員が常に近くにいるようにする必要があったと感じた。

(2) 発注見込みについて

毎年の課題であるが、商品数が不足したり、余ったりといった状態が今年度も起きた。特に、商品が余ってしまい、最後に大量に投げ売りする現象が大変多かった。また、人気のあるラーメン等はすぐに売り切れ、他の飲食店は苦戦しているのも顕著であった。事前に販売予測をすることをもっと密に指導するとともに、担当教員にもその意識を持ってもらい、教員・生徒双方で確認して行くことが重要だと痛感した。

また、例年に比べて飲食店（軽食含む）が多かったことも要因だと考えられる。お客様が分散し、売れにくい状況ができたようなので、飲食店の精選を事前に行う必要がある。



環境問題について考える

英語科 櫻田 洋子

今年度のエコロジカルビジネス班は、3年生16名、2年生2名の合計18名（うち男子16名、女子2名）で活動した。運動部に所属している生徒も多く、公欠で時間を欠く場合もあったが、少人数ということもあり、全員がそれぞれ一生懸命に自分の役割を果たしてくれた。

今年度の活動は大きく3つに分けられる。まず5月から8月は、講師の先生方からお話を伺ったり映像を観たりしながら、気候変動や環境破壊について学んだ。生徒たちは、これらの活動を通して世界では大変なことが起きているのだということを感じてくれたと思う。ただ、その時点ではかなりの数の生徒が、「どこか遠い場所で起きている自分たちとはあまり関係ない出来事」と感じているように見受けられた。

9月から10月にかけては、一般社団法人あきた地球環境会議が秋田市環境部、秋田市選挙管理委員会と協働して実施した「平成30年度秋田市協働サポート交付事業・『気候変動対策×主権者教育』プロジェクト」に参加し、「環境マニフェスト」の作成に取り組んだ。これは、18名の生徒が6人ずつ3班に分かれ、それぞれ「政党名」「党首」「マニフェスト」を自由に

どの班もそれぞれユニークな案を打ち出すことができた。マニフェスト完成後は、3つの「党」がプリントや立会演説会でその詳細を1年生と3年生に説明し、模擬投票という形で最も魅力的なマニフェストを選んでもらった。この活動後の感想文には、「自分たちの将来を良くするためには、自分たち自身が行動を起こす必要があることに気付いた。」と書いている生徒が多くいた。また、エコロジカルビジネス班の生徒のみならず、多くの秋商生に環境保護の意識や主権者としての自覚をもたせることにつながり、大変有意義な活動だった。



10月からは、環境マニフェスト作成と同時進行で、AKISHOPでの活動にむけて、グリア摘み、フリーマーケット、エコはし作り講座の3つの班に分かれて準備を始めた。AKISHOP当日は、それぞれの班が自分たちの仕事をするだけでなく、他の班を自発的に助ける姿もあり、校内で活動している時とは違う成長が見られた。また、たくさんの来場者から「ありがとう」という言葉や笑顔をいただき、人や社会のために何かをすることに喜びややりがいを感じることは、彼らにとって大きな収穫になったと考えている。



考え、気候変動対策として秋田商業高校ができることを秋商生に提案するという企画であった。最初、生徒たちは、「環境マニフェスト」という言葉を聞いて何か難しそうなものだと感じたようだったが、講師の先生の講義や励ましのお陰で、次第に議論が活発になり、最後には

学 校 視 察

将来構想委員 商業科 川 村 寿 紀
商業科 石 田 雄 哉

学 校 名	富山県立富山商業高等学校
日 時	平成30年11月5日（月）
応 対	副校長：上野先生、教務主任：安田先生
ク ラ ス 編 成 等	<p>流通経済科2、国際経済科1、会計科2、情報処理科2クラス。男子4割、女子6割。グランドデザインを設定しており、全校で目指すべき生徒像、そのためにつけるべき力、それらに基づく目標達成度評価基準（ルーブリック）表が明確化されている。各科目や販売実習の評価も、このルーブリック評価に準じて設定されている。</p> <p>部活動は全員加入。文化部、運動部のいずれかに100%所属。生徒指導はHRよりも部活動からの情報が一番早い。</p>
質 問 事 項 お よ び 回 答	<p>①教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒販売実習模擬株式会社「TOMISHOP」の取り組み <ul style="list-style-type: none"> →クラス単位で店舗を設置（21クラス）。担任が主担当となり、商業科教員がサブでつく。各クラスから実行委員が2名ずつ選出され、生徒本部はプランニング部が担当する。 ・5月株主総会（説明）、7月販売研修、11月販売実習、2月株主総（報告）会、3月確定申告（e-tax）。 ・プログレスシートというルーブリック評価（冊子）で評価。 ・プランニング部が企業経営者によるアドバイスを研修する。 ・ビジネスマナー教室で、生徒が中学生にマナー指導をする。 ・インターンシップは全員参加でなく、数名が行って販売に関する研修をし、クラスに伝える。（今後全員参加を検討中） ・教員は「企画部」という分掌がある。 ・高度な資格取得者数と指導（補習）体制の取り組み <ul style="list-style-type: none"> →全商を授業内で受験しており、1級3種目合格が80～100人。日商簿記は授業では行っておらず、主として部活動や課題研究で取得。・放課後の補習は無しだが、個別に聞きに来る生徒もいる。 ・全商が集中する1月は7限授業。 ・「学び合い週間」（年2回、期間中10回以上）の取り組み <ul style="list-style-type: none"> →1学期中間考査後と2学期中間考査後に実施。 ・各授業や休み時間・放課後などに教え合うことを担任が呼びかけ、教え合った内容を学び合いシートに記入し、提出する。 ・そのほか、基礎学力向上にむけて「学習アンケート理解度80%以上」や「互見授業」を実施している。 ・「総合的な学習の時間」と「課題研究」の位置づけおよび授業内容 <ul style="list-style-type: none"> →総学の代替で課題研究を実施。 ・検定対策やマーケティング研究、進路研究などから選ぶ。 ・発表会を実施しており、各学科で予選をして全校の前で4学科発表。 <p>②進路指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山大学合格者11名の受験種類および指導方法 <ul style="list-style-type: none"> →富山大学の他、金沢大や新潟大など近隣の国公立へ20名弱進学。

	<ul style="list-style-type: none"> ・専門高校卒を利用した推薦で、県内だからという優遇等はない。 ・今年度は、富山大は昼間6名、夜間10名。 ・7月に国公立受験者を選考し、その後国語、英語、商業の教員が個別指導を行っている。課題等での実施（部活動に影響ないように）。 ・2学期の推薦試験後からセンター試験補習を実施し、受験する。 ・選考する段階で、上記の指導を行うことを了承した上で申し出。 ・他の指定校推薦等は9月に選考。 ・高大連携の取り組み →なし <p>③部活動指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動個人カードの取り組み <ul style="list-style-type: none"> →部活動参加のモチベーションを上げるために、3年前から実施。 ・年度ごとに部活動の達成目標、そのための方策、結果について記入。 ・グラウンドデザインのループリック評価を取り入れ、人間性等も評価できるように今後改善していく。
--	---

学 校 名	富山県立高岡商業高等学校
日 時	平成30年11月6日（火）
応 対	教頭：広瀬先生、教務主任：浅尾先生、生徒指導部長：中浦先生、 進路指導主事：牧野先生
ク ラ ス 編 成 等	流通経済科2、国際経済科1、会計科1、情報処理科2クラス。流通経済科が地域ビジネスコースとスポーツマネジメントコースに分かれ、情報処理科はプログラム活用コースとマルチメディア活用コースに分かれる。コースについては、クラスは混合で授業が分かれる。 国際交流にも力を入れており、語学研修や海外修学旅行、韓国などと姉妹校を提携している。
質 問 事 項 お よ び 回 答	<p>①教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通経済科スポーツマネジメントコースの設立経緯と開設時の課題等スポーツマネジメントコース「スポーツ総合演習」の内容、シラバス、年間指導計画案、体育科教員の人数、課題 <ul style="list-style-type: none"> →平成26年度から2学級化に伴い、コース制を導入。 ・2年次はスポーツイベントの意義やサポート、スポーツの目的、トレーニングなどを「スポーツ概論」で学ぶ ・3年次は「スポーツ総合演習」で、イベントや地域スポーツへの参加やニュースポーツの学習、1年生への体育指導を行っている。 ・特定の部活動の指導や、体育を行っているわけではない。 ・コースの人気は高いが流通経済科は就職が多く、スポーツ推薦は部活動を通しての10名程度。 ・体育科教員は教諭5名、講師1名。 ・スポーツイベントは土日が多く、授業での参加がしづらい点が課題。今後広げていきたい。 ・「模擬株式会社りゅうりゅう」活動の教育課程上の位置づけや「株主総会」活動の取り組み <ul style="list-style-type: none"> →課題研究の中に、各学科ごとに商品開発、会社経営のテーマを設け（合計80名程度）、それを選択した生徒が商品開発、運営をする。 ・イベントへの出店と常設店舗での販売、校内での販売。 ・製品化されるのは毎年10点ほど。ずっと売り続けている商品もある。（ヨーグルト、せんべい、アメ） ・年間の売上は平成29年度は700万円ほど。高岡駅地下に店を構えた平成26年度から売上が100万円強から700万前後に急増。

- ・純損益は-300,000円～400,000円と年によって変動が大きい。
 - ・単年度決算で、補助金も加算している。利益は寄付している。
- <以下、常設店舗について>
- ・常設店舗は、毎日（火曜定休）、16:00～18:15まで高岡駅前の地下道で開店している。
 - ・商品は開発した商品の他、地域から仕入れた製品を販売している。・店員は外商部という部活動で行っており、ローテーションで店番。
 - ・顧問が4名おり、ローテーションで毎日一人は教員がつく。
 - ・土日の開店時、閉店時は外商部顧問が担当するが、日中の店番は全教員で割り振りしており、2ヶ月に1回程度回ってくる。
 - ・アルバイト職員を雇ったこともあったが、人材の確保が難しい。
 - ・年間のテナント料は70万円（これでも安くしてもらっている。）
- ・「総合的な学習の時間」と「課題研究」の位置づけおよび授業内容
 - 総学を課題研究で代替。
 - ・「学習ふりかえりWEEK」の設定経緯と「学習ふりかえりシート」活用による取り組み
 - 「学習ふりかえりWEEK」については、定期テストの前に教務部から「StudyNavi」を発行しており、その裏に「学習記録表」が載っており、配布時に担任から指導。テスト勉強への意識向上。
 - ・テスト前は部活動を2時間以内にしてメリハリをつけている。
 - ・「学習ふりかえりシート」は学期末ごとに実施し、生徒は各学期の学習状況を自己評価し、提出。レーダーチャートや棒グラフ化し、生徒や教員間で共有して、学習指導へつなげる。
 - ・資格取得向上への取り組み（特に日商簿記検定への取り組み）
 - 資格だけでなく、科目を教えるというスタンス。
 - ・全商は全員受験だが、日商は3年生で希望者のみ。
 - ・授業は習熟度で実施している。
 - ・1月の全商簿記の前だけ特別時間割を組んでいる。部活動のスタートが遅くなる。それ以外は朝補習などで個別対応。
- ②推薦入試制度について
- ・推薦入試基準や対応（特に部活動生徒の選考基準等）
 - 全学科で推薦50%、一般50%。県で選考基準が4基準（学習、専門教育、芸術・部活動、地域活動）示されており、それぞれに評価基準がある。
 - ・推薦は面接、作文を点数化し、公平に見る。
- ③進路指導について
- 国公立大は20人弱。富山大や新潟大などに合格。
 - ・夏休みから個別指導を行い、センター試験補習を12月頃に行っており、センター試験を受験させている。
- ④その他
- ・周年行事で施設が新しく建てられる理由（県や市から支援等）
 - 70周年：同窓会会館、80周年：宿泊棟、90周年：食堂、100周年：音楽ホールを建設。
 - ・110周年、120周年（平成29年度）は建設していない。
 - ・箱物は県に申請して承認されれば支出してくれる。しかし、内部は各校の支出。募金等でまかなうしかないため、厳しい。

学 校 名	大阪市立淀商業高等学校
日 時	平成30年11月7日(水)
応 対	教頭：角田先生、教務主任：荻原先生、商業科：高附先生
ク ラ ス 編 成 等	各学年6クラス(商業：5クラス、福祉：1クラス)。 会計科学、情報科学、流通科学、コミュニケーション科学の4コース。 2年生からコース選択し、クラスは混合で商業科目をコースごとに実施する。
質 問 事 項 および回答	<p>①教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の学校企業見学会の取り組み →総合的な学習の時間で実施。進路に応じて大学、企業等を選択し、2時間程度説明を受けてくる。総学の担当教員は、普通科も含め5クラス10名で受け持つ。 ・翔モール(大規模販売実習)と商業科2年次科目「アントレプレナー・チャレンジ」との関連や取り組み →2年生は「アントレプレナー・チャレンジ」の授業で取り組み、3年生は流通コースの授業内で実施している。 ・株主総会から決算まで行っており、12月に販売実習を行っている。・商品は、自分たちのアイデアの商品化も少しあるが、多くは地域の商品の仕入・販売(少し安くして)。 ・実施場所は学校の前庭。 ・クラス単位で店舗を企画し、1クラス3店舗、1店舗2品目まで。 ・生徒から500円の資本金を集め、利益から返金し、残額は寄付。 ・「総合的な学習の時間」と「課題研究」の位置づけおよび授業内容 →総学の代替で3年生は課題研究。 ・資格取得向上への取り組み(特に日商簿記検定への取り組み) →各授業によって全商1級は全員受験だが、日商は希望者のみ。補習は希望者がいれば放課後や長期休業中に行っている。

共通質問項目	
次年度から実施される「総合的な探求の時間」、「道徳教育推進教師」の取り組み	
富山商業	これから「探求」について検討。「道徳」はまだ未検討。
高岡商業	現状でも「探求」になっているので、今のままで行く予定。「道徳」はまだ未検討。
淀商業	検討中。
新教育課程実施に向けた取り組み	
富山商業	これから。
高岡商業	来年度から情報処理科が1学級減となる予定で、その影響で全学科見直しとなり、そちらの教育課程を優先している。
淀商業	10月に第1回検討委員会。福祉がH32スタートなのでそちらを優先。
指導要録の電子化の状況と一覧表から要録に反映できるシステム化となっているのか	
富山商業	数年前から調査書も含めて電子化。富山県は学校ごとに実施してよい。スタンドアロンのPCを各学年1台用意し、入力や出力も交代しながら。要録は毎年紙に出力して綴じ、翌年差し替え。
高岡商業	未実施。エクセルで成績処理をそれぞれ行っている。要録は差し込み印刷している教員もいる。
淀商業	要録は手書き。通知表はマクロ。
通知票に順位も記載しているか（点数の間違い対応をどのようにしているか）	
富山商業	順位は載せている。発送前に生徒に見せる等の確認はなく、教務や入力者が確認している。間違いは送り直し。
高岡商業	順位も記載している。間違いは出し直し。
淀商業	順位は載せてない。
「Japan e-portfolio」実施状況（進路指導部）	
富山商業	これから。ルーブリック評価やプログレスシートを綴じ込む予定。
高岡商業	未実施。容量の問題、入力の問題など少しずつ思案している。
淀商業	活動の記録は残しているが、まだこれから。
入学前課題の取り組み	
富山商業	国語、数学、英語、商業科で冊子を用意。国数英は第一学習社、商業は数字や漢字の書き方などのプリント。
高岡商業	国・数・英の一般的な冊子を使用している。
淀商業	作文は全員実施。入学後テストもあるが、学年によって違う。
自転車指導の取り組み	
富山商業	自転車事故が多い。1学期は10件以上。保険加入、集会指導で対応。
高岡商業	「自転車八訓」を教室掲示し、指導。学期はじめ、毎月1日、15日に街頭指導をしている。各クラス2名のサイクル安全委員を選出し、警察から委嘱状。自転車点検は年2回。
淀商業	安全指導、マナー指導を行っている。
スマートフォン指導の取り組み	
富山商業	持ってくることは可能だが、校内では電源を切り、放課後の生徒玄関で迎えの連絡のみ使用可。県のネットパトロールから、何かあれば連絡。
高岡商業	ネットルール3カ条を教室掲示。学校使用は禁止、放課後昇降口でのみ使用可能。SNSトラブルは1回目は注意、2回目は処分。
淀商業	LINE社に来てもらったの講演、いじめアンケートなど。

養護教諭が行うフィジカルケア研修講座

養護教諭 高橋千里

1 はじめに

学校保健は、健康診断・救急処置・学校環境衛生検査による「保健管理」、教科保健その他学校教育全体を通して行われる「保健教育」、学校保健委員会をはじめとする教職員・家庭・地域の関係機関が連携して行う「組織活動」により構成される。本研修では「学校において傷病者が発生した場合の適切な救急処置を体得するとともに、身体症状の見取り方、学校救急体制等について養護教諭としての専門性を高める」という目標の下、保健管理の一要素である救急処置について学んだ。

2 講座の内容

(1) 学校における救急対応～アナフィラキシー対応エッセンス～（講義）

秋田大学大学院医学系研究科 教授 長谷川 仁志

事例から学ぶ

2012年12月、東京都調布市立の小学校において、給食後に食物アレルギーのある5年生の女児が死亡する事故があった。原因は食物アレルギーによるアナフィラキシーショック。女児は乳製品にアレルギーがあったため、この日の献立にある粉チーズが含まれるじゃがいものチヂミは除去食が提供されていた。牛乳は完全除去であった。

女児がじゃがいものチヂミのおかわりを求めた際、担任は除去食一覧表（保護者・栄養士・担任の間では、おかわりの申し出があった場合に確認することになっていた）ではなく、保護者が女児に念のために持たせている献立表（食べてはいけない料理にピンクのマークが引かれている。じゃがいものチヂミにはマークは引かれていなかった。）のみを確認し、女児におかわりを提供した。

13時22分、給食の時間が終わり清掃の時間に差しかかったところ、女児が喘息の吸入器を口に当てながら担任に悪心を訴えた。駆けつけた養護教諭は担任に救急車要請を依頼し、13時31分担任が校長に確認を取った。

13時36分、校長が駆けつけエピペン（アドレナリン自己注射薬）を打ち、AEDも使用するがAEDからは「通電の必要なし」というメッセージが流れた。数分後、救急車で病院に搬送された。

16時29分、死亡が確認される。

この事故では直接的な原因として、おかわりを含む除去食の提供方法と緊急時の対応の2つが挙げられる。さらに、事故の背景にある様々な要因が事故に結びついたと考えられ、情報の共有や給食指導などを見直し、再発防止に努めなければならない。

アレルギー疾患対応

学校におけるアレルギー疾患対応の3つの柱は、「アレルギー疾患の理解と正確な情報の把握・共有」「日常の取組と事故防止」「緊急時の対応」である。

① アレルギー疾患の理解と正確な情報の把握・共有

- ・学校生活管理指導表を作成するため、保護者を通して主治医に記入を依頼する。
- ・校内対応委員会を設置し、学校生活管理指導表に基づく校内での取組プランを検討する。
- ・保護者と面談を行い、情報の共有をする。
- ・校内における教職員の共通理解を図る。

② 日常の取組と事故防止

学校生活は健康状態の異なる児童生徒が様々な条件下で学習活動を行う。そのため、日頃から全教職員が配慮や管理が必要な児童生徒を把握し、安心・安全な学習環境の確保に努める必要がある。

・学校生活上の留意点

	気管支喘息	アトピー性皮膚炎	食物アレルギー アナフィラキシー
動物との接触	誘発原因である場合には避ける		—
埃等の舞う環境	避ける、マスク着用	避ける	—
運動(体育・部活動等)	運動誘発対策	汗対策	運動誘発対策
プール及び長時間の紫外線下での活動	運動誘発対策	塩素対策 紫外線対策	運動誘発対策
給食	—	—	原因食物の除去
食物・食材を扱う活動	—	—	食べる、吸い込む、触れることに注意
宿泊を伴う校外活動	持参薬の有無や管理、医療機関の確認		
	宿泊先の環境整備		食事の配慮

③ 緊急時の対応

気管支喘息や食物アレルギー、アナフィラキシーは緊急対応を要する疾患である。特に、アナフィラキシーは非常に短時間のうちに重篤な状態に至ることがあり、「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」（秋田県医師会・秋田県教育委員会作成）を活用し、チームで対応することが重要である。

アレルギー症状がある（食物の関与が疑われる）、原因食物を食べたもしくは触れた（可能性を含む）に該当した場合、発見者は児童生徒の経過観察と応援要請、エピペン使用や服薬介助を行う。緊急性が高いアレルギー症状が1つでもある場合は、ただちにエピペンを打つ。また、他教職員は119番通報やAEDの準備、管理職への報告、記録、周囲の児童生徒への対応などを分担し行う。

・緊急性が高いアレルギー症状

皮膚症状	〈全身性〉掻痒感、発疹、蕁麻疹、血管浮腫
消化器症状	繰り返す嘔吐・下痢、持続する腹痛
呼吸器症状	著明な鼻閉・鼻汁、繰り返すくしゃみ持続する咳、喉頭の掻痒感・絞扼感、嘔声、嚥下困難、喘鳴、呼吸困難、チアノーゼ
循環器症状	頻脈（15回／分以上の増加）、不整脈、血圧低下、重篤な徐脈
神経症状	精神症状、意識障害

・アナフィラキシーとの鑑別ポイント

鑑別困難な疾患・症状	共通する症状	ポイント
気管支喘息	喘鳴、咳嗽、息切れ	喘息発作では掻痒感、蕁麻疹、血管浮腫、腹痛、血圧低下は生じない
不安発作 パニック発作	切迫した破滅感、息切れ、頻脈、皮膚紅潮、消化器症状	不安発作、パニック発作では蕁麻疹、血管浮腫、喘鳴、血圧低下は生じない
失神	血圧低下	失神による症状は臥位で軽減され、通常は蒼白と発汗を伴い、蕁麻疹、皮膚紅潮、呼吸器症状、消化器症状はない

(2) 養護教諭が行うフィジカルケアと保健指導（講義・演習・協議）

秋田県立明德館高等学校 教育専門監 加藤 智子

養護教諭のアセスメント課程

児童生徒の来室時の顔色・表情・姿勢・声・入室方法などの観察からアセスメントは始まり、問診を中心に状態を把握する。バイタルサインの確認や既往症・通院歴・服薬の有無などの基本的な健康情報、保健室来室記録を整理しながら、児童生徒の心理・社会的側面も視野に入れ、スクリーニングを進める。そして、緊急度・重症度を判断し、アセスメント情報を統合して要因（疾病・異常）を絞り込んでいく。初期段階では症状が曖昧であったり、児童生徒が正確な情報を伝えているとは限らなかったりするため、継続的な問診や経過観察からアセスメントの修正が必要な場合がある。そのためには、教職員と連携して複数の視点から児童生徒を観察し、同時に支援体制を整えることが重要である。

学校における救急処置の範囲

救急処置の目的は、子どもの生命を守り、心身の安全を図ることである。学校における救急処置の範囲は、「医療機関に搬送するまでの処置」「一般の医療の対象とはならない程度の軽微な傷病の処置」である。

① 医療機関に搬送するまでの処置

- ・救命処置（ただちに処置をとらないと生命の危険に陥る傷病者に対する処置）
気道確保、呼吸の維持、心拍の維持、出血の阻止、ショックの防止など
- ・一時的に危険脱出処置（二次障害や重症化の恐れのある傷病者に対する処置）
意識障害、けいれん、呼吸困難に対する処置
- ・保護者又は医療機関へ受診するまでの処置
骨折または捻挫部位の固定包帯、熱傷、捻挫など外傷部に対する冷却罨法等の処置、消毒、保温、安静、その他苦痛や不安の軽減処置、搬送など

② 一般の医療の対象とはならない程度の軽微な傷病の処置

- ・汚染のないまたは創面が狭く・浅い縫合が不要な創傷
- ・発熱や吐き気など他の症状が伴わない軽度の腹痛もしくは頭痛
- ・外傷のない短時間で止血しその後繰り返さない鼻出血

救急（危機管理）体制の整備

危機管理に果たす養護教諭の役割は、「救急および連絡体制の整備」「応急手当に関する研修の企画と実践（シミュレーション）」「避難訓練での救急処置の実践と習熟」「心のケアの体制づくり」である。

① 救急および連絡体制の整備

- ・傷病発生時の救急処置計画
- ・養護教諭不在時の傷病発生時の対応

② 応急手当に関する研修の企画と実践（シミュレーション）

- ・校内救急処置研修会の実施

③ 避難訓練での救急処置の実践と習熟

- ・学校安全計画の把握
- ・危機管理マニュアルの整備・見直しへの積極的な参画

④ 心のケアの体制づくり

- ・スクールカウンセラーの効果的な活用
- ・校内いじめ・不登校・特別支援対策委員会の設置

各教科等の指導における言語活動の充実

国語科 大 関 由 理

I はじめに

本講座の研修目標は、「『言語活動の充実』についての基本的な考え方、各教科等における指導と評価のポイントを確認し、思考力・判断力・表現力等を育む指導力の向上を図る」ことであり、これは、新指導要領における重点目標でもある。

II 講座の内容

《講義・演習・協議》

「言語活動を位置づけた指導の実際」 教育センター主任指導主事 加賀谷英一先生
《講義》

1 「言語活動の充実」が求められた背景

PISA調査、及び、「全国学力・学習状況調査」の結果から、「読解力」や情報活用力等に課題がある。

2 「言語活動」の位置づけ

ポイント1 各教科・科目等の指導において言語活動を充実する。

国語が培った能力を基本に、それぞれの教科等の目標を実現する手立てとして、知的活動（論理や思考）やコミュニケーション、感性・情緒の基盤といった言語の役割を踏まえて、言語活動を充実させる。※国語科で培った能力を活用する。（国語科が土台を作る）

→ 「言語活動の充実」自体が目的ではない。目的は、各教科等の目標を実現すること。
言語活動を通して指導事項を指導する。

ポイント2 思考力・判断力・表現力等をはぐくむ。

①体験から感じ取ったことを表現する。

②事実を正確に理解し、伝達する。

③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。

④情報を分析・評価し、論述する。

⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。

⑥互いの考えを伝え合い、自分の考えや集団の考えを発展させる。

→ 共通点は、言語を基盤としたOUTPUT

※「教える」のではなく、活動を通して「育てる」。

→ OUTPUTがなぜ大切なのか。

→ 脳は出力依存型、得た知識を活用しなければ、すぐに忘れてしまう。

→ 知識の習得や深い理解には受け取った知識を活用する（OUTPUTする）ことが不可欠。

内化（知識のINPUT）→外化（知識のOUTPUT）声に出して読む、ノートを見直す、人に説明してみるなど→内化（知識のINPUT）自分が持っている知識と結びつけて新たな理解を生み出す

を授業の中で繰り返すことが大事

3 「言語活動」とはどのような活動か

・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する。

・自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する。

- ・理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする。
- ・芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫改善する。 など
 - 大切なのは、子供たちに付けたい力を見極めた上で、教師が、「これは〇〇の力を育てるための言語活動である」と意識すること。
 - 「どんな力を付けるための言語活動か」を意識するだけでも、発問の仕方や教材の作り方が変わる。 ⇒ 授業の質も向上する！

4 「言語活動」の取り入れ方

- ・「説明」や「論述」など、普段の授業の中で、ほんの少しの言語活動を意識してみる。
 - ※大きな言語活動は年1回でよい。
- ・言語活動の本質は、生徒に「考えさせること」。

5 「言語活動」を位置つけた授業の評価

- ※前提：「言語活動」は各教科等の目標を実現するための「手立て」であって、目的ではない
- ・指導と同じく、評価も言語活動を通して行う。
- ・言語活動ができているかどうかを評価するのではない。
- ・指導の目標に掲げた能力が身に付いているかどうかを、言語活動の状況を通してみるということ。
 - 評価の対象となるのは、言語活動を通して付いた力

〈演習・協議〉

※ワールドカフェ&KP法（紙芝居プレゼンテーション）の手法を用いて、「秋田を元気にするために起業するとしたら、どんな会社を作るか」というテーマで協議

《公開講演》

「言語活動の充実とこれからの授業の方向性」 横浜国立大学名誉教授 高木展郎先生

1 OECDの求める「主要能力（Key Competency）」

- ・単なる知識や技能だけでなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な課題に対応することができる力

具体的には—

- ①社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する力
- ②多様な社会グループにおける人間関係形成能力
- ③自立的に行動する能力

2 学習指導要領改訂の意味

○PISA調査が求めた学力観

- ・PISA型「読解力（Reading literacy）」＝「受信する→考える→発信する」＝「input → intake → output」という一連のプロセス

聞く・読む【受信】 → 思考する・想像する【思考】 → 書く・話す【発信】

※全て、言葉による

- ・特に「発信」というoutputが重要

○教育の根本は「個人的、社会的によりよく幸せに生きること」＝well-being

○新指導要領が育成を目指す資質・能力の三つの柱

- ・学びに向かう力、人間性等 — どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか
- ・知識・技能 — 何を理解しているか、何ができるか
- ・思考力・判断力・表現力等 — 理解していること・できることをどう使うか

○新しい学習指導要領の枠組み

- ①「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）
- ②「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と教科等間・学校段階間をつなぐ教育課程の編成）

- ③「どのように学ぶか」(各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実)
- ④「子供一人ひとりの発達をどのように支援するか」(子供の発達を踏まえた指導)
- ⑤「何が身についたか」(学習評価の充実)
- ⑥「実施するために何が必要か」(学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策)

3 授業改善の方向 ～「主体的・対話的で深い学び」の実現～

・「主体的な学び」とは—

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び

※わからないことを大事に。

※一人学び(自分で考える→言葉で表出する) ⇒ 一番大事な時間

・「対話的な学び」とは—

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えること等を通じ、自己の考えを広め深める学び。

・「深い学び」とは—

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけて、より深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを元に創造したりすることに向かう学び。

※「あ、そうか」と腑に落ちる。

※説明・記録など言語活動を通して行う。

⇒ これら三つの視点は、子供の学びの過程としては一体として実現されるもの。

1 単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材のまとまりの中で、たとえば、主体的に学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、学びの深まりを作り出すために考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で実現されていくことが求められる。

4 汎用的な資質・能力の育成 (学習指導要領総則)

- ・各教科等で育まれた力を実社会の様々な場面で活用できる汎用的な能力に更に育てたり、教科等横断的に育む資質・能力の育成につなげたりしていくためには、学んだことを教科等の枠を超えて活用していく場面が必要となり、そうした学びを実現する教育課程全体の枠組が必要になる。
- ・様々な情報を理解して考えを形成し、文章等により表現していくために必要な読解力は、学習の基盤として時代を超えて常に重要なもの。全ての学習の基盤となる言語能力の育成を重視することが求められる。
- ・言語能力(読解力や語彙力を含む) — 言語活動を通じて育成
- ・情報活用能力 — 言語活動や、ICTを活用した学習活動等を通じて育成(情報モラル)
- ・問題発見・解決能力 — 問題解決的な学習を通じて育成
- ・現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力
- ・多様な他者と協働する — 「対話的な学び」を通じて育成
- ・学習を見直し、振り返る — 見直し振り返る学習を通じて育成

→ 学習の「振り返り」について

- ①「振り返り」は、単に「今日の授業で分かったこと」「楽しかったこと」を記述することではない。
- ②授業を通して、どのような学力が身に付いたか、その身に付いた学力の内容を記述することが重要。学力の内容は、資質・能力も含む。
- ③「振り返り」では、どのような言語活動によって、どのような学力が身に付いたかを記述する。 → 「思考・判断・表現」の評価
- ④「振り返り」は、観点別学習状況の評価を行うときに合わせて行う。(毎時間行う必要はない)
- ⑤「振り返り」は、どのような資質・能力(学力)が、授業を通して身に付いたかを、メタ認知すること。

⑥観点別学習状況の「身に付けたい力」について、学習者自身が自己評価すること。

5 学習評価とは何か

○「評価」は、

E v o l u t i o n = 値踏みする ← 序列を付けることにつながる

ではなく

A s s e s s m e n t = 支援する・支える ← 子供をよりよくするためのもの

・評価は序列を付けるためではなく、生徒を評価するためのもの。

・評価はB規準

・平均点は相対評価 → 平均点を出さない学校も出てきている。

・「平均点を60点にするように」はおかしい。 ← 全員100点でもいい。

・H36から評点平均値はなくなる。

○学習指導と学習評価のPDCAサイクル

P l a n - 指導計画等の作成

↓

D o - 指導計画を踏まえた授業の実施

↓

C h e c k - 生徒の学習状況・指導計画等の評価

↓

A c t i o n - 授業や指導計画等の改善

6 授業改善の具体

・「覚える学力」だけでなく、「考える学力」へ。

能動的に学ぶ — 教室というコミュニケーションの場の有効活用

友達との「学び」・協働での「学び」

授業を通して、人づくり — Well-being (個人的・社会的によりよく幸せに生きること)

⇒ 学校での「学び」の意味は、ここにある。

・「チーム学校」を創る。

・授業中に「考えさせる」環境や状況を創る。 → 行動の指示を、できるだけ控える。

※「考えさせる」ための魔法の言葉 — 「どうする? どうして? なぜ? わけは?

どうしたい? どういうこと?」

・「思考力・判断力・表現力」育成のための授業づくり

「ひとりで学ぶ」→「みんなで学ぶ」→「学びを振り返る (単元の中で)」

「ひとりで学ぶ」→ 主体的な学び

「みんなで学ぶ」→ 対話的な学び

「学びを振り返る」→ 深い学び

A「聴いて (受信)」→B「考えて (思考)」→C「つなげる (発信)」

A相手の話_に耳を傾け集中して理解すること

B相手と意見を比べたり修正したりしながら自分で考えること

C自分の考えと理由をはっきりさせて説明・発表し、話し合いをつなげて発展させること

⇒「問い」が重要「授業づくりは問いづくり」。

・教師の授業への向き合い方の転換を

教師の立ち位置 — 聞いている生徒が見える位置

教師の目線 — 発言している生徒を見てうなずかない。

発言している生徒と視線を合わせない。

教師の発言 — 生徒の発言を繰り返さない。復唱は他の生徒に言わせる。

7 まとめ

・教育は未来を作ること — 10年後、20年後、彼らに何が必要か。

・歴史の中に未来がある。

Ⅲ 授業公開週間における授業実践（6／11）

国語科（現代文B）学習指導案

日 時 6月11日（月）6校時
対象クラス 3E
授業者 大関 由理
場 所 図書室

1 教材名 評論「敬語への自覚、他者への自覚」 橋本 治

2 教材目標

- ①筆者の鋭い感性や独創的な発想に触れ、優れた評論の魅力を味わう。
- ②日本語における敬語の役割について考え、その必要性を理解する。
- ③筆者の主張を踏まえて、身近な言葉について考えを深めたり、話し合ったりする。

3 教材の指導計画（全6時間）

- ①全文通読・主題想定（1時間）
- ②内容精査（3時間）
- ③主題確認（1時間）
- ④表現—ワールド・カフェで話し合おう（1時間 本時）

4 教材観

何のために敬語を使うのか、使わないとどうなるのか。この教材は、私たちが現代の社会を生きていくために、なぜ敬語が必要なのかを新しい視点から示してくれる。自覚的に敬語を使おうとする意識を育てたい。

5 生徒の実態

男子15名、女子24名、計39名の情報コース。普段から授業に積極的な生徒が多く、挙手をして発言する生徒が何人かいる。問いかけに対して素直に考えようとする姿勢が見られるクラスである。

6 本時の計画

1) 本時の目標（付けたい力）

文章を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、相手の立場や考えを尊重し、互いの発言を検討して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。

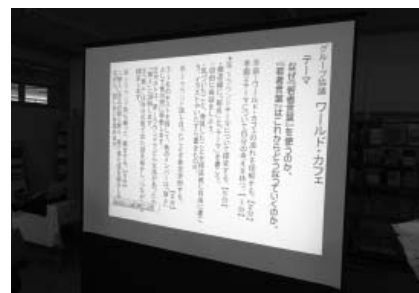
（参考：高等学校指導要領「現代文B」3 内容（2）言語活動例 エ 課題を探究し、成果を発表したり編集したりする言語活動）

2) 手立て（取り上げる言語活動）

ワールド・カフェ & KP法（紙芝居法）

3) 指導計画

- (1) 本時の目標を確認する。(2分)
- (2) 課題について考える。(3分)
- (3) グループ討議をする。(20分)
- (4) グループで話し合ったことを発表する。(15分)
- (5) 本時の振り返りをする。(5分)






テーマと流れを確認

《参考》本文要約

他者を認め、他者との距離を再確認するため、敬語の存在を自覚すべきだ。

日本ではかつてとは逆に共通語が家庭を支配し、若者は自己を濃厚に語るために限られた範囲で通用する方言（若者言葉）を求めようになった。主張すべき自己が肥大し、「他者」の存在が希薄となった結果、「他者」への説明という機能を失った日本語、ひいては日本の社会は大きく劣化した。他者の存在が希薄な、自己だけが主張される社会を修復するには、「他者との距離」を設定する敬語への自覚が必要である。

4) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 2分	(1) 本時の目標を確認する。 「自分の考えを深めたり発展させたりする力を身につけよう」	・本時の目標（付けたい力）を提示する。（p・p） ・テーマを提示する。（p・p）	・学習に向かう姿勢ができているか（A）
展開 43分	(2) 課題について考える ・テーマ「なぜ『若者言葉』を使うのか。『若者言葉』はこれからどうなっていくのか」について、自分の考えを持つ。 ・ワールド・カフェの流れを確認する。 【5分】	・課題については事前に知らせておく。 ・ワールド・カフェの実施方法についても事前に説明しておく。 ・模造紙を各班に1枚ずつ配布しておく。	・テーマについて自由に話し合えているか。（B） ・会話を楽しんでいるか。（A）
	(3) グループ討議（ワールド・カフェ） ①準備 4人グループになる。 ②第1ラウンド テーマについて、探求する。【5分】 ・テーマについて自由に会話をし、気づいたこと、発見したことを模造紙に自由に書く。イラストやいたずら書きもOK。 ③第2ラウンド アイデアを他花受粉する。【5分】 ・1名のホストを残して他のメンバーは「旅人」として他の班へ移動する。 ・ホストは第1ラウンドでどんな話があったかを「旅人」に説明する。 ・「旅人」は自分の班で出た話を紹介し、つながりを探求する。 ④第3ラウンド 持ち帰って統合する。【5分】 ・「旅人」は元の班に戻り、旅で得た話を紹介し合いながら話し合いを深める。	「カフェ・エチケット」 ・テーマに意識を集中して話し合しましょう ・あなたの考えを積極的に話しましょう ・相手の話に耳を傾けましょう ・遊び心で、用紙にいたずら書きをしたり、絵を描いたりしましょう ★会話を楽しみましょう	
	(4) まとめ【5分】 ・各自、最も印象に残った話を付箋に一つ書く。（キーワードで。今思いついたことでもOK） ・各班で付箋をグループ分けし、何か浮かび上がってくるものはないか話し合う。 ・話し合った内容をA4用紙1枚に一つのキーワードで、2～3枚にまとめる。（最大10文字。大きく、見やすく）	 班名を模造紙に書いて準備	
	(5) 各班で話し合ったことを発表する。（KP法）【15分】 ・各班1分以内で、A4用紙をホワイトボードに貼りながら発表する。 ※各移動時間3分	・A4用紙を各班に3枚ずつとマジック1本、付箋を一人に3枚ずつ配布する。  第1ラウンド 話し合う  第2ラウンド 他花受粉	・KP法を用いながら効果的に発表することができたか。（B）
まとめ 5分	(6) 本時の振り返りをする。 ・気づいたこと、身についた力を確認する。		・本時の目標についての振り返りができたか。（A）

【評価の観点】 A 関心・意欲・態度 B 話す・聞く能力 C 書く能力 D 読む能力 E 知識・理解

○反省点

- ・ラウンド毎の話し合いの時間が5分では短かった。(10分は欲しいところ)
 - 50分という限られた時間の中で、発表・振り返りの時間を確保するためには仕方なかった。
- ・テーマ設定に違う切り口がなかったか。話し合いに深まりや、広がりがなかったのではないか。
例：・秋田を活性化するためにはどうすればいいか。
 - ・税について ～ 日本の税をどうすればいいか。(石田先生アピール授業 知識構成型ジグソー法)
 - 評論文の発展学習という位置づけだったので、テーマが限られてしまった。
- ・余計な声かけが多かったのではないか。生徒の話し合いに耳を傾ける余裕がなかった。
- ・発表・振り返りまで、予定したことは一通りできたのは良かった。
- ・準備のこと、生徒の動きのことを考えると、図書館で実施できて良かった。教室で実施したクラスもあったがやりづらかった。

○工夫した点

- ・生徒のグループ分け。2ラウンドは、1ラウンドのメンバーがそれぞれ違うグループに移動しなければならないので、誰をどこに移動させるか。また、人間関係に配慮が必要な生徒がいたので、うまく話し合えるメンバー構成になるよう、あまりわざとらしくならないよう、それとなくグループ分けした。
- ・「本時の目標」が常に目につくように、スクリーンとホワイトボード両方に提示した。

○生徒の反応（振り返りシートより）

- ・一つのことについて深く考える力や、人に自分の思っていることを伝える力が身についた
- ・普段は特に疑問を持つことのないテーマに焦点を当てて議論することで、日常生活を見つめ直し、整理する力が身についた。
- ・自分の考え以外にも、他の人の意見を否定せずに聴くことで自分の考えをより深めることができた。
- ・いろいろな意見を聞いて、考えを広げていく力を付けることができた。
- ・他人の考えから自分の考えを発展させていくという能力が身についた。
- ・自分の意見と周りの意見とを比べて、共通点や違いを見つけられる力が付いた。また、話題を膨らませることができた。
- ・グループで考える力、他のグループに伝える力、自分の意見を伝える力
- ・あまり話さない人ともこのきっかけで話すことができ、意見を交わしてコミュニケーション能力が少し身についた。
- ・今まで考えたことのないようなことを考えてみて、なぜ？ と追究する力が身についた。
- ・相手の言いたいことを聴いて正しく理解する力
- ・積極性、協調性を学べた。
- ・話し合う楽しさや、会話の重要性



付箋にキーワードを書く



KP法による発表



振り返り

特別支援教育コーディネーター研修

保健・教育相談部
保健体育科 加賀谷 大 輔

1 特別支援教育の推進について

(1) 特別支援教育の動向

平成19年4月、特別支援教育が法制化され、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において特別支援教育が実施されることになった。

特別支援教育に関する国内動向の中で、障害者の権利に関する条約に示された「共生社会の形成」に向けて、「インクルーシブ教育システム」の構築が課題としてあげられ、その解決に向けて特別支援教育の充実が必要となった。

～インクルーシブ教育システムとは～

障害のある者となない者が共に学ぶことを目指す仕組み。障害のある者が教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられていること、個人に必要な「合理的配慮」が提供されることが必要である。

～なぜ「今」インクルーシブ教育なのか～

少子化や特別支援教育の対象児童生徒が増加している現状であること、相互理解、認め合い、支え合いの心の育成が求められていることが理由である。このことにより、障害者に対する理解促進、差別・偏見の根絶などの気運が高まっている。

(2) インクルーシブ教育推進の課題

- ① 特別支援教育体制の充実強化（生徒指導との連動）
- ② 多様な生徒への指導の充実（集団に応じたユニバーサルな授業）
- ③ 入学選考における配慮や授業での支援（合理的配慮の蓄積と共有）
- ④ 交流及び共同学習の推進やボランティア活動の充実
- ⑤ 障害者理解教育の推進（多様性の尊重）

(3) 特別支援教育を行うための体制整備及び必要な取り組み

- ① 特別支援教育に関する校内委員会の設置
- ② 実態把握
- ③ 特別支援教育コーディネーターの指名
- ④ 関係機関との連携を図った「個別の教育支援計画」の策定と活用
- ⑤ 「個別の指導計画」の作成
- ⑥ 教員の専門性の向上

2 具体的な対応

(1) 実態把握

実態把握の方法には、聞き取りによる保護者からの情報、医療機関等からの情報、出身校からの引き継ぎ、対人関係や集団行動を含めた行動観察、検査による把握があげられる。

実態把握では、特に本人や保護者の心情に十分配慮することを留意しなければいけない。また、苦手な面だけでなく得意な面やうまくいっている面、好きなことなどを把握することも重要である。

(2) 「個別の指導計画」の作成

作成に努めなければいけない対象は、学習または生活上、特別な支援を必要とする生徒である。各校における教育課程、具体的に指導目標や内容、方法を盛り込んだ計画となる。

保護者の同意は必要ないが、本人・保護者との十分な相談が必要となる。

(3) 発達障害への対応

① SLD（限局性学習症）

有効な支援：本人にあった学習・個別的な指導・声かけ

対応例：支援プリント・机間支援・個別学習支援

② ADHD（注意欠如・多動症）

有効な支援：集中できる工夫・話を聞く工夫・課題遂行の工夫

対応例：導入の工夫・手順表・自己評価法

③ ASD（自閉スペクトラム）

有効な支援：見通しを持つ・明確な伝え方・マイペースでできる

対応例：予定表・視覚的な手がかり・効果的な板書・ICTの活用

(4) ユニバーサルデザインの視点による学習支援

支援が必要な生徒にはないと困る支援で、他の生徒にはあると便利で役立つ支援のこと。

<焦点化>本時のねらい、活動の流れを絞り、内容をシンプルにする。

一つの指示で一つの課題を出す。

学習を細かいステップに分け、成功体験の積み重ねとする。

何をどこまでするのか、終わったらどうするか明確にする。

始めと終わりを示す。

<視覚化>色分け、手本や見本、模型や完成図を示してイメージを持たせる。

パネルやフローチャート、動作化、具体物を示して説明する。

学習過程が分かるように板書を工夫する。

注目させたい部分は強調して提示する。

<共有化>望ましい発言や行動を評価・賞賛する。

生徒の発言をつないで授業を展開し、ねらいに迫る。

個人の思考から集団思考へつながるように工夫する。

多様な方法で表出させる機会を設定する。

(5) 周囲の生徒への支援

どの生徒へも温かく接し、不公平感を抱かせない。また、支援対象の生徒と良い関係が構築できるよう支えていくことが大切である。

3 終わりに

本講習には、特別支援教育コーディネーターという立場ではないが受講させていただいた。授業や部活動等、様々な場面で様々な生徒への柔軟な対応が必要であるところ数年感じるが多かったが、具体的な知識がほとんどなかったため、多くのことを考えることができるよい機会となった。

協議の場では、「支援が必要な生徒に合わせることで、他生徒が不公平感を感じるのでは。」という質問が多かった。他生徒の理解を得て、お互いに尊重する力を身に付けられることが目標になると思われるが、今後も大きな課題になると感じた。

講習の中で、「困った生徒ではなく、困っている生徒である。」という担当講師の言葉が印象に残った。自分自身の考え方・生徒の見方を変えることで、生徒の成長が大きく変わってくると改めて考えることができた。

高等学校中堅教諭等資質向上研修を受講して

商業科 大久保 薫

1 センター研修について

I期	6月29日（金）	【開講式】中堅教諭等への期待 ○質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略 ○学校の危機管理 ○学校組織の一員として①－リーダーシップ－
II期	8月3日（金）	○多様な単元(題材)構想に基づく柔軟性のある授業展開 ○授業づくりと授業研究の実際
III期	9月7日（金）	○いじめの理解と対応 ○教育相談の考え方・進め方 ○気になる生徒の事例を通じた具体的対応の理解
IV期	10月23日（火）	○教育活動全体を通じたキャリア教育 ○学校全体で取り組む情報教育 ○豊かな自己形成に資する道德教育の在り方
V期	1月10日（木）	○教育公務員の服務 ○学校組織の一員として②－キャリアデザイナー－ ○これからの学校教育 【閉講式】中堅教諭等資質向上研修を終えるに当たって

研修講座を振り返り、特に印象深く考えさせられた内容はI期の「学校の危機管理」だ。学校にとって危機となる事象は、学習活動時の事故や生徒の問題行動など16分類あげられる。この研修が特に印象に残ったのは、私自身が常に、これらの危機が起こらないか不安に思いながら仕事をしているからだと思う。

「ちょっと変だな」「本当に大丈夫かな」という意識で周りの事象を見ることで、危機の芽に気が付き、独断と「ホウ・レン・ソウの省略」を防ぐことで未然防止の手を打ち、日頃から当たり前だといわれていることを、きちんと習慣としてやることで、いざというときに力を発揮できるということを再確認できた。これらのことはこれまでも意識して日々の業務にあたってきたが、これからも抜かりなく、自らに定着させ、危機に備えていきたいと感じた。

さらに深めたいと感じた内容は、I期の「質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略」だ。阿部昇先生の探究型授業のお話は、主体的・対話的な授業を作り出すための切り口を知ることができ、非常に勉強になった。私も日々の授業で、生徒をワクワクさせたり、感動させたり、夢中にさせたりできるように、教材研究を続け、発問や仕掛け等を工夫していきたい。

2 校外研修について（沓澤周悦税理士事務所）

第1日	8月6日（月）	8：30～12：00	税理士の仕事について聴く
		12：00～13：00	休憩
		13：00～17：30	業務の補助をする
第2日	8月7日（火）	8：30～12：00	総務部の仕事について聴く
		12：00～13：00	休憩
		13：00～17：30	総務部の業務を補助する
第3日	8月17日（金）	8：30～12：00	巡回監査部の仕事について聴く
		12：00～13：00	休憩
		13：00～17：30	巡回監査部の業務を補助する

3 授業研修について

日時	平成30年9月3日（月） 9：00～15：40
会場	湯沢翔北高等学校
日程	9：00～9：20 受付
	9：20～9：30 開会行事
	9：30～10：35 授業準備等
	10：45～11：35 授業実践、授業参観
	11：45～12：35 授業実践、授業参観
	13：10～15：30 協議
	15：30～15：40 閉会行事

湯沢翔北高校の1年生に、ビジネス基礎の授業を行った。単元は金融業についてで、中でも銀行の業務に焦点を絞って授業展開をした。学習指導案作成時に野呂田指導主事からご助言いただいたことは、「生徒が授業を受ける前と受けた後にどのように変わってほしいか考えてほしい。」というアドバイスだった。

それを受けて、「生徒が、銀行の業務が自分や世の中にどう役立つか考えられるようになり、世のため人のために働く職業観へつなげてほしい。」という想いで指導案を作成した。

授業を終えて行われた協議では、参観者や指導主事から沢山のご意見や質問、アドバイスをいただいた。今後身につける技術は、「生徒の発言を引き出したら本時の目標につなげていく」「生徒の意見を全体で共有する場面をつくる」「あいまいな指示はしない」の3点に絞ることができた。

4 おわりに

採用からの11年間は、ただひたすら学び、また周囲に育てていただいた期間だったと思う。11年が経った今、自らの教師としての色が見えてきたような気がする。それは、この期間に様々な経験を経て、自らのできることとできないことを知ったことでもある。教育は、教員の人間性や天性のものがベースになる職業であり、そのために教員は自らに向き合い、常に自己研鑽をし、人間性や技術を磨いていかなければならないと感じている。今後は、中堅教諭という自覚を持ち、自らを磨き、おごり高ぶらず、腐らず、生徒や保護者、地域の方々、同僚、管理職など、関わる全ての方から信頼を得られるように一つ一つ丁寧な仕事をしていきたいと思う。

校内年間研修報告書

秋田市立秋田商業高等学校

研修教員：大久保 薫（商業科・2年F組担任） 校長：石井 潔

実施月日 (曜日)	研修内容	研修方法・ 形態	全体・個 別の区別	時間割内・ 放課後の別	研修 時間	研修指導者	
4 13 (金)	中堅教諭等資質向上研修 の進め方について	共	一般研修	個別	放1	1	研修主任
5 30 (水)	小・中・高・特別支援学 校 連携協議会出席	共	授業研究	全体	内(5)	1	主催者
6 11 (月)	教材研究と指導案の作成	教	授業研究	個別	放1	1	商業科主任
13 (水)	教材研究と指導案の作成	教	授業研究	個別	放1	1	商業科主任
14 (木)	教育目標の達成と学校経 営について	マ	一般研修	個別	内(5・6)	2	校長
15 (金)	教材研究と指導案の作成	教	授業研究	個別	放1	1	商業科主任・教頭
18 (月)	授業実践に基づく授業研究	教	授業研究	個別	内(3)・放1	2	教頭・科員・他教 科員
19 (火)	校内研修「高大接続改革 について」	教	講話	全体	放1	1	外部講師
21 (木)	授業参観と助言	教	授業指導	個別	内(1)・放1	2	商業科主任・科員 ・教育実習生
22 (金)	授業参観と助言	教	授業指導	個別	内(1)・放1	2	商業科主任・科員 ・教育実習生
25 (月)	高校教育の現状と課題	共	一般研修	個別	内(5・6)	2	教頭
7 9 (月)	保健室利用の実態について	生	一般研修	個別	内(6)	1	養護教諭
17 (火)	教育課程の編成・教務内 規について	マ	一般研修	個別	放2	2	教務主任
25 (水)	本校の生徒指導と現状	生	一般研修	個別	内(5)	1	生徒指導主事
27 (金)	学年経営および個人面談 の方法	生	一般研修	個別	内(5・6)	2	学年主任
8 9 (木)	全国高等学校情報教育研究会 全国大会(秋田大会)参加	教	授業研究	全体	内(2・3)	2	主催者
23 (木)	教材研究と指導案の作成	教	授業研究	個別	内(5・6)	2	教頭
27 (月)	教材研究と指導案の作成	教	授業研究	個別	放1	1	教頭
9 13 (木)	選択研修の成果と課題	選	一般研修	個別	放1	1	校長・研修主任
11 12 (月)	教材研究と指導案の作成	教	授業研究	個別	放1	1	商業科主任
13 (火)	教材研究と指導案の作成	教	授業研究	個別	放1	1	商業科主任
21 (水)	授業参観と助言	教	授業指導	個別	内(1)・放1	2	他教科員・教育実 習生
22 (木)	授業参観と助言	教	授業指導	個別	内(1)・放1	2	商業科主任・科員 ・教育実習生
26 (月)	授業実践に基づく授業研究	教	授業研究	個別	内(3)・放1	2	教頭・科員・他教 科員
26 (月)	授業指導方法について	教	授業指導	個別	内(5・6)	2	教頭・科員・他教 科員
1 15 (火)	校内研修「授業のユニバ ーサルデザイン」	教	講話	全体	放1	1	外部講師
23 (水)	部活動・生徒会活動の運 営について	生	一般研修	個別	内(3)	1	特活主任
28 (月)	進路指導の現状と課題	生	一般研修	個別	放1	1	進路指導主事
2 4 (月)	特定課題研究のまとめ	生	特定課題研究	個別	内(5)・放1	2	研修主任
7 (木)	P T A・地域との連携に ついて	マ	一般研修	個別	内(3)・放1	2	総務主任
15 (金)	特定課題研究の成果と課題	共	一般研修	全体	放1	1	校長以下全員

実施日数 合計	研修方法・形態別の研修日数(時間数)					時間割内研修 時間計(a)	放課後研修 時間計(b)	研修時間 合計(a+b)
	講 話	授業研究	授業指導	一般研修	特 定 課題研究			
30	2 (2)	11 (15)	5 (10)	12 (17)	1 (2)	24	22	46

選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教諭・大久保 薫
研 修 先	沓澤周悦税理士事務所		
研 修 期 間	平成30年8月6日(月)～8月7日(火)・8月17日(金)		
<p>1 研修の概要</p> <p>1日目は、所長の沓澤さんから税理士業務やご自身の職業観、人生観についてお話を伺った。2日目の午前中は、税理士の岩井さんから巡回監査の仕事内容について説明をいただいた。午後は、クライアント企業の入出金伝票をF Sシステムを使ってデータ処理をした。3日目の午前中は、職員の小松さんから事務代行の業務についてお話を伺った。午後は、クライアント企業の入出金伝票をF Sシステムを使ってデータ処理をした。</p> <p>2 研修の成果</p> <p>税理士業務は主に、税務代理・税務書類・税務相談の3つであり、7名の従業員で100社ほどクライアントを抱えているということであった。税理士法で、宣伝や看板の設置の規制があるため、顧客は口コミで確保しているようだ。今抱えているクライアントのほとんどが、事務所設立当初の顧客であり、顧客数は増えているわけではなく、秋田の景気現状からむしろ減少傾向にあるということであった。税理士試験の合格率は約15%で難関試験である。5科目に合格しなければならず、長期にわたって勉強を継続していく必要があり、年齢層は20歳代が0.6%、40歳代が17.1%、60歳代が30.1%、80歳代が10.4%ということであり、年齢層が高いことが窺える。実際は、税理士試験で合格していく人はごくわずかであり、税務職員を退職した人が税理士になっている場合がほとんどであるようだ。一方で、従事年数が40年に達するベテランが多く、生涯にわたり長く続けることのできる職業であることもわかった。</p> <p>社内の業務のほとんどがコンピュータ処理で行われており、現在は栃木県にサーバーがある、TKCシステムを採用して税務業務を行っている。クライアントの会社にもF Sシステムをインストールして伝票入力からデータ処理ができるようになってきており、月1回の巡回監査時にそれらをチェックし、TKCにデータ送信すると、本部が正式な精算表を作成する仕組みになっている。この方法によると、サーバーにデータが蓄積されて顧客のデータを一元管理できたり、事務所にいながらにして顧客の帳簿がチェックできたりするメリットがある。</p> <p>本校生徒が大学進学後に、税理士や公認会計士を目指して帰郷する夢をもっていることを話すと、秋田で公認会計士として仕事をしていくことは、大企業が少ないため厳しいが、税理士業務を仕事として活動するなら可能だろうということであった。</p> <p>沓澤さんから、「仕事はゼロからのスタートであり、幸せは自分で作るものである。人生の目的や目標がないと生き残れない。仕事は我慢してやるか、本腰を入れてやるかは本人次第であり、我慢できなければ、去るのみである。医者みたいに、自分でしかできない仕事をするべきである。」という様々な考えを教えていただき、仕事や人生へ果敢にチャレンジする気概について学ぶことができた。</p>			

(A4判1～2枚程度)

特定課題研究レポート

所属校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教諭・大久保 薫
研究分野	A：本県の教育課題に関する研究 B マネジメントに関する研究 C：生徒指導に関する研究 D：教科等指導に関する研究 E：道徳教育等に関する研究 F：特別活動に関する研究 G：総合的な学習の時間に関する研究 H：特別支援教育に関する研究 I：その他		
研究テーマ	ホームルーム活動において、一人一人が成長する学級経営方法を研究する。		
<p>1 研究の概要</p> <p> 昨年の3月31日、新年度が明日からという土曜日に、「T O S S 教え方セミナー i n 秋田」という研修会に参加した。熱意ある教員が来県し、学級開きや学級経営について、自らの経験をもとに講演が行われた。参加者は主に小中学校の先生で、10数名の参加者であった。</p> <p> その研修も踏まえ、今年度は主に六つのことに取り組んだ。一つ目は、クラスのルール作りと担任としての思いを伝えることである。クラスルールは、研修からヒントを得て、「全員参加・全員全力・全員成長」と決めた。始業式のホームルームで、クラスルールを説明し、「昨年までのことは引きずらず、新たな気持ちで行こう」という考えを伝えた。そして、学級通信第1号の配布とルールの教室掲示を行った。</p> <p> 二つ目は、クラス目標の設定である。4人グループになり、話し合いをさせて生徒に決めさせた。目標は「復活のF」となった。</p> <p> 三つ目は、個人目標の設定である。学年目標を踏まえた三つの項目「集団活動」「学力向上と資格取得」「進路実現に向けて」について、学期ごとに個人目標の設定と振り返りを行う場面を作った。</p> <p> 四つ目は、クラスでの役割を少人数制にしたことである。生徒会やクラスの役割、掃除の班を少人数にすることにより、仕事がない人、掃除をしない人などを作らず、クラスでの役割や貢献度などを感じるように配慮した。</p> <p> 五つ目は、考査のたびに発行する学級通信にて、成績上位者の平均点、朝の学力テスト全回合格者、皆勤者などを掲載し、努力する者を見逃さず、称えるように配慮した。</p> <p> 六つ目は、生徒同士のコミュニケーションの促進をはかることである。3年次にはクラス内にたくさんのリーダーがいるように、様々な生徒にリーダーとなるチャンスを作った。あえて室長と副室長は希望者がジャンケンで決めた。まだ互いを知らない状態で、安易に人気や遠慮などで決めてほしくないという意図である。また、行事の際には係の生徒が議事進行を務め、誰でもリーダーを務める経験と、周囲が受け入れる雰囲気を作るように配慮した。</p> <p>2 成果と課題</p> <p> 主な行事は、常に全員参加できた。遠足、球技大会、芸能発表会などの行事のたびに集合写真を撮るが、最後の行事の芸能発表会では、黒板にリーダー役の生徒への感謝のメッセージがあらかじめ用意されており、生徒同士のコミュニケーションが円滑に行われていると感じた。球技大会バレーボール2位、芸能発表会ダンス3位、朝学習の全回合格者7名、皆勤者18名（内10名通年皆勤者）※2学期末時点という結果であった。</p> <p> 今後はQ-Uアンケートや観察などにより、生徒のおかれているクラス内での立場などを把握し、その上でクラスでの一人一人の役割を充実させ、リーダーシップがとれる生徒を多数育成できる手立てを研究したい。また、ホームルーム活動でキャリア教育の充実を図る手立ても研究したい。</p> <p style="text-align: center;">（A 4判1～2枚程度、研究にかかわる資料等があれば添付すること）</p>			

ビジネス基礎 学習指導案

日 時 平成 30 年 9 月 3 日 (月)
対 象 湯沢翔北高等学校 1 年 B 組
場 所 1 年 B 組教室
指導者 大久保 薫

1 単 元 名 第 3 章 ビジネスの担い手 6 金融業
使用教科書 ビジネス基礎 新訂版 (実教出版)

2 単元の目標 金融業の役割を理解し、金融機関の種類と活動をについて適切に表現できる。

3 単元と生徒

(1) 教材観 金融業は 10 代の生徒にとって身近なビジネスではないこともあり、銀行に的を絞った発問を工夫し、より自分のこととして考えられるように計画したい。

(2) 指導観 銀行の業務を理解することで、社会において金融業の役割を考えさせたい。また、生徒同士で考え、学びあうことにより多様な意見に触れさせたい。

(3) 生徒観 総合ビジネス科男子 11 名、女子 24 名の計 35 名のクラスである。明るく活気のあるクラスである。学習活動においても積極的に発言し、また疑問に思うことは互いに相談して解答を導くということが自然にできるクラスであることから、生徒の発言や学び合いの場面を積極的に取り入れ、主体的に取り組めるように工夫したい。

4 指導と評価の計画 (3 時間)

学習内容	指導項目	評価
第 3 章 ビジネスの担い手	第 5 節 物流業者 第 6 節 金融業者 第 7 節 情報通信業者	ビジネスの担い手の役割について 関心をもち、活動や動向を様々な角度 から考察し、意欲的に調べたり、まと めたりしようとする。(A・B) ビジネスの担い手について基礎 的・基本的な知識を身につけ、その活 動や動向について理解し、ビジネスの 担い手の役割について適切に表現で きる。(C・D)

評価の観点 A 関心・意欲・態度 B 思考・判断・表現 C 技能 D 知識・理解 ()は評価方法

5 本時の計画

(1) ねらい [評価の観点]

銀行の業務を理解し、金融業の役割を考察できる。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 5分	1 金融業について学習することを確認する。	○生徒との距離を縮めるために、自己紹介をする。	
	2 「100万円あったら、どう使うか」を考えて発表する。	○想定される意見（貯金、増やす、使う）と銀行とのかかわりを意識づける。	
	3 本時の目標を確認する。	○目標を掲示する。	
	目標：銀行の業務を理解し、金融業の役割を考察する。		
	4 プリントを受け取り、記名する。	○プリントを配布し、記名を指示する。	
展開 40分	5 銀行の三大業務について考える。	○銀行に行ったことがある人を挙手させて、何をしに行ったか聞く。	銀行の業務を理解し、金融業の役割を考察できる。 (B)
	6 「歌手のDVDを購入したら、自分のお金はどのように歌手に届くか」を考える。	○為替とは、離れたところにお金を届けることだと理解できるようにスライドとプリントを活用する。	
	7 銀行の役割を考え、お金の仲介役だということを理解する。	○金融とは資金を融通することだと理解できるようにスライドとプリントを活用する。	
	発問1：銀行はどのように利益を得ているだろう？		
	8 銀行の利益を計算し、貸出利率と預金利率の違いを理解する。	○グループ学習を指示し、進行状況に応じて助言を行う。 ○為替業務からも手数料を得て、利益としていることを説明する。	
	9 銀行の貸し出せる資金が不足すればどうするかを考える。	○銀行と日本銀行との関係に触れる。	
発問2：社会における金融業の役割とは何だろう？			
	10 貸出を受けた個人や企業はどのようなことに資金を使えるかグループで話し合い、まとめ、発表する。	○多様な意見に触れる場面を設け、金融業は豊かな社会を作る役割を担っていることに気づかせる。	
まとめ 5分	11 プリントに記入する。	○今日の授業で印象に残ったことをまとめるように指示する。	

平成30年度 第52回海外商業教育事情視察

商業科 櫻庭 咲子

1 概要

- (1) 視察国 インド
- (2) 視察期間
平成30年8月19日(日)～24(金)
- (3) 視察団員 14名

2 報告

8月19日(日) デリー 天候 曇り

ー成田からインド(デリー)へー

成田国際空港第2ターミナルに、中山理事長を団長とする海外商業教育事情視察団14名が、全国から集まった。出発に先立って結団式が行われ、中山理事長より「各都府県を代表して視察に向かうので、帰国後はそれぞれ都府県において、今回の視察で学んだことを多くの人に話してほしい。現地では様々な分野におけるグローバル化を肌で感じるとともに、海外から日本を見つめる機会にしてほしい」とのお言葉をいただいた。

飛行機は、ほぼ定刻に出発した。成田からインドまでの飛行時間は約7時間30分、日本との時差は-3時間30分、現地時間16時過ぎにインディラ・ガンディー国際空港に到着した。

8月20日(月) ニューデリー 天候 晴れ

ー視察研修① JETRO NEW DELHIー



滞するホテルから約30分バスに乗り、デリー市内に位置するJETROニューデリー事務所を訪問した。DIRECTORの古屋礼子氏から、「インドの最新政治経済と日本企業の動向」などについて、約2時間お話を伺った。

JETROニューデリーの主な役割は、日本の対インド投資(インドに新しく進出する企業)

とインドの対日投資(インド企業の日本進出)の支援などである。インドは世界第2位の巨大な人口を支え、気候や言語、食べ物、生活様式など、多様性に富んだ魅力ある国であるが、その一方で、国民一人当たりのGDPはまだまだ低く、インドにおける邦人数も極めて少ない。



インドの現政権、モディ政権は、インドの経済活性化に向け、高額紙幣の廃止や輸入関税の変更、メイ

ク・イン・インド、デジタル・インドと称した様々な改革を行っている。しかし、その一つであるGST(Goods & Service Tax、消費税のようなもの)などを導入したことで一時期、国内経済が下降したものの、今後も高い経済成長が予測されている。そのような中で、日本企業からは1,723百万ドル(2017年)の投資が行われ、日系企業、特にスズキやホンダといった自動車関連企業がインドに進出している。2017年の乗用車インド国内販売+輸出台数においてもスズキが43%のシェアを誇っている。インドはこの先も若年層の人口が継続して増加し、低所得者層も年々減少することが見込まれ、さらにはアフリカ市場への輸出拠点として最適であるなど、市場として大きな魅力があり、最近ではユニクロや吉野家など、自動車産業以外の企業も進出している。最後に、IT産業に携わる人材はインドの稼ぎ頭であり、数学的・論理的思考力も高い。IIT(インド工科大学)はIT人材育成の拠点であるが、競争倍率も高く、入学も難しい。また、大学卒業後もインド国内で就職できない場合もあり、それらの場合には大学、就職先、あるいはより高いスキルを求めてアメリカ、イギリスなどの英語圏を視野に入れる場合が多いという。インド人のフレキシブルな気質は、日本あるいは日本人技術

者の律儀で計画的な側面にそぐわない面も多いが、自己主張が強く、イノベーションに大変優れている。日本の若者はやや閉鎖的であるが、きっかけやチャンスをもっと有効に生かし、チャレンジ精神をもって欲しいと古屋氏からお言葉をいただいた。

ーデリー市内商業施設Ambience mallー

Ambience mallは、デリー市内にある巨大ショッピングモールで、スーパーマーケットから日本でも馴染みのあるハイブランドのショップ、フードコートやレストラン、映画館まで幅広く取り揃えた近代的な商業施設である。全長は1 kmにもおよび、セキュリティ面もしっかりとしているため、安心して買い物ができ、どの国にいるのかを感じにくくさせる新しく都会的な場所であった。私たちは主に多くの客で賑わっていた地下1Fのスーパーマーケットで土産などの買い物を楽しんだが、フロアに若い従業員が多数いたことが特徴的であった。経済発展が著しい反面、失業率の高さが問題となっているインドの経済事情にあって、この商業施設が若者の雇用の創出にも大きく役立っており、果たすべき役割は大きいと感じた。

ーデリー市内についてー

デリーの街は、北からオールドデリー、ニューデリー、サウスデリーの3つのエリアに大きく分けられる。観光の中心はニューデリー駅より東側一帯のオールドデリーとレストランやショップ、銀行などが集まる旅行客に人気のニューデリーである。インド門より南側のエリアでかなり広範囲に渡るサウスデリーには、緑豊かな公園が多く、オールドデリーとは対照的に閑静な雰囲気がある。

1 インド門



激戦を極めた第1次世界大戦の戦死者を弔うため、1929年に建てられた門。高さ42mの門柱には、9万人に及ぶ戦没者の名前が刻まれている。門から大統領官邸まで真っ直ぐ延びるラージバト通りが印象的であった。

2 クトゥブ・ミナール



インド最古のイスラム遺跡。ヒンドゥー教徒に勝利した記念として当時の王アイバクと、その後継者イルトゥミシュによって造られた尖塔である。遠くから見ると少し傾いているこの塔は5層構造となっており高さ72.5mもある。1～3層の柱にはそれぞれ異なる彫刻や形がデザインされている。またヒンドゥー教とジャイナ教の寺院を破壊し、その石材を転用して建造されたため、柱や壁にデザインされていたヒンドゥー教・ジャイナ教の神像は全て顔を削り取られていた。

3 ラクシュミー・ナラヤン寺院



北インドにおいては、数少ないヒンドゥー寺院のひとつ。寺院内は多数の神像が祀られており、日本と同じく神様の御利益によって訪れる人の層が違っても伺った。ラクシュミーとは、ヒンドゥー教最高神の1人ヴィシュヌの妻であり、美と豊穰と幸運を司る女神の名前である。視察時は年に一度のお祭りのために装飾やライトアップの準備が始まっており、お祭り当日は仕事を休み盛大にお祝いすることであった。寺院内はカメラ、携帯電話の持込みは不可となっており、入口のロッカーに預けなければならない。また、靴で入ることも禁止されているため、靴下もしくは裸足で入場する必要があった。

8月21日(火) ニューデリー 天候 晴れ

ー視察研修②

Faculty Of Management Studies

University Of Delhiー

1 インドの教育制度

インドの学校教育制度は、5・3・2・2の12年を基本としている。中等学校(10年生:日本でいう高校1年生)修了後、修了共通試験に合格した者は上級中等学校に進み、2年間専攻した

学問（理系・文系）の教育を受ける。その後、第12学年修了共通試験を受け、その結果によって希望する大学に進学する。なお、大学は文系・商学・科学などの3年制と技術系の大学の4年制がある。また、学校は、政府が設置する公立校と私立校があり、公立の初等教育（6歳～13歳：8年生）は義務化及び無償である。

2 デリー大学経営学部

「Faculty Of Management Studies University Of Delhi」

Sunita Singh Sengupta学長から、大学の現状や特徴などについて説明をいただいた。デリー大学は1922年に設立され、現在は16学部、80におよぶカレッジのある国立総合大学である。今回訪問したマネジメントカレッジは、1954年に設立されたインドで一番古い商業専門大学であり、毎年200名から220名（男女比率は、男子62%、女子38%）が入学している。大学では、専門（マネジメント）とあわせて、道徳やスピリチュアルについても教えており、専門分野の深化だけでなく、人間力の育成にも力を注いでいる。



また、教室にはICT環境が整っており、プロジェクタやオンラインを活用した授業が行われている。大学

課程終了後は、MBA及び博士課程のプログラムがあり、博士課程には毎年30名程度が進み、学びを深めている。また、このカレッジはインドでとても有名であり、卒業生は優良企業に入社している。学生に人気の職業は、ファイナンスやマーケティングである。

今回の訪問では、Sunita Singh Sengupta学長をはじめ、関係者の皆様が大変お世話になった。今後とも、インドと日本で連携をはかりながら、互いに学び合うことができる環境を構築できることを期待している。

一視察研修③ デリー商工会議所一

デリー商工会議所では、訪問早々熱烈歓迎を受け、記念品贈呈では理事長から東京オリンピックの法被を贈り、商工会側からは訪問記念の品物をいただき、大変友好的な雰囲気の中、視察がスタートした。



デリー商工会議所は1905年に設立され、草の根レベルの活動から、国内・国際連携に至るまで、幅広く活動をしている。通称PHD Chamber of Commerce（商工会議所）と呼ばれており、PはProgress（進歩・発展）、HはHarmony（調和）、DはDevelopment（開発）の頭文字を取って、商工会議所の主な方針を表しており、現在2,000以上の企業が商工会に加盟している。貧困対策等の経済的・社会的な問題に対しても大きく寄与しており、我々がインド視察した時期にインド南部のケララ州で大規模な洪水被害が出ていたが、そのサポートにも尽力しているとのことであった。

JETROやJICAと連携しながら、日系企業とも積極的に関わっており、今後日印の関係をさらに強化していきたいというビジョンのもと、インド人は今後さらに日本語を学ぶ必要があると話されていたのが印象的であった。



意見交換では、インドでは高校教育の中で特に商業教育というものは無いが、100%の学生がPCの学習を行っており、高校卒業後はたくさんのコースの中から将来の職業を見据えて学ぶべき学問を選択していることや大学卒業後に起業する場合は、中央政府が行っている新規ビジネスを立ち上げるためのスタートアップ教育プログラムに参加できると仰っていた。さらに、インド側からは日本はとてもきれいな国で、日本人は時間を厳守するだけでなく他者に対する優しさを持っているため、そのような倫

理観はどのように育成しているのかといった日本の「道德教育」についても大変興味があると伺った。

産業界においては、今後ますます日印の人的交流や関係強化がされていくものと感じたと同時に、日本で教育に携わる者として、グローバルに活躍できる人材育成の必要性を痛感した。

8月22日(水) ニューデリー 天候 晴れ

—視察研修④ 絆外国語学院—

学校の設立者であり、日本語教師(教育学、言語学博士)でもあるAditya Kumar Vijay(アディテヤ・クマル・ヴィジャイ)先生から学校概要、ご自身のこれまでの日本との関わりをお話いただき、後半は意見交換を行った。

この絆外国語学院は私設の外国語を学ぶ学校であり、多くはデリー市内の大学生が日本語習



得のために通っている。今は日本語のコースだけであるが、今年中に韓国語、ロシア語コースも開設する予定である。現在通学している学生は、日本のアニメや文化に興味を持つ学生もいるが、多くの学生は将来、日本企業やインドの日系企業に勤務したいという希望を持った大学生が日本語を学ぶために通っている。この学校は今年の10月で設立2年を迎えるが、多い時には100名を超える学生が在籍しており、個人で開設している学校としては人気の学校である。現在は58名の学生が在籍している。

インドのネルー大学、デリー大学においては日本語教育がもともと活発に行われているが、この学校に通っているのは商学部、工学部など言語学が中心でない学部の学生も将来日本企業への就職を考え、大学が終わった後夕方からこの学校で日本語を学ぶために通学している。これは、インドでは人口増加という社会課題があり、それに伴って根強い学歴社会となっているためである。また、インド国内でより良い条件で就職するためや、インドでの就職よりも日本での就職を行うために日本語を学んでいるとい

う状況がある。

この学校は語学教育だけではなく、ここで学んだ学生をアディテヤ先生の経営する別会社からインドの日系企業や日本企業へ就職の斡旋まで行っている点が他の語学学校との大きな違いである。アディテヤ先生は、この学校の経営のほか、人材紹介、翻訳・通訳の事業を展開しており、事業を通して日本との架け橋になりたいという意味を込め「絆外国語学院」と名付けている。その後の意見交換では、外国語をどのように習得するかという、日本人にとっての課題である英語学習についてやインドと日本の教育・文化、若者の意識の違いなどについて意見交換を行った。

8月23日(木) アグラ 天候 晴れ

—視察研修⑤ タージ・マハル—

世界遺産ということで毎日多くの人々が訪れるタージ・マハル。周辺もかなり整備されているのかと思いきや我々の宿泊したホテルを出ると一転して田舎の風景が広がり、道路状態の悪さも目立った。場内では筆記用具の持ち込みができず、ここでも嚴重な手荷物検査等があり、ロゴ入りのタオルも危うく没収されそうになった。入場の際、靴カバーを渡された。タージ・マハル内に入る時は土足厳禁で靴を脱ぐか、カバーをつけて入る。

1961年から22年の歳月と国が傾くほどの莫大な費用をかけて作られたタージ・マハル。赤砂岩で造られたメインゲートをくぐると、天界をモチーフにした庭園が広がり、その奥に靈廟タージ・マハルがそびえ立つ。膨大な白大理石でできた左右非対称なデザインはとても神秘的で、ムガル帝国皇帝の妻ムムターズ・マハルへの愛情の深さを感じた。当時のあらゆる専門家を集めた彫刻や書道は、どこを見ても素晴らしいものであった。現在はドーム部分の清掃が行われており、そこでも機械が使われていない。人の手によってその美しさが保たれているとのことであった。タージ・マハルを出ると、そこにはガンジス川の最大の支流ヤムナー川がある。そこからの風が気持ちよく、現地の人のように大理石の上に座ると、暑さが和らいだ気がした。この日はちょうどイスラム教のお祭りの日で、イスラム教徒は学校も仕事も休み、小旅行などに出かけるそうだ。そのため、多くの人で賑わっていた。



3 海外商業教育事情視察を終えて

野良犬や野良牛、野良豚が走り回り、クラクションが鳴り響くニューデリーで1週間ではあったが国の政策や課題、教育事情を知り、インド文化を肌で感じる事ができた。

インドでは今、「良い就職」のための受験戦争

が起きている。親は子の教育費を稼ぎ、子は親が自分に投資してきた分、それなりのポジションを望む。我が子に投資する国なのだ。超難関大学卒業後の「良い就職」、その後さらに条件の良い職へJOBホッピングする若者が支えるインドの強みは多様性である。約22言語が存在し、第2言語が英語のインドでは、何気ない日常生活や学校教育の中で自然に国際感覚を身に付けることができる。つまり、「外国人と仲良くなる」のではなく、「隣の人と仲良くなること」が本当の意味でグローバルなのかもしれない。

まずは行動して、課題があれば修正すればいいというポジティブなインドのお国柄にとっても刺激を受けた。

平成30年度 研修対象者・研究会等参加者一覧

【センター研修】

◎A講座（基本研修講座）該当者全員が受講する研修

7 実践的指導力習得研修講座 (3年研)	秋島 亜里紗	①6/28 ②8/24
17 実践的指導力向上研修講座 (8年研)	佐々木 絵里	①7/9 ②8/23
22 中堅教諭等資質向上研修 (旧10年研)	大久保 薫	①4/12 ②6/29 ③8/3 ④9/3 ⑤9/7 ⑥10/23 ⑦1/10
42 高等学校講師等研修講座	吉川 航平	10/2

◎B講座（専門研修講座）学校割当てに基づいて受講する研修

1 各教科等の指導における言語活動の充実	大関 由理	5/25
17 養護教諭が行うフィジカルケア研修講座	高橋 千里	7/31

◎C講座（専門研修講座）自主的に受講する研修

16 J T E E n g l i s h W o r k s h o p	工藤 裕文	7/4
28 心理アセスメント（WISC-IV）の活用	藤中 由美	6/27

【新教育課程説明会】

総則	木村 実樹夫 櫻庭 咲子	8/8
地歴・公民	今 聡	8/8
情報	柏谷 亜紀子	8/8
数学	木村 実樹夫 船山 毅	8/9
理科	高田 冬深	8/9
商業	櫻庭 咲子 村井 良裕 秋島 亜里紗 石崎 絵里香	8/9
国語	奥山 桃子 大関 由理	8/10
外国語	櫻田 洋子 石塚 禎子	8/10
家庭	佐々木ひな子	8/10
芸術（音楽）	鈴木 昌之	8/10
保健体育	菊地 亜紀	8/10

【商業科・将来構想委員会】

学校視察（富山県立富山商業高等学校・富山県立 高岡商業高等学校・大阪市立淀商業高等学校）	川村 寿紀 石田 雄哉	11/5~7
---	----------------	--------

【国語科】

学研・小論文対策研究会	奥山 桃子	6/7
全国高等学校国語教育研究連合会 第51回研究大会秋田大会 兼 第64回東北地区国語教育研究協議会秋田大会	近野 祥子 戸澤 恵 奥山 桃子 大関 由理	11/16~17

【数学科】

高教研数学部会研究大会	野呂 耕一郎	10/23
東北地区算数・数学教育研究大会 (仙台市)	野呂 耕一郎	11/2

【英語科】

外国語活動・英語担当教員指導力向上研修	戸田 潤子 菅生 あずさ	①6/8 ②8/1 ③11/1
高教研英語部会中央地区大会	工藤 裕文 戸田 潤子 石塚 禎子	10/17

【地歴・公民科】

高教研地歴・公民部会研究大会	小林 稔幸 吉川 航平	11/8
----------------	----------------	------

【中高連携関係】

小・中・高・特別支援学校連携協議会（勝平中学校授業参観）	加藤 雅人教頭 工藤 裕文 木村 実樹夫 奥山 桃子 柏谷 亜紀子 藤中 由美 小林 稔幸 大久保 薫	5/30 →中高連携部会参加
勝平中学校特定授業参観及び教科研究協議会	工藤 裕文 野呂 耕一郎 嶋田 平 大関 由理	10/31
勝平中学校2年生 商業科目授業体験	米澤 雅史 佐藤 和佳 柏谷 亜紀子 石田 雄哉 菅原 健太 藤原 一誠	2/13

【その他】

新任特別支援教育コーディネーター研修会	柏谷 亜紀子 加賀谷 大輔	①5/25 ②7/3 ③11/5
第52回海外商業教育事情視察（インド）	櫻庭 咲子	8/19～24
通級指導教員等専門性向上事業公開研修会	戸田 潤子	9/5
秋田高等学校授業研究会	工藤 裕文 大関 由理	11/8
高等学校における特別支援教育の支援体制の充実に向けた研修会	中村 隆敏教頭 戸田 潤子 高橋 千里	11/19
ユネスコスクール全国大会 持続可能な開発のための教育（ESD）研究大会（横浜市）	櫻田 洋子	12/8
秋田県教育研究発表会 講演会	大関 由理	2/8
若者の心理に関する研修会	奥山 桃子 高橋 千里	3/14

※免許更新開始 野呂 耕一郎 藤中 由美 高橋 伸友
秋島 亜里紗 佐藤 大 佐藤 綾子
〃 継続 今 聡

合計 41 / 52 名（延べ 80 名）

編集後記

研修部員から一言ずつ

研修部を担当し、アンケートの集計を行うことが多かったですが、集計する中で、授業改善に積極的な先生方が多いと感じました。今後も授業に役立つ研修に関わっていきたいです。

柏谷亜紀子

第1回職員研修における次期学習指導要領、高校生のための学びの診断、大学入試共通テスト、英語4技能、JAPAN e-Portfolio...勉強不足を実感しました。これを機会に自己研鑽をしていきます。

小林 稔幸

「ユニバーサルデザイン」をテーマにした第2回職員研修等を担当しました。時間は掛かりましたが、改めて内容をよく理解することができました。今後の学校生活に生かしていけたらと思います。

船木 祐輔

研修集録では授業公開週間についての記事をまとめました。私はこれまで同じ教科の先生がこれほどたくさんいる学校に勤務したことは無かったので、この機会を逃すまいと、商業科の先生方だけではなく他教科の先生方の授業をたくさん参観させて頂き、たくさんの刺激を受けました。この経験を来年度の授業に生かしたいと思います。

秋島亜里紗

今回の研修集録を通して、いろいろな研修を知ることができ、またいろいろな活用を知ることができました。授業公開週間、校内研修、中学校の授業参観などから、生徒の興味関心を引く授業や、アクティブラーニングなどの実践的な内容を参観することができよかったです。今後も様々な研修を経験し、活かしていきたいと思います。

嶋田 平

まずは、今年も無事、『研修集録』が発行できましたことに感謝いたします。例年以上にバラエティ豊かで充実した内容になっています。それもこれも、お忙しい中、原稿依頼に快く応じてくださった先生方のお蔭です。

今年度の「研修対象者・研究会等参加者」は、41名（昨年度23名）、延べ人数にして80名（昨年度36名）と、昨年度から倍増しています。ここからもわかるように、今年は先生方の熱意や行動力を改めて感じた年でした。恒例になりました授業公開週間では、先生方の様々工夫された授業実践を見せていただき、私自身も授業のマンネリ化打破を目標に1年間取り組んできました。秋商創立100周年に向けて、来年度も更なる躍進の年にしたいと思います。

最後になりましたが、寄稿して下さった先生を始め、本集録を手にとって下さった皆様に、心よりお礼申し上げます。

大関 由理





平成30年度 研修集録

発行日 平成31年 3月31日
発行者 秋田市立秋田商業高等学校
〒010-1603 秋田市新屋勝平台1-1
TEL 018-823-4308~9
FAX 018-823-4310
印刷所 社会福祉法人 緑光福祉会



校 訓

感謝

勤勉

鍛鍊